

學教史論

英國倫敦大學神學博士我維德著
日本大阪教育大學教正素山平山省樂閱評
卷中戶次 伯熊 小栗 柘音平譯述

一名 耶教史の實學としての展開

東京帝國大學出版部發行
愛國護法社

前關白近衛公題

理

爾高

長

前關白近衛公題

為宗

顯達尊嚴論

深仁忠與



前關白近衛公題

三

賤音吏有鬻敗由者徧國中莫
肯顧去而之他鄉之人爭買之
父老戒之不能適敗去之鄉
紳來謂曰衙賣官物國之刑
典因若原由里民愕眙志噤
棄以吏宗教之利害歷之于

西文而東方識者注之駁擊
有書之者概近妄信者或東
闕以為野蠻未聞之書類多
宋國哲士達勒已見民之若法
教理學與宗教之治革微詭
古今叢之源委亟復錄茲矣

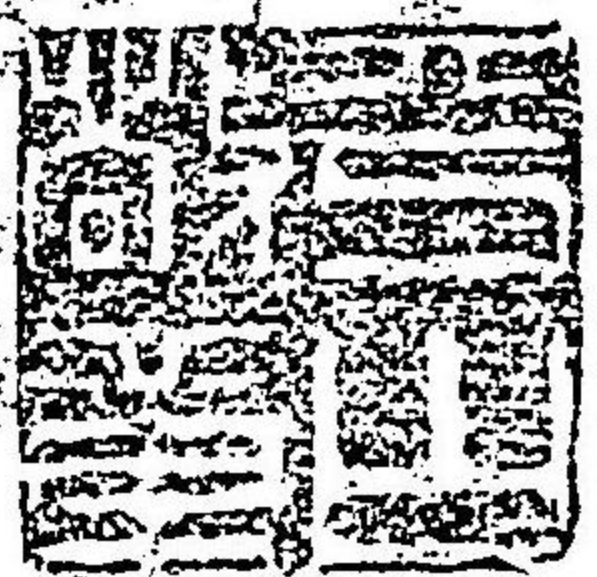
豐後人小栗梅庵平氏少長
志精力過絕欲譯述其書以
醒迷夢負笈千里游王慶應
義塾究其業三年乃始得之
索余閱章為見或信同其味
淫華游歐之日獲併譯善本

乃兩丞相容照始成金壁於
走牙囊金科玉條視者皆
或末學士及改事家所樂素
共為妾信者項門之一鐵亦
唐鄒紳翰墨人也如夫我
國體之尊嚴政教之宏深出

出於天神國祖而不可易
者今不復贅也

紀元二千五百四十二年三月

素山道人平山省齋識



香平子の書に對する序
香平子の書に對する序
香平子の書に對する序

學教史論序

吾の會友小栗栖香平子此書を翻譯を其志と全く正法を護持し外教を斥くるあり而して此書中論する所のもの誠に耶蘇教の非義を糾し能く其妄誕を排し言々句句悉く彼を妄信の徒をして省悟せしむるものありと雖も恨らくの論者の立義も我正法を以て是を觀れは眞實々理に達せざるものあり就中佛法を引て論ざる所の全く方便説にして尤も其皮相を取るに過ぎなきの香平子の此書を翻譯する未だ善美の擧と言ふへりざるに似ぬ然と雖も今時吾國人一概に西洋の説に歸向し是非善惡共に彼をの言ふ所を信を置く

ものかきば苟も此説よして彼を外教の妄誕を排し正道を導くの階梯と爲さぬる時の所謂賊馬に騎りて賊を逐ふものにして誠は善巧方便と云ふべし明治十六年冬十二月

鳥尾得庵志る

學教史論序

釋尊五十年横説豎説をたまへる所の經法は畢竟何を以てり主要とせばや予を以て之を觀るに唯世の謂ゆる宗教と道學とを擊碎して餘塵あらずとむるに在り然らば則ち佛法は道學に非は亦た宗教も非ざる歟然り佛法の眞學を以て眞教を發揮する者あり固より世の謂ゆる宗教と名け道學と稱する者も同しりさるあり蓋し學の學相あるは眞學に非は教の教相あるは眞教に非は釋尊夙より古來學教の未だ其眞を得ざるを哀み無爲實相の道學を修因とせしめて眞如無相の宗教を證果とせし先づ自ら之を修證して亦た能く一切

群生に修證せしむ其法甚深固より思議を絶し言詮を離る強て名けて阿耨多羅三藐三菩提と曰ふ夫れ世の謂ゆる道學宗教頗る多端あり然り而して宗教の尤も盛ある者を耶蘇教とかし道學の尤も精ある者を哲學とかし哲學又多端ありして演繹歸納其轍を同せしと雖も俱は是れ三世因果の定則あり依て一切諸法の原理を探求を其談論誠實學あり然れとも尙ほ是れ對待有相の邊際に滯滞して未だ曾て絶待無爲の眞理に達せしり而して耶蘇教諸派の妄浪ある固より天神造物の戲論に過ぎし夫れ未だ絶待無爲の眞理に達せざるの道學を以て妄浪戲論の宗教と相對峙し變遷進化の世間

に處して俱は其主義を擴張を抵觸軋轢せさらんと欲せし雖も豈得へけんや是れ米國博士戎維廉達勒巴兒氏の學教史論の撰ある所以あり我國古來幸は眞學を以て眞教を發揮する所の佛法を修證せり故に未だ曾て學教軋轢して智徳相亂るの弊あり然るに輒近泰西の諸道東漸し哲學を修むる者耶蘇教を信する者日に増し月を加えりて復た將は我國民人の智徳を亂さんとは是れ則ち小栗栖香平君の學教史論を譯述して我國民人の學示せざるを得ざるに至れる所以あり嗚呼亦た已むことを得ざる者と謂ふべき而已抑も哲學を未だ對待有相の區域を脱離すること能はざる雖も

序六 大内先生序

既₁是れ三世因果の定則₁依準₁するの實學₁あり況₁や我東京大學₁夙₁印度哲學₁の一科₁を置₁て佛法₁を生徒₁授₁く若₁能₁く之₁を誘導₁して百尺竿頭₁更₁一歩₁を進ま₁しむる者₁あらは未₁た頭₁を回₁らさ₁る₁早₁く是れ絶待₁無爲₁の眞理₁を了達₁し他₁の歐米哲學₁諸家₁をして愕然₁一驚₁を喫₁せしむるの日₁蓋₁遠₁き₁非₁さ₁る₁へ₁果₁して然ら₁も既₁是れ絶待無爲₁の眞學₁あり法界₁の諸法₁固₁より一塵₁も取捨₁をへ₁き者₁あること₁か₁耶蘇教₁妄浪₁ありと雖₁も亦₁是れ牛渡馬勃₁と共に藥籠₁中₁の一劑₁たり豈₁之と軋₁して智德₁を亂₁せ₁へ₁き者₁か₁ん₁や是れ乃₁ち世の謂₁ゆる道學₁と宗教₁とを擊碎₁し了₁れ₁るの日₁あり是₁れ於

て小栗栖君₁の此譯₁ある遂₁徒勞₁に屬₁せ₁へ₁然りと雖も能₁く我國₁の哲學₁をして歩₁を進₁る₁お₁此₁の如₁くからしむる者₁と實₁に我諸宗僧伽₁の力量₁如何₁に在₁り嗚呼我諸宗僧伽₁今日₁の力量₁果₁して能₁く小栗栖君₁の此譯₁をして徒勞₁に屬₁せ₁しむる₁お₁とを得₁へ₁き乎切₁に刮目₁翹望₁に堪₁ざる所₁あり乃₁ち之₁を書₁して序₁とす

明治十六年十一月新嘗祭の日東京麻布絶江の露堂₁に於て

藹々居士大内青巒撰

學教史論序

米人達勒巴兒氏所著學教史論。記理學耶蘇教紛爭之事。引證確實。議論精明。真有用之書也。蓋理學以物理爲基。宗教以神力爲本。是以其不相容。往往有如冰炭者焉。宗教之勢。焰尤熾。而其忌理學亦尤甚者。爲耶蘇氏。近時我邦。盛取歐米之制度文物。而耶蘇氏之教亦漸行。設使彼益蔓延。其利害未可測也。夫欲察乎將來。必鑒乎既往。欲鑒乎歐米之既往。莫如由達氏之書也。此書一出。千八百年間。耶蘇教之功罪判矣。頃者。小栗栖君譯此書。將公諸世。徵予序。達氏米國碩儒也。每著書出。歐洲諸國。爭譯以其文。予藏佛譯學教史論。欲翻以邦文。有年于此。而未果。小栗栖君此舉。可謂實

獲我心矣。因弁一言於卷首。

明治十六年癸未十二月 平山成信撰

小栗栖香平氏ハ舊ト慶應義塾ノ學生ニシテ頃日米國
達勒巴兒氏著ノ學教史論ヲ翻譯シテ之ヲ世ニ公ニセ
ントス蓋シ本書ハ宗教論中往々數理ニ支悟スルモノ
少ナカラサルヲ察シ學問ノ根基ニ據リテ駁論ヲ試ミ
タルモノナリ方今歐米諸國學問ノ次第ニ進歩スルニ
從ヒ宗教ノ數ヲ窺ハントスルハ當サニ然ルベキノ勢
ニシテ其進歩ノ步々恰カモ宗教ノ區域ヲ侵サル、ノ
有様ナレニ彼ノ宗教モ亦自カラ求メテ駁撃ヲ招クノ
罪ナシト云フベカラズ元來宗教ナルモノハ數理ノ外
ニ獨立シテ學問ノ數理ノ得テ説明ヲ下タスベカラザ
ル所ノ説明ヲ司トリ以テ一門戸ヲ張ルモノナレハ其

勢力ノ根源ハ數理ヲ説カサルニアルノミ然ルヲ當局者カ近年俗世界ニ學問ノ盛ナルヲ見テ之ニ驚キ遠カニ説ヲ作りテ學教一致ノ主義ヲ唱ヘ學問ノ數理ヲ引イテ自家ノ區域内ニ籠絡セントシテ却テ自カラ其本色ヲ傷ルガ如シ氣ノ毒ナルモノト云フベシ我業素ヨリ宗教熱心ノ者ニ非スト雖モ今ノ凡庸社會ノ爲メニハ亦其甚ダ要用ナルヲ知ル者ナレハ我日本國ノ宗教家ハ慎テ數理ニ近ツクコトナクシテ自カラ其安全ヲ保シ兼テ又下流人民ノ爲メニ依ル處ヲ失ハシムルナキヲ冀望ニ堪ヘザルナリ由リテ福澤先生前年ノ隨筆中ヨリ一節ヲ抄拔シテ序文ニ代フ 小幡篤次郎識

(前畧)數百千年來我國ニ於テ無智ノ小民ガ苟モ道德維持シタルハ宗教ノ信心與リテ大ニ力アリト云ハザルヲ得ズ今後モ尙ホ之レヲ破ラズシテ其舊ニ依ラシメ社會ノ進歩ト共ニ宗教モ次第ニ其裝ヲ改ルヲ許シテ唯其自然ノ働ニ任スルハ最モ平穩ナル方法ニシテ經世ノ利益少ナカラザルコトナラン(近來耶蘇宗モ漸ク我國ニ入ルノ萌アリ交通至便ノ世ニ在リテ我内國ニモ鐵道ノ敷設漸ク延長スルニ從ヒ遂ニ外國人雜居ノトモ爲ル可シ斯ル時勢ニ當リテハ耶蘇教ノ如キ之ヲ防クモ之ヲ導クモ到底人カノ及ブ所ニ非ザレバ唯人々ノ信心ニ任シテ政治

外ニ之ヲ放却スベシト雖也今ノ時其佛法ガ盛ナレ
ハ其佛法ヲ利用シテ可ナリ佛耶兩教ノ得失ハ本論
ノ關スル所ニ非ス抑道德ニ宗教ノ最モ適應スル所
ハ其數理ヲ説カサルニ在リ文明ノ理學次第ニ進歩
スルキハ人間万事コノ理ノ中ニ包羅セサルモノナ
シト雖也獨リ死生幽冥ノ談ニ至リテハ理學モ之ヲ
究ムルヲ得ス例ヘハ宗教ニテ未來ノ世界ハ有ルモ
ノナリト云ヒ理學者ハコレ無シト云フモ有テ証ス
ルコト能ハサル程ニ又其無テ証スルニ足ルモノナシ
宗教家ハ獨リ其有テ主張シテ三世ノ因縁ヲ説キ之
ヲ人情ニ訴ヘテ禍福ヲ示スモノナレハ理學モ之ニ

觸ル、ヲ得ス情ト理ト甚ダシク懸隔シテ各其標準
ヲ殊ニスルカ故ニ却テ滑ニ兩立スルヲ得ルモノナ
リ(中畧)宗教家カ空漠ノ際ニ幽冥ヲ説ク者ハ理ヲ以
テ之ヲ駁セントスルモ恰モ利刀ヲ以テ風ヲ切ルガ
如ク手ニ應フルモノナシ手ニ應ヘズノ自然ニ情ニ
感シ自然ニ身ヲ脩メ徳ヲ慎シムノ元素タル可シ士
人以下々流ノ人民ニハ宗教ノ信心ヲ養ハシムルコ
ト等閑ニ附スヘカラサルノ要ニシテ我輩カ常ニ我國
在來ノ寺院ヲ害スルコトナク政治ニ影響ナキ限リハ
勉メテ之ニ便利ヲ授ケ或ハ其托鉢勸化ヲ自由ナラ
シメ或ハ學校ノ建物ヲ説法ノ用ニ貸シ或ハ囚獄又

ハ海陸軍兵卒ノ屯所ニ僧侶ヲ聘シテ法ヲ説カシム
ル等至ク政治ニ離レ又理論ニ關セスシテ純然タル
德風ヲ無形ノ際ニ厚カラシメントナ冀望スルモ其
微意蓋シ此ニ在ルモノナリ西洋ノ宗教家カ其教義
ヲ説クニ當リ無理ニ之ヲ近代ノ進化論等ニ適合セ
シメントシテ往々牽強附會ノ譏ヲ免レサルハ人ノ
知ル所ナリ又日本ニテモ佛者カ西洋ノ書ヲ讀ミ近
時ノ文明學ト佛教ト相互ニ附會シテ相戾ルヲナカ
ラシメントスル者ナキニ非サレモ畢竟無益ノ勞ノ
ミナラス唯徒ニ宗教ノ弱點ヲ示スニ足ルヘキノミ
道德宗教ト物理數論トハ其性質ノ異ナルヲ男女ノ

如シ然ルヲ男子ニシテ女装シ女子ニシテ男子ヲ學
ハントスルハ自カラ求メテ自家ノ缺典ヲ摘發スル
モノト云フヘシ故ニ宗教道德ニシテ苟モ其生存ヲ
謀ラハ唯應サニ數理ノ外ニ逍遙シテ他ト論鋒ヲ交
ルナキヲ勉ムヘキノミ若シモ然ラスシテ妄ニ爭端
ヲ開キタラハ永キ年月ノ間ニハ遂ニ其教義ノ根底
ヨリ廢滅スルノ恐ナキニ非サルナリ

學教史論序

此書ノ主眼要目ハ諸大家ノ序跋及ヒ達氏ノ原序已ニ之ヲ尽クシテ餘蘊ナシ然ラハ譯者ニ於テハ毫モ序スル所ナキカ曰クナシ否佞令ヒユレアルモ拙論或ハ原著者ノ德ヲ汗スナキヲ保セズ故ニ之ヲ序スルハ之ヲ序セザルノ勝レルニ若カズサレバ予ハ只此書翻譯出版ノ緣起ヲ畧記シ以テ序文ノ責ヲ塞クベシ

此書ノ翻譯ハ明治十四年予西京ニアル比ロ之ニ着手シ畧其一半ヲ譯セリ後チ東都ニ來ルヤ病魔ニ苦シメラレ專心之ニ從事スルヲ得ザリキ偶々華族長谷君等愛國護法社ヲ創立シ我國教ノ振起ヲ計ラル、ニ會フ予

喜ヒニ堪ヘズ嘗テ譯セシ所ノ草稿ヲ取リテ之ニ示ス
 君之ヲ好ミシ予ニ囑スルニ之ガ全編ヲ譯成センコト
 ナ以テス予乃チ公務ノ餘暇ヲ以テ再ビ之ニ從事シ數
 月ヲ累テ之ヲ譯成セリ然レモ行文拙劣未ダ大方ノ
 一粲ヲ博スルニ足ラズ由リテ之ヲ友人華族園池實康
 君ニ詢ル君爲メニ之カ校閲ヲ平山大教正ニ乞フ大教
 正欣然之ヲ諾シ且ツ其賢息成信君ヲシテ每節之ヲ佛
 蘭西譯ニ對照シ其誤謬ヲ訂正セシメラレタリ國家教
 法ノ大幸ト云フベシ之ヨリ先キ予ハ米國紐育書肆「デ
 アブレントン」組ニ托シテ書ヲ博士達勒巴兒氏ニ贈リ其
 消息ヲ尋テシニ氏ハ昨年一月四日ヲ以テ晏然長逝セ

ラレタル由其息ダニアル達勒巴兒氏ヨリノ返信アリ
 嗚呼天氏ニ假スニ尙ホ二年ノ餘命ヲ以テセバ氏ハ予
 ガ此譯ニシテ若シ誤解アラハ之ヲ訂正シ之ヲ教指セ
 ラル、ナラン嗚呼死者復タ甦スハカラス豈哀シカラ
 スヤ今左ニ其往復文ヲ寫シ各之ニ譯文ヲ附シ以テ讀
 者ニ原著者ノ訃音ヲ報ス明治十六年十二月東京北神
 保町忘乎堂ニ於テ

君山 小栗栖香平識

Japanese translation of your work, as soon as it leaves the printer's hands, I shall feel obliged if you will condescend to communicate to me your full address. If you can possibly point out any errors which may be found in the translation after you receive the book, I will consider it as a great favour and will not fail to introduce necessary correction in the second edition.

I am, sir,

Your most humble and obedient servant,

Ogurusu Kohei.

Professor John William Draper, M. D., L L, D,
New York.

Be good enough to address me to :—

Ogurusu Kohei,

Care of General Post Office,
Tokio, Japan.

Tokio. 19th Aug. 16th year of Meiji (1883.)

Sir:—

Although I have not the honour of personal acquaintance of your illustrious self, I take the liberty to submit to you the following lines:—

I studied for years your famous work entitled "A History of the Conflict between Religion and Science." For the exulted sentiments and clear and convincing arguments, it is my humble opinion that the work is one which can be rarely found in the world, and my sincere belief that it can not fail to give an immense benefit to the public of Japan, led me to take liberty to translate it into the Japanese language, in spite of my knowledge and intelligence which may not be equal to the task. The translation I made, I kept to myself, lest the imperfect rendering does not fully and entirely convey the profound meanings of the original. However, by advice of a friend of mine, the translation has been put to the press, after thorough examination and correction by eminent authorities such as Messieurs Hirayama and Hirayama, one the High priest of the Shinto faith and the other, secretary to the House of Senate.

As I wish to be allowed to present one copy of this

右譯文

未接警咳候得共一書拜啓仕候時下盛暑難堪御座候處益筆硯御勇健之事と奉遙賀候扱小生儀尊著學教史論を捧讀する茲ふ年あり其論旨の卓絶ある其見識の高潤ある實に世間稀有之珍書にして公衆を益するの大なる事を信知候ふ付敢て自ら不才淺學を思ひを猥りに之を日本語に譯し候然とも翻譯之拙劣なる或は原書之深意を誤らんとを恐れて未だ之を公布するを欲せず候處友人某之紹介を以て平山大教正の閱評と平山元老院少書記官之訂正とを經たり因て此度出版着手罷在候條落成の上ハ壹冊郵呈仕度候間此狀着次第

乍御手数御住所番地等詳細御報道被下度候將又譯書御落手之上ハ誤解之箇所御矯正被下候ハ、次回再版之節夫々正誤可仕候也恐惶敬白

明治十六年(千八百八十三年)第八月十九日 日本東京 小栗栖香平拜

合衆國紐育府

醫學兼法學博士戎維廉達勒巴兒殿

追白御返書宛名之儀ハ左之通りハ相願候

日本驛遞局届

小栗栖香平宛

New York, September 13th 1883.

Dear Sir,

I have just received your letter of August 19th 1883.

It is with regret that I have to announce to you the death of my Father J. W. Draper, the author of "The Conflict between Religion and Science." He died on the 4th of January 1882.

May I ask you to send to me the Japanese copy that you intended for Father, I shall consider it a great favour, I have many of the seventeen translations of his work on "The Intellectual Development of Europe," and should consider it a great addition to have your edition of the Conflict &c, to place with them.

I am, Sir, Your humble servant

Daniel Draper.

Ogurusu Kohei Esq.

Care of General Post Office, Japan.

Please address,

Daniel Draper.

Director of Meteorological Observatory,

Central Park,

New York City, U. S.

右譯文

拜復千八百八十三年八月十九日之尊翰只今落手難有
拜見仕候然るゝ愚父即ち學教史論之著者戎維廉達勒
巴兒之訃音を貴君より御報道申上げざるを得ざるゝ誠
心苦敷事より奉存候同人の昨年(千八百八十二年)一月四
日死去仕候也然るゝ愚父へ御惠投可相成筈之和譯學教
史論之義の小生へ御惠與相成候義の相叶ふ間敷哉亡
父著述歐洲人智發達史の既より十七ヶ國之國語より翻譯
せらるゝ皆壹部宛小生手元より送り來り居候若し今般更
ゝ貴君御翻譯之學教史論御惠投被成下候の、一層之
光榮重大之増加と奉存候條前の十七部と共に永く珍

藏可仕候也頓首

紐育

ダニユアル、ドレバル拜

千八百八十三年九月十三日

大日本帝國驛遞局届

小栗栖香平殿

尙小生宛名の義を左之通り奉願上候也

合衆國紐育府中央公園地

氣象臺局長

ダニユアル、ドレバル宛

凡例

一 此書所論區域ノ廣大ナルハ天文、地質、心理、生理、論理、倫理、化學、數學、佛教、洋教、歴史、政治、經濟等百科ノ學事ニ涉リ、世間普通ノ書類ノ如ク、一二學科ニ限ルモノニ非ザレバ、博學高識ノ原著者ト雖モ、自ラ敢テ當ラズト云ヘリ、况ンヤ譯者ノ短才淺知ニ於テナヤ、故ニ各實學ノ特語ヲ用ウル所ノ如キハ、博ク百家ノ譯書ヲ獵涉シテ、譯例アルモノハ之ヲ用井軌轍ナキモノハ友人ニ詢リ、稍妥當ナリト思フモノヲ撰ンデ之ヲ譯セリ、然レモ尙ホ往々其當ヲ誤ルモノアルベシ、アラバ再版ノ日ヲ待テ之ヲ正サン、

一 冠評ノ中別ニ氏名ヲ記セズ、唯評ノ字ヲ以テ冠スルモノハ、皆平山大教正ノ評語ニシテ、佛譯ノ二字ヲ記スルモノハ、平山成信君ノ佛蘭西譯書ニ照ラシテ、其異同ヲ示サレタルモノナリ

一 書中人名ハ、其右傍ニ單柱「」ヲ施シテ之ヲ示シ、地名及ビ族名ハ、同シク其右傍ニ雙柱「」ヲ施シテ之ヲ示セリ、又書名ハ、其頭脚ニ「」ヲ施シ、譯シ難キ名詞及ビ突然他書ヨリ引用シタル語句ニハ、「」ヲ施セリ、其地名人名ニ、多ク漢字ヲ充テタルハ、讀者ヲシテ記憶シ易カラシメン爲メナリ

一 括弧（）内ニ一行ニ記セシモノハ、原著者ノ自注ニシ

二 行ニ記セシモノハ、譯者ノ注解ナリ、

一 書中ノ圈（○）批、（點）ハ、隨處其冠評者ノ加フル所ニシテ、其重圈（◎）點ハ、原文ノ羅旬語タルヲ顯ハスモノナリ、

一 此書ノ出版ハ、去ル六月ヲ以テ着手シ、當十二月ニ於テ了リタルモノナレバ、實ニ校正六ヶ月ノ久シキニ互レリ、其内ニハ、校正者ノ交代モ屢ナレバ、校正ノ体裁前後相同シカラザルモノアリ、例セバ、依リテ「ト」依テ「從」フテ「ト」從テノ類ナリ、又譯字ニ於テモ、前後相異ナルモノアリ、例セバ「宗教」ト「教法」信向「ト」信仰ノ如キ是レナリ、是等ハ皆再板ノ日ヲ待テ一定スヘシ

一東西ノ文法其体ヲ異ニスレハ、或ハ議論冗長ナルニ似テ、讀者ヲシテ厭嫌セシムル所アルヘシト雖モ、原著者ノ深意ヲ害センコトヲ恐レテ、片言隻語モ、勉メテ之ヲ譯出セリ、讀者幸ニ之ヲ諒セヨ、

譯者識

達氏原序

歐米兩洲上等社會人智ノ形勢ヲ知ル者ハ、其耶蘇教ヲ信ズルノ念、月ニ疎ク日ニ薄キヲ覺フベシ、中ニ就テ、其性淡泊ニシテ正直ナルモノハ、公然之ニ抵抗シテ、毫モ隱匿スル所ナシト雖モ、別ニ陰險怖ルベキモノアリテ、暗々ノ裏ニ、尙ホ一層甚シキ乖離ヲ促カスモノアルヲ見ルベシ、
其乖離ノ力タル、既ニ甚ク強猛ヲ逞クシ、侮辱ヲ與フルモ以テ之ヲ止ムル能ハズ、刑罰ヲ加フルモ以テ之ヲ抑ユル能ハズ、戲弄ト罵詈ト腕力ト、皆以テ之ヲ救フ能ハザルニ至レリ、其政治上ニ大變革ヲ生スルハ、蓋シ遠キ

ニアラザルベシ、
 教法ハ、最早其啄ヲ現世ノ治法ニ容ル、
 ノ爲メニ、軍ヲ起スノ弊モ漸ク消滅シ、
 紀念トナルベキモノハ、寺院ノ窖中ニ、
 セル、夫ノ十字軍戰士ノ白石像アルノミ、
 羅馬法王ハ、尙ホ歐洲三分二ノ信徒ヲ得テ、
 目代ト稱シ、政治上ニ无上ノ特權ヲ主張シ、
 シテ、再ビ、中古ノ制ニ依ヨシメンヲ冀ヒ、
 ナ蔑辱シ、大聲疾呼シテ、之ニ一致シ難シト公言スト雖
 其反對説ノ、日一日ヨリモ盛ニシテ、當ルベカラザル
 ノ勢力アルヲ見バ、自ラ耶蘇教ノ危急ニ迫ルヲ知ルベ

キナリ、

元來、神詭ヲ基礎トセル教法ハ、其性頗ル梗頑ニシテ、毫
 モ他説ヲ容ル、
 常ニ人智ノ進歩ニ由リテ生スル事物ハ、悉ク之ヲ擯斥
 排撃センヲ務ムルナリ、然シテ人智ノ進歩ハ、抵抗ス
 ベカラザル勢力ヲ以テ、間斷ナク、吾人定説ノ變化ヲ促
 セリ、是ニ依リテ、實學宗教ノ軋轢ハ、遠ク耶蘇教漸ク其
 威ヲ政治上ニ逞フセシノ日ニ起原シテ、世々連續セル
 紛争ト云フベキナリ、
 苟クモ心アラシモノハ、必ズ其一方ニ左祖セザルヲ得
 ザルモノナレハ、此ノ争議ヲ以テ、至要至重ノモノナリ

トスルモ、何人カ之ヲ過言ナリト云ハン、寔ニ至要至重ナリ、故ニ今日ニ方リテ、自ラ爲メニスル所アリテ、目前ノ小利ニ拘泥スル者ニアラザルヨリハ、必ス其眞理ヲ發見センヲ熱望シテ、兩黨ノ論主ト、其行爲トニ關シ、充分ナル確報ヲ得ンヲ欲スルハ、理ノ當ニ然ルベキモノナリ、

抑、實學史ナルモノハ、箇々相孤立セル、物理ノ發明ヲ集記スルニ止マラズシテ、寧ロ人智天賦ノ擴張力ト、妄信私慾ヨリ生スル壓抑力トノ二者、相軋轢スルノ狀ヲ記述セルモノトシテ可ナリ、

世上未ダ此史ヲ修ムルモノアルヲ聞カスト雖モ、此業

ノ管ニ活潑ナル好課題ナルノミナラズ、實ニ活潑中ノ至要ナルモノナルハ、決シテ疑ヲ容レザルナリ、數年前迄ハ、社會ノ平穩ハ、教法ノ信仰堅固ニシテ、方メテ望ムベキモノナリトシ、恣マ、ニ之ヲ攪亂セントスルモノアルハ、則チ之ヲ譴責シテ許スヲナク、頻ニ其爭ヲ未發ニ禦ガンヲ庶幾シ、徒ニ彌縫チ之務ムルヲ以テ、無上ノ政策ナリト思考セリ、然リト雖モ、信仰ハ梗頑ニシテ進マス、實學ハ活潑ニシテ留マラス、兩者ノ軋轢ハ、遂ニ之ヲ掩フベカラザルニ至レリ、此際能ク兩者ノ思想ニ通スルモノハ、職トシテ謹肅公平ニ、其爭點ヲ比較シ、叮嚀親切ニシテ、確實ナル觀察ヲ爲スベキナリ、

若シ斯クノ如クセズシテ、漫然其趣ク所ニ任セバ、言フニ忍ビザルノ慘毒ヲ社會ニ醸成スルハ、之ヲ史ニ徵シテ明知シ得ベキナリ、歐洲古代ノ神傳教法ガ其說不兩立ナルガ爲メニ、遂ニ其顛覆ヲ來セルニ當リテヤ、羅馬帝王モ、當時ノ理學者モ、輿論ノ先導者タルベキ適宜ノ處置ヲ施スコトナク、自然ニ放任シタルヲ以テ、其事悉ク無學狂癲ナル僧侶、浪士、寺官、奴隸等ノ手中ニ落テダリキ、

羅馬及ビ理學者等ガ其義務ヲ怠リタルヨリ、歐洲一タビ日没シタリト雖モ、人智ノ暗夜更漸ク尽キ、ナントシ、吾人ハ正ニ是レ東方白時ニアリテ、幸福世界ヲ待ツモノ

ナリ、社會ハ、其嘗テ漂泊セシ海路ヲ認シ、ガ爲メニ、頻ニ日光ヲ渴望スルモノ、如シ、蓋シ從來開化ノ舊航路ヲ轉シテ、更ニ不知ノ大洋ニ向フテ新路ヲ取リシハ、人ノ能ク知ル所ナリ、

予ノ此ニ感アルヤ、既ニ久シ、然リト雖モ、若シ多年ノ間、刻苦焦慮ノ之ニ關スル事實ヲ蒐集スルニアラズンバ、豈ニ輕々シク書ヲ著シテ、世ニ公ニスルヲ企テシヤ、予ハ數年前、歐洲人智開達史ナル者ヲ著シ、爾來亞米利加ニ於テ、數回改版シ、尙ホ歐洲ニ於テハ、英吉利、佛蘭西、日耳曼、魯西亞、ポーランド、セルビア、語等ニテ、翻版セラレ、到ル處、讀者ノ愛顧ヲ博セシカ故ニ、益、勉勵シテ、其業ニ

從事セシムヲ企テタリ、予曾テ〔米國內亂史〕ヲ著スニ當リテ、非常ノ勞力ヲ費シ、其材料ヲ蒐輯整頓シタルガ爲メ、不知不識、反對ノ兩說ヲ比較シ、其爭點ヲ整理スルノ熟練ヲ得タルヲ覺フルナリ、爾來、該書ハ米國公衆ノ賞賛ヲ得タルヲ以テ、予ノ自信ヤ益、厚キヲ加ヘタリ、且ツ予ガ、常ニ宇宙ノ顯家ニ注意シ、許多ノ論說ヲ出版セルハ、普ク世ノ知ル所ナリ、恐ラクハ、深ク學理ノ正直無私ナルヲ愛スル者ニアラザルヨリハ、授業ト著書トノ業ニ、殆ント其一生ヲ費スモノハアラザルベシ、蓋シ學理ナルモノハ、吾人ヲ鼓舞シテ、世益ヲ圖ラシメ、吾人ノ天壽將ニ尽ントスルノ際、

自ラ其一生ノ事業ヲ回顧シテ、徒爲空過ノ悔ヒナカラシメントスルモノナリ、予ハ本編ヲ編輯スルニ當リ、聊カモ勞ヲ厭フコトナシト雖モ、本編ノ區域タル、極メテ廣ク、究理、神學、歷史、政治、天文等、諸學ノ智識ヲ要スルモノニシテ、每紙必ス才力ヲ以テ語勢ヲ加ヘ、實事ヲ揭ケテ光輝ヲ増スベキモノナレバ、予短才、或ハ其當ヲ失フ者少カラザルベキヲ信ス、然リト雖モ、吾人ハ既ニ人智大改革ノ時ニ遭遇スルモノニシテ、今日ノ勢ヒ、必ス僧侶慾火ノ爲メニ激セラレ、又損害ノ及バントスルガ爲メニ勵マサレ、遂ニ一個ノ着實嚴肅ナル文字ノ起ルベキヤ明カナリ、然シテ本篇

ノ如キハ、則チ其前驅タルニ過ギズ、世上幾多ノ輕浮ナル著書ハ、文學大イニ開クルノ日ニ於テハ、忽チ爲メニ壓倒セララルベキナリ、予ノ期スル所ハ、兩黨相容レザル意見、及ヒ其行爲ニ就キ、公平無私ノ記事ヲ爲スニアリ、故ニ第一義ニハ、能ク其黨人ノ意思ヲ解センガ爲メニ、恰モ身ヲ其黨中ニ置ケルガ如クシテ、之ヲ述ベシヲ試ミ、第二義ニハ、一層思ヒテ高尚ニシ、自ラ遠ク論線ノ外ニ立ナテ、公平ニ之ヲ記センヲ勉メタリ、本篇ハ、例トシテ、初メニ宗教家ノ説ヲ記シ、次ニ其反對論ヲ載セタリ、予ハ毫モ畏懼ノ念ナク、兩黨ノ意見ヲ明記センヲ欲スルモノニシテ、

故ラニ其一方ヲ援ケントスルモノニアラザルナリ、世ノ本篇ヲ批評セントスルモノハ、幸ヒニ能ク之ヲ記臆セラレヨ、本篇ハ、平穩中庸ナル説ノ如キハ、強ク之ニ注意ヲ加ヘス、何トナレハ、夫ノ平穩中庸説ノ實價ハ、固ヨリ尊ムベシト雖モ、中立ノ讀者ガ、好テ知ラント欲スルモノハ、所謂平穩中庸家ノ説ニアラズシテ、極度熱心家ノ説ナリ、且ツ其結果如何モ、亦熱心者ノ舉動如何ニ因レバナリ、此理由ナルヲ以テ、本編ハ、耶蘇教及希臘教ノ兩大派ニ關シテ、別ニ多ク記スルヲナシ、彼ノ希臘教ノ如キハ、實學再興以來、徒ニ人智ノ進歩ヲ障礙セザルツミナラズ、

却テ之ヲ優待シ、其出所ノ如何ヲ問ハズ、苟クモ眞理ト認ムルモノアルキハ、悉ク之ニ崇敬ノ意ヲ表セリ、若シ訛宣ノ註解ト、實學ノ發見ト、甚シク懸隔背馳スルキハ、之ヲ一致和合セシムベキ良註解ヲ搜索シ來テ、能ク其希望ヲ滿タセシメタリ、若シ羅馬舊教ヲシテ、此クノ如クナラシメバ、現今ノ文明ハ、一層ノ高點ニ達シタルコトナラン、

單ニ耶蘇教ト云フキハ、概テ羅馬舊教ヲ指スモノナリ、コレ其信徒ノ、耶蘇教國ノ大半ヲ占ムルト、其希望ノ過度ニシテ驕傲ナルト、政權ヲ以テ其希望ヲ達セントセシトニ因リテナリ、新教ハ、舊教ノ如キ位置ニ立ナテ、廣大

ナル政權ヲ有ナシコトナク、且ツ常ニ壓制ヲ好マズシテ、一二回ノ外ハ、信教ノ爲メニ怨ヲ結ブガ如キコトナシ、實學ニ至リテハ、未ダ曾テ政權ト合從セント試ミタルコトナク、又曾テ社會ノ衰頹ヲ醸シテ、怨嗟ヲ買タルコトナク、其思想ヲ發表セシメ、其目的ヲ達セシメンガ爲メニ、人ノ精神ヲ惱マシメ、若シクハ其肉体ヲ苦マシムルガ如キコトナシ、況ンヤ人ヲ殺スニ於テナヤ、實學ナルモノハ、犯罪ト暴行トヲ以テ、其体ヲ汚辱セシコトナキナリ、之ニ反シテ、耶蘇教ノ如キハ、單ニ其教法裁判所ノ名ヲ想起スルモ、猶ホ人ヲノ悚然タラシムルニ足ルベク、大慈大悲(神ヲ云)ノ憐ミヲ乞ハンガ爲メニ捧ゲタル双手ハ、鮮

血淋漓トシテ之ニ滿ツルヲ見ルナリ、
凡ソ歴史ヲ編纂スルニ、其法ニアリ、一ヲ藝術法ト云ヒ、
一ヲ實學法ト云フ、藝術法ナルモノハ、人ヲ以テ事ノ淵
源ト爲シ、人アリテ初メテ事ヲ生スト説キ、人中ニ就キ
テ、有名的ノ者ヲ選ミ、想像ヲ以テ之ヲ修飾シ、以テ稗史
風ノ豪傑ヲ作爲スルモノナレハ、往々粲然タル文章アリ
テ、之ヲ一讀スルニ、快ハ則チ快ナリト雖モ、若シ其品
位ヲ論スルキハ、小説稗史ト間一髮ヲ容ル、アルノミ、
實學法ナルモノハ、世事ノ前後相續スルヲ、恰モ連環セ
ル鉄鎖ノ如ク、前事ハ後事ノ父母、後事ハ前事ノ子孫ニ
シテ、後事又後事ヲ生シ、其原因結果ノ關係ハ、人能ク之

ヲ統攝シ得ベキニアラス、人ハ却テ之カ爲メニ左右セ
ラル、モノナリト主張シ、人力ノ微少ナルト、事理ノ動
カスベカラザルトチ感悟セシムルガ故ニ、之ヲ見テ愉
快ヲ覺ヘザルノミナラス、或ハ厭嫌ノ念ヲ生スベキナ
リ、本編ノ如キハ、專ラ嚴肅鄭重ヲ旨トスルガ故ニ、稗史
流ノ事ハ、之ヲ記スルニ處ナシ、此編ヲ論スル者、宜ク宇
内ノ歴史ニ徴シテ、明ナル因果ノ鉄鎖ニ注意着目シ、法
王帝王政治家等ノ夢幻ノ爲メニ欺カル、コ勿レ、
藝術法ノ價ナキヲ証セント欲セバ、吾人ノ經驗親嘗ス
ル所ヲ説クヲ以テ足レリ、吾人最親ノ友人ニシテ、屢、吾
人日々ノ行爲ヲ見テ、其眞意ノアル所ヲ誤解シ、又將來

ノ目的ヲ誤察スルコトノ甚ダ多キニアラズヤ、目視耳聽
スル所、尙ホ且ツ此クノ如シ、况ンヤ數百年ノ昔日ニ生
存シ、曾テ其面ヲモ見サル人ノ行爲ニ於テチヤ、之ガ正
確ナル理解ヲ得ンコトハ、抑能ハサルノ業ニアラズヤ、
本編ノ諸章ヲ擇選整頓スルガ爲メニ、半ハ近世ヴハチ
カン公會ノ公告書ニ據リ、半ハ尋常歴史記事年月ノ前
後ニ據レリ、嘗テ希臘理學者ノ論究セシ、何チカ神ト名
ク、何チカ靈魂ト云フ、世界トハ如何ナルモノ、ソ、何物カ
世界ヲ統御スルヤ、吾人ハ眞理ヲ測ルベキ規矩準繩ヲ
持ツヤ、等ノ疑問ハ、今日吾人ノ論爭スル所ト、全ク相同
キハ、讀者ノ知了スル所ナルベシ、然シテ深沈ナル讀者

ハ、將ニ之ニ一問題ヲ加ヘテ云ハントス、曰ク吾人ノ解
說ハ、希臘學士ニ勝ルコトアリヤト、
本編ノ所論ヲ摘要セハ、則テ左ノ如シ、
近世ノ實學ハ、單ニ思考ニノミ依ラスシテ、注意經驗及
數理ヲ借ルガ爲メニ、古代ノ實學ト、大イニ其趣ヲ異ニ
セリ、其原因ハ、馬基頓軍ガ歐亞兩洲ヲ密接セシメシニ
アルヲ以テ、第一ニ其畧史ト、亞勒山德黎亞府博物館ノ
畧記トヲ掲ケテ、其性質如何ヲ知ラシメタリ、
次ニ三歳ノ童子モ知レル、耶蘇教ノ淵源ヲ簡單ニ記述
シ、其無上ノ勢力ヲ占有セシ事情、異教ト混同シタルガ
爲メニ生シタル變化、及ビ羅馬帝國ノ國教トナリタル

履歷ヲ記シ、其實學ト氷炭相容レザルガ爲メニ、遂ニ威
 カヲ以テ、亞勒山德黎亞府ノ諸校ヲ、壓滅スルニ至リシ
 ハ、其政治上ノ地位ヨリ已ヲ得ザル勢ナルヲ示セリ、
 右ノ如ク、兩黨ノ位置ヲ定メタル後、第一回ノ開戦ナル、
 第一宗教改革、即チ南部改革ナルモノヲ説ケリ、此改革
 ノ争點ハ、眞神ノ性質如何ニアリ、然シテ此改革ノ爲メ
 ニ、歷史上ニ有名ナル耶路撒冷、亞勒山德黎亞、加爾錫西
 等ノ諸府ト共ニ、亞細亞、亞弗利加兩洲ノ多クハ、耶蘇教
 ヨリ分離シ、當時羅馬帝國ノ占メタル過半ノ邦國ハ、獨
 一眞神教ヲ奉スルニ至レリ、回々教即チ是レナリ、
 亞刺伯領地中、到ル處實學再興シ、文庫及ビ大中小學等

ノ設立アリシハ、皆此改革ヨリ生セシ結果ナリ、勝チ此
 改革ニ制シタルモノハ、大イニ智識開達ニ熱心シ、神ヲ
 以テ人類ノ形容ニ比スルノ俗説ヲ排撃シ、曾テ印度ニ
 流行セルモノニ似タル、理學説ヲ主張ス、茲ニ於テ、靈魂
 ニ就テノ争論アリ、之ヲ第二回ノ争鬪ト云フ、此際亞比
 喇士氏ノ流轉還滅説ハ、大イニ其勢力ヲ得タリト雖モ、
 中古ニ至リテ、教法裁判所ナルモノ起リ、歐羅巴全洲ヨ
 リ此亞比喇士派ヲ追放シ、瓦底干公會ハ、公然該派ノ信
 徒ヲ擯斥セリ、
 天文、地理、其他百般ノ實學進步スルニ從フテ、地球ノ地
 位、及ビ其天体ニ對スル關係、并ニ世界組織如何ニ就テ、

稍正確ナキ説ヲ得タルニモ拘ハラズ、宗教家ハ依然トシテ、古來經典ノ正解トスル、大地ハ宇宙ノ中央ニ在リテ、其尤モ緊要ナル位置ヲ占メタリトノ説ヲ主張セルガ爲メニ、第三回ノ争鬪ヲ開ケリ、此時ニ當リテ、駕里良ト名クル人アリ、實學説ノ泰斗ト爲リ、大イニ寺院ノ説ヲ論破シテ顔色ナカシム、次テ世界ノ年紀ニ就キ争論ヲ生シ、宗教家ハ、其齡ヲ以テ僅ニ六千年ナリト主張セシト雖モ、亦忽チ其敗蹟ヲ招ケリ、
文運歐洲ニ回リテ、歴史及實學ノ光輝日ニ加ハリ、第十六世紀ニ至リテハ、羅馬耶蘇教ハ、實驗ニ據リテ得タル智識ニ背馳スルト、其政治上并ニ道德上ノ事情トニ由

リ、痛ク其勢力ヲ落セリ、其信徒中、或ハ當時耶蘇教ノ主張セル妄説ハ、其曾テ羅馬異教ト混同セルガ爲メニ得タルモノニシテ、固ヨリ其眞面目ニアラスト分疏シ、今ニシテ其純粹汚點ナキノ古ニ復スルノ必要ナルヲ説キ、遂ニ第二宗教改革、即チ北部改革ナルモノヲ惹キ起セリ、是レ即チ第四回ノ争鬪ニシテ、其主要ノ論點ハ、何ヲカ眞理ノ基礎トナス乎、寺院乎、將タ經典乎ト云フニ在リ、此改革ニ由リテ得タルモノハ、智識ノ自由ト、道理ノ權利トナリ、夫ノ有名ナル路得氏ハ、其意ノ如ク、充分ニ成功シ、羅馬耶蘇教ハ、其信仰ヲ、全ク歐洲北部ニ失ヘ

次ニ吾ガ遭遇スル争鬪ハ、世界管理法ノ論議ニシテ、神
 ハ常住不斷ニ、手ヲ下シテ之ニ干涉スルカ、將タ一定不
 變ノ法則アリテ、之レヲ統轄スル乎ト云フニアリ、是レ
 亞刺伯人ガ、既ニ已ニ、第十世紀、第十一世紀ノ間ニ於テ、
 達シタル論點ナルヲ、耶蘇教國ハ、今僅ニ達スルヲ得テ、
 曾テ亞刺伯ノ論題タリシ、醇化、創造、開發等ノ說ヲ再論
 スルモノナリ、
 斯クノ如ク、歴代ノ順序ヲ追フテ、學教争鬪史ヲ記述シ、
 尙ホ之ヲシテ遺漏ナカラシメンガ爲メニ、左ノ數章ヲ
 加ヘタリ

羅馬耶蘇教ハ、近世文明ノ爲メニ、何ヲカ爲セル、

又實學ハ近世文明ノ爲メニ、何ヲカ爲セル、

羅馬耶蘇教ガ將ニ迫ラントスル争鬪ニ對スル姿勢、
 眞理ヲ搜索スルニ熱心ナル人モ、多クハ其意ヲ專ラ教
 派争論ノ局處ニノミ注ギテ、予ガ此編ニ説クガ如キ、世
 々不斷ノ軋轢ニ至リテハ、之ヲ知ルモノ甚ダ稀ナリ、予
 ハ兩黨ニ就テ、公平無私ノ記事ヲ爲シ、毫モ事實ヲ隱匿
 セザランコトヲ肺肝ニ銘シタリト雖モ、果シテ能ク其目的
 ナ達セシト否トハ、一ニ大方博識者ノ高評ヲ待ツノミ

紐育大學ニ於テ

千八百七十三年十二月

戎維廉達勒巴兒識

學教史論總目錄

第一章 實學ノ起原

壹丁

耶蘇誕生前四百年代希臘國宗教形勢ノ事○希臘人波斯帝國ニ
攻入り造化ノ新奇觀ニ驚ク事 附 其種々ノ新宗アルヲ知ル事○
馬基頓遠征ニテ其實際ニ自得シタル軍旅、築城及ヒ文學等ノ進
歩ヨリ遂ニ亞勒山德黎亞府ニ廣大ナル博物館ヲ創立シ經驗、觀
察、數理論法ヲ以テ大ニ百般ノ知識ヲ開達スル事

第二章 耶蘇教ノ起原

五十三丁

羅馬共和政治ノ時世、宗教形勢ノ事○帝王政治ニ變シテヨリ獨
一眞神說ヲ尊崇セシ事○羅馬帝國ニ耶蘇教蔓延ノ事○耶蘇教
無上ノ權威ヲ得ル事 附 異教ト混同スル事○三位一體說及ヒ其
行狀ノ事○君子坦丁帝ノ大權ヲ握リシハ會耶蘇教ヲシテ品格

ヲ下サシメシ事○耶蘇教俗官ト一致同盟ノ事○耶蘇教ト實學トハ兩立スベカラザル事○亞勒山德黎亞府大學校破却ノ事附實學ヲ禁止スル事○埃額士丁派理學及ヒパトリステック理學要旨ノ事○經典ヲ以テ實學ノ基礎ト定メシ事

第三章 獨一眞神說ノ軋轢附 第一回即チ南部宗教ノ改革

埃及人處女馬利亞禮拜ヲ主張スル事○君子坦丁府ノ法教師長納士德此說ニ抵抗セシヲ帝王ノ威權ヲ以テ之ヲ流罪ニ處スル事附其門弟徒屬四散八布ノ事
南部宗教改革發端ノ事○波斯軍入寇ノ事附其德義上ニ於テ影響ノ事

亞刺伯宗教改革ノ事○馬哈默納士德派内ニ成長ノ事○馬哈默

納士德派ノ主義ヲ擴張シテ處女禮拜三位一體說其他獨一眞神說ニ背馳スル百般ノ典故ヲ厭嫌スル事○馬哈默腕力ニテ偶像教ヲ亞刺伯ヨリ逐フ事附羅馬帝國ニ對シテ戰爭ヲ準備スル事
○馬哈默ノ徒西里亞埃及小亞細亞北亞弗利加西班牙ヲ掠奪シ及ヒ佛蘭西ヲ襲フ事

此軋轢後羅馬帝國ノ大半獨一神教徒トナル事○理學研究再ビ振興ノ事附耶蘇教國ハ其尤モ有名ナル都府亞勒山德黎亞加爾錫西及ヒ聖市耶路撒冷ヲ亡フ事

第四章 南方諸州實學ノ復起 百六十一丁

納士德派及ヒ希伯來人等亞刺伯人ヲ理學ヲ研究セシムル事
○亞刺伯人宿命說ヲ變シテ世界組織ノ眞說ヲ得ル事○亞刺伯人大地ノ大小方圓ヲ知ル事○回々教主大書館ヲ建築シテ百般

ノ實學ヲ保護スル事 附 觀象臺建築ノ事 ○亞刺伯人 數理ヲ擴張
 シ幾何三角量方ヲ改良スル事 附 代數學發明ノ事 ○亞刺伯人 希
 臘古代ノ數學、天文學ノ著述ヲ輯メテ之ヲ翻譯スル事 附 亞里斯
 度德ノ版納法ヲ採用スル事 ○亞刺伯人 許多ノ學校ヲ建築スル
 事 附 納士德派ノ助ケニ依リ公立學校規則創立ノ事 ○亞刺伯人
 「アラビック」數字及ビ算法ヲ用ウル事 附 星辰ノ目錄ヲ製シ且、一々
 之ニ名クル事 ○亞刺伯人 現今ノ天文、化學、物理學等ノ基礎ヲ樹
 ムル事 附 農工業上大ニ改良ヲ與フル事

第五章 靈魂說ノ軋轢 附 流轉還滅ノ說 百八十七丁

歐洲人靈魂說 ○靈魂ハ形体ニ類似スル事
 亞細亞地方理學ノ說 ○吠吠論及ヒ佛法ニ於テハ流轉還滅ノ說
 ヲ主張スル事 附 爾後希伯來人及ヒ亞刺伯人モ亦之ヲ主張セシ

事 ○以利日那ノ書中ニモ亦流轉還滅ノ說アル事
 流轉還滅說ト勢力ノ交關係論ト一致符合ノ事 ○身體ノ生死
 ト精神ノ始終ト並行兩立ノ事 ○人間ノ本性ハ比較生理學上ニ
 基ヒテ論定スルノ緊要ナル事 ○亞比朗士學派之ニ因リテ起リ
 西班牙西々里ヨリ耶蘇教國ニ蔓延スル事
 亞比朗士學派困難ノ歴史 ○回々教徒該派ニ抵抗スル事 ○猶太
 教會對峙スル事 ○法王該派ヲ破滅セント企ツル事 ○西班牙ニ
 於テ教法裁判所創立ノ事 ○教法裁判所該派ノ徒ヲ苦シメシ事
 附 其結果影響ノ事 ○希伯來人及ヒ母兒人斥逐ノ事
 歐洲中ニ亞比朗士學派破滅ノ事 ○其後瓦底干公會果斷ノ事

第六章 世界說ノ軋轢

二百三十九丁
 經典ノ說ニ據レバ大地ハ平面ナル事 附 天堂地獄所在位置ノ事

實學ノ説ニ從ヘハ地形ハ圓圖ナル事 附 其大小ノ事○大陽系統
 中地球所在位置ノ事 附 其關係ノ事○關龍、德加馬、馬基蘭ノ三大
 航海ノ事 附 地球周遍航海ノ事
 歌白尼孤發明ノ事○望遠鏡新發明ノ事○駕里良教法裁判所ニ
 召喚セラル、事 附 其處刑ノ事○諸寺院大ニ失敗スル事○太陽
 系ノ大小廣狹ヲ測量セント企ツル事○金星ノ經過ヲ見テ太陽
 ノ變位ヲ測ル事○宇宙ノ鴻洪ナルニ比スレハ地球人間ハ極メ
 テ卑小ナル事
 宇宙ノ大小廣狹ニ就テノ諸説○星辰變位ノ事○魏路那世界許
 多アルノ説ヲ主張スル事○教法裁判所魏路那ヲ捕ヘテ之ヲ火
 殺スル事

第七章 地球年紀ニ關スル爭論 二百八十七丁

經典ノ説ニ大地ハ纔カ六日間ノ創造ニシテ其後纔カニ六千年
 ヲ經タリト主張スル事○族祖等ノ記録ハ之ヲ其年齡ニ由リテ
 書セシ事○異譯經典異算紛亂ノ事
 大洪水ノ俚談○人種再殖ノ事○巴威爾高塔ノ事○言語錯亂ノ
 事○大古言語ノ事
 加西尼木星ノ楕圓形ナルヲ發明スル事○牛赫亦地球ノ楕圓形
 ナルヲ發明スル事○種々ノ造作因アリテ地球ヲ模型セシ事○
 地質學暗礁ノ發明及ヒ古代有機遺物ノ究索ニ由リテ前説確定
 スル事○果シテ然ラハ極遠ノ時日ヲ要スル事○創造説進化説
 廢立ノ事○人間過去極遠ノ時ニ存生セルコトヲ發明スル事
 世界ノ時處不定ノ事○此章ヲ世界ノ年紀ニ關スル爭論ト名シ
 ルハ記者ノ大イニ注意アル事

第八章 眞理基礎説ノ軋轢

三百十七丁

古理學者ノ説ニ人ハ眞理ヲ定ムルノ術ニ乏シト云フ事○上世
 耶蘇教中ニ異安心起ル事○公會之ヲ鎮滅セント欲シテ其功ナ
 キ事○怪跡拷問ヲ以テ證據ノ法トナス事
 羅馬法王懺悔解罪法及ヒ教法裁判所設置ノ事○異説ヲ壓セン
 ガ爲メニ永シ暴威ヲ逞フスル事○如地尼安(一學全論)ノ發明ヨ
 リ生スル結果ノ事 附 法王ノ告諭ヲ證據トナスコトヨリ生スル
 結果ノ事○其漸次理學ノ風潮ニ化セラル、事
 宗教改革一箇人ノ道理ニ權威ヲ賦與スル事○舊教派眞理ノ準
 繩ハ寺院ニアリト主張スル事○インデキス、エキスプリゲート
 リアス會ニ於テ讀書ヲ禁制スル事 附 聖、巴爾所羅迷ノ虐殺ノ如
 キ法ニテ諍闘スル事

新教派ノ規矩準繩タル「ペンタテューナ」(摩西五經)ノ勢力強弱調査
 ノ事 附 該書類ハ偽著ナリト鑑定ノ事
 實學眞理ノ規矩ハ造化万物ノ默示ニアル事 附 舊教派ハ法王ニ
 固執シ新教ハ經典ニ執着スル事

第九章 宇宙管理説ノ軋轢

三百六十一丁

世界ヲ管理スルニ二説アル事○第一ハ僧侶ノ主張スル天運説
 ナル事○第二ハ定則説ナル事 附 其漸浸沿遷ノ事
 及波禮爾大陽系ヲ管理スルノ定則ヲ發明スル事○及波禮爾ノ
 著書法王ノ權ニ誣枉セラル、事○達維因西器械理學ノ基礎ヲ
 立ツル事○駕里良物動論ノ基礎タル定則ヲ發明スル事○牛董
 之ヲ天体運動ニ配シテ大陽系モ亦數理ノ支配ヲ受シルモノナ
 ルヲ明言スル事○法耳士查爾之ヲ宇宙萬物ニ配シテ開説スル

事○星露說ノ事○神學ハ惣ヘテ此等ノ學ニ反對背馳スル事
地球ノ組織動植物ノ發育ヲ見レバ定則說ノ證據顯然タル事○
萬物皆創造セシモノニアラズシテ漸次ニ進化セシモノナル事
人間社會ノ歴史ニモ一箇人ノ場合ニモ其定則アルヲ判然タル事
改革寺院中ニ半ハ之ヲ採用セシモノアル事

第十章 羅甸耶蘇教即チ耶蘇舊教ト現時文明トノ

關係

四百五丁

羅甸耶蘇教一千年以上歐洲人智ヲ支配セシ事 附 其結果如何ニ
就テ其責ニ任スヘキ事

該結果ハ宗教改革ノ時羅馬府ノ景況及ビ歐洲大陸公私生計ノ
形勢ニ於テ著明ナル事○歐洲人民ハ僧俗二重政府ノ下ニ生息
セシ事○歐洲人民無學妄信不和ニ浸潤セラル、事○舊教失策

ノ事○法王ノ政史ハ共和政治變シテ君主專制ニ化スルルニ過
キザル事○大教師黨及ビ法王廳舉動ノ事○過分ノ貪財ヨリ起
ル兇惡ノ事

舊教派ノ支配中歐洲ニ起リタル有益事ハ皆無爲偶然ノ珍事ニ
シテ敢テ焦心意造ニ非ザル事
畢竟舊教ノ政權ハ現今ノ文明ニハ大イニ有害ナル事

第十一章 實學ト現時文明トノ關係 四百五十一丁

亞米利加史中實學ノ結果概略ノ事

實學歐洲ニ漸入スル事

ムーリシ、西班牙ヨリ上以太利ニ實學傳來スル事 附 當時法王亞
維格思ニ在リテ羅馬ニ居ラザリシハ實學ノ傳播ニ便セシ事○
出版術、航海術及ビ宗教改革ノ結果ノ事○以太利實學協會創立

ノ事

實學ヨリ人心ニ及ボセシ影響

實學歐洲人ノ思想ヲ一變スル事○龍動ノ「ロイヤルソサイチー」協會及ビ其他實學協會ノ著作事業ハ其適例タル事

實學ヨリ經濟ニ及ホセシ影響

第十四世紀以後器械及ビ物理學發明ノ事○其衛生家計上ニ著ハレ及ヒ和好戰爭ノ方術ニ及ボセル影響ノ事

實學ハ大イニ人事ヲ饒益セシ事

第十二章 耶蘇教ノ危急

五百十五丁

耶蘇教ノ危急已ニ近ツキシ事○羅馬耶蘇教ノ運命已ニ定マリシ事 附 其準備ヲ爲ス事○第九世バイアス大公會ヲ召集スル事○歐羅巴各政府ト法王政府ト關係ノ事○「エンサイクリカル」

タルト「シルレブズ」ニ記スル寺院ト實學トノ關係ノ事

法王無過失ナルノ説及ビ實學ニ關スル瓦底干公會ノ決議ノ事

○議定セル條款拔萃ノ事

普魯士政府ト法王政府トノ爭鬪○國王寺院ト无上權ヲ争フ事

○歐羅巴ニ於テ二重政府結果ノ事○瓦底干公會實學ニ對シテ

其地位ヲ公告スル事○舊教ノ信心ハ不拔ノ法言ニ似タル事○

上帝默示信仰道理ノ説明ノ事○法王政府破宗ノ條款ヲ公布ス

ル事○法王政府現今ノ文明ヲ鳴罪スル事

新教派經典同盟ノ事 附 其舉動ノ事

前文前説大意摘要ノ事○學教爭鬪現況ノ事 附 將來蕃榮萬福ノ

事

學教史論總目錄 終

學教史論

一名耶蘇教と實學との争闘

米國醫學兼法學博士 戎維廉達勒巴兒氏原著

大教正素山平山省齋閱評

大日本 南豐伯熊 小栗栖 香平 譯述

第一章 實學ノ起原

耶蘇誕生前四百年代希臘國宗教形勢ノ事○希臘人波斯帝國ニ
攻入り造化ノ新奇觀ニ驚ク事 附 其種々ノ新宗アルヲ知ル事○
馬基頓遠征ニテ其實際ニ自得シタル軍旅、築城及ヒ文學等ノ進
歩ヨリ遂ニ亞勒山德黎亞府ニ廣大ナル博物館ヲ創立シ經驗、觀
察、數理論法ヲ以テ大ニ百般ノ知識ヲ開達スル事

古來幾代ノ人心ヲ統攝シ能ク世ノ信仰ヲ擅ニシタル、一大宗教ニシテ、
一朝衰頽ニ皈スルカ如キハ、識者ノ尤モ慨歎措ク能ハサル所ナルヘシ
耶蘇誕生前第四紀ニ方テ希臘國ハ、人心漸ク古宗教ヲ厭フノ念アリ、其

理學者ハ、深ク世界事物ノ理ヲ究メ、宇宙功效ノ廣大ナルコト、オリンパス
 ス諸神ノ無効ナルコト、ヲ比較シ、頗ル感悟スル所アルカ如ク、其歴史
 家ハ、熟政治上ノ得失ヲ考ヘ、人事ハ悉ク其轍ヲ一ニシ、前因必ス後果ヲ
 生ス、未タ果アリテ因ナキモノアラサルヲ目睹シ、其古記録ニ載スル所
 ノ、神爲奇跡等ニ疑貳アルカ如シ、蓋シ其心皆以爲ラク、神爲ノ時代ハ、果
 シテ何等ノ時ヲ以テ終リシヤ、巫言ハ何カ故ニ今緘默セシヤ、奇跡何カ
 故ニ今現行セサルヤト、
 邈乎タル上古ヨリ傳ハル所ノ口碑ニ依レハ、妖婦、巨人、怪鳥、妖獸、幻術者、
 食人鬼、半人半馬、單眼偉人等、種々ノ奇怪ハ、昔ク地中海近傍ノ諸國ニ充
 満セリ、又其口碑ノ一ニ曰ク、彼ノ蒼々タルモノハ、コレ天上界ノ地床板
 ナリ、セウ神名其上ニ鎮在シ、妻妾臣僕之ニ敬事ス、其煩惱情態、毫モ人界
 ノ朝廷ニ異ナルコトナシト、コレ皆古來信徒ノ信シテ疑ハサルモノト

セシ談柄ナリ、

希臘ハ其海濱恰モ犬牙ヲ如ク、良港アリ、多島海アリ、故ニ國人舉テ航海
 ヲ業トシ、或ハ地中海地中海ノ間ヲ往復ス、然レモ未タ曾テ古記録ニ載
 ガ如キ一ノ怪譚奇事アルヲ見ス、見聞稍博キニ從ヒ、乃チ以爲ラク、彼蒼
 ハ全ク虚空ニシテ、單ニ星辰ト空所アルノミ、其他一ノ「オリンパス」ニ類
 スルモノアルコトナシ、己ニ「オリンパス」ナシ、豈之ニ處ルノ諸神アラシ
 ヤ、然レハ、彼ノ和墨耳、（共ニ古代）等ノ諸神説ハ畢竟一箇ノ架
 空説ナリト、
（共ニ古代）詩人ノ名

凡ソ新説ノ世ニ著ル、ヤ、異論百出スルハ古今勢ノ免レサル所ナリ、コ
 ノ説モ亦頗ル世人ノ駁撃ヲ被ル、就中教法黨ハ之ヲ痛破シテ曰ク、コレ
 神威ヲ輕蔑スルノ徒ナリト、或ハ其所有品ヲ沒藉シ、或ハ之ヲ流刑ニ處
 シ、甚シキハ之ヲ死罪ニ處セリ、其固執スル説ニ曰ク、苟モ古來ノ尊信ヲ

受タル説ハ、必ズシモ正義ナラザルヲ得ズト、其反對ノ証跡、庇フベカラ
 サルニ至ルヤ、又之ガ説ヲ造テ曰ク、コレ古代ノ聖賢ガ、天機神秘ヲ脩收
 シタル謎言ニシテ、後人ナシテ覺ル所アラシムルモノナリト、乃チ虛妄
 救フベカラサルモノニハ、悉ク新ニ之カ説明ヲ加ヘ、以テ日進月歩ノ人
 智ニ融和セント欲ス、然レトモ、輿論之ヲ容サス、諸説之ヲ駁シ、遂ニ古説ハ
 皆无根ノ妄説ナルニ皈セリ、
 理學家、歴史家、獨リ然ルニアラズ、清雅閑靜ノ詩人亦之ヲ唱フ、爲メニ幼
 里巴底ハ守舊黨ノ憎疾ヲ受ケ、以斯給拉士ハ殆ント磔殺セラレントス、
 一時守舊黨ノ暴威如此モ、永ク其妄ヲ保ツヲ得ス、遂ニ一敗地ニ塗ルノ
 果ヲ取レリ、當時希臘文學社會道德ノ廢頽ハ、日一日ヨリ甚シク、其禍延
 テ下民ニ及ベリ、然レトモ、コレ亦氣數ノ已チ得サルモノナリ、
 希臘人理學的ノ批評モ、亦之ニ關テカアリト謂ヘシ、彼レ試ニ甲乙兩校

ノ所説ヲ比較スルニ、其説皆同シカラズ、乃チ以爲テク、人未タ正義ヲ定
 ムルノ基礎ヲ得ズ、故ニ其善惡邪正ノ説、皆一ナラス、國ヲ異ニスレバ、則
 チ善惡ヲ異ニシ、黨ヲ殊ニスレハ、則チ邪正ヲ殊ニス、善ト云ヒ、惡ト云フ、
 唯其教育薰陶ノ上ニ生スル所ノ僻説ノミト、而シテ雅典府上等社會ノ如
 キハ、尙之ヨリモ甚シキモノアリ、曰ク、無形見ルベカラザルモノ、豈獨リ
 然ランヤ、今日現ニ聞見覺知スル所ノ有形世界モ、唯コレ一睡ノ夢幻ノ
 ミ、泡沫ノミ、若シ大ニ之ヲ悟ルキハ、宇宙本來無一物ナリト、
 希臘國ハ、其風土各地皆異ナリ、從テ亦各其利害ヲ同フセズ、爲政頗ル難
 シ、是ヲ以テ、内訌屢々ニシテ、干戈戢ル時ナシ、君民與ニ困シ、上下并ニ窮
 ス、其弊ヤ、貴重ナル愛國心ヲ失ヒ、或ハ貨賄ヲ貪テ、其國ヲ鬻クノ徒アル
 ニ至ル、其彫刻術ヤ、建築術ヤ、皆悉ク古來ノ最上國ト稱セラレシモ、惜哉、
 獨リ善良忠實ノ眞價ヲ鑒定スル能ハザリキ、

希臘國ハ其版圖亞細亞歐羅巴ノ兩洲ニ跨カル其歐洲希臘人ハ自由ヲ
 重シシ獨立ヲ愛ス故ニ波斯ノ領使ヲ肯セスト雖モ亞洲希臘人ハ則テ
 之ニ反シ獨立自由ノ何タルヲ知ラズ波斯帝國ノ支配ヲ受ケ恬トシテ
 亦耻ツル色ナシ
 當時波斯帝國ノ領地ハ其大殆ソト現時歐洲ノ半ハニ居リ地中海印度
 海黑海紅海以日安海裏海波斯海ノ諸洋ニ枕ミ由非列底底格里印度牙
 加薩多尼羅屋沙士ノ六大川ヲ通ズ川ノ長サ各一千里ニ越ユ而シ其地
 表面ハ海水平ノ下一千三百フヒトヨリ海水平ノ上二五フヒトニ
 至ルノ地ヲ有シ能ク農礦商業ニ適スルノ樂國ナリ加フルニ古馬太巴
 比論亞西里亞加耳特亞等諸亡國ノ奇觀遺物皆其版圖内ニ散在セリ
 波斯帝國ノ廣且大ナルソレ如此シ而シ歐洲希臘ハ其邦境偏小ニシテ
 僅カニ波斯帝國所領中ノ一小州ニ過ギズ故ニ波斯ハ初メ大ニ之ヲ侮

リシト雖モ其之ヲ征伏セントスルニ及デ其兵制ノ宜キヲ知レリ是ヲ以
 テ希臘兵ヲ雇テ其軍ニ入レ或ハ希臘將官ヲシテ其隊ヲ令セシメ或ハ
 希臘水師提督ヲシテ其艦ヲ令セシム又數々政治上ノ變乱アルヤ兩敵
 黨亦必ス希臘兵ヲ雇用スコレ等ノ兵事ハ遂ニ大ナル結果ヲ生シ希臘
 勇兵ヲシテ波斯國威ノ振ハザルヲ覺ラシメ其城下ニ入ルノ容易ナル
 ナ知ラシム加那哥沙ノ役ニ於テ西拉士戰死ノ後其將日那本殘兵一万
 人ヲ卒テ泰然勇退シタルコトハ希臘兵ノ容易ニ波斯中心ニ出入シ得
 ルノ証トナレリ

嘗テ希臘人ハ波斯三代ノ帝別歷西士王ガ門多安德ノ地峽ヲ掘割リ注
 禮士奔多ノ海峡ニ架橋シ大ニ亞細亞人ノ勇氣ヲ著セシヲ聞クヤ深ク
 之ヲ畏敬セリト雖モ今ヤ撒拉密士江ニアル島ナリ現今之ヲユヒト云
 伯拉底亞（シーブスノ西南七英里モーントシセロンノ麓ニア）賞加禮ノ
 フラチア（ルポウテア市街ナリ即チホクラ村ノ近傍ニ當ル）

諸州ハ、之ヲ畏怖スルノ念ヲ脱シ、却テ其富ヲ奪ハシコトヲ思ヘリ、スバ爾達ノ阿日西朝士王、初メテ之ニ入寇シ、大ニ之ヲ敗ル、是ニ於テ、波斯政ル府密ニ斯巴爾達近傍ノ地方ニ略シ、以テ其國城ヲ襲ハシム、阿日西朝士王、乃チ圍ヲ解キ、其國ニ皈ル、其將ニ皈途ニ上ラントスルコト方テ、天チ仰テ歎ソ曰ク、嗚呼、予ハ敗ヲ波斯三萬ノ弓士ニ取レリト、蓋シ波斯貨幣ニハ、弓士ノ矜印アレバナリ、

馬基頓ノ非立王モ、亦其間ヲ觀ヒ、其侵掠ヲ謀ルヤ、乃チ自立シテ、希臘軍大物督ト稱ス、其志ハ、止ニ一小部ノ奪掠ニ存セズ、大ニ勇進シテ、波斯帝位ヲ顛覆スルニアリ、然レモ、其謀未ダ半ナラズ、偶々賊ノ爲ニ暗殺セラレ、コリンス公會、其太子ヲ推シテ位ニ即カシム、之ヲ歷山大王トナス、王尙弱冠、能ク父王ノ遺志ヲ繼ギ、亦國南ノ志アリ、偶以爾來里ノ變動アリ、王、北ノ方多腦河ニ軍シテ、之ヲ平ク日巴士其亡キチ伺ヒ、近圍諸州ヲ

誘ヒ率テ、之ニ叛ク、王赫トシテ斯ニ怒リ、乃チ往テ之ヲ征シ、六千人ヲ屠リ、三万人ヲ鬻キ奴隸トナシ、以テ其猛威ヲ示ス、日巴士府復タ醜類ナシ、後又敢テ之ニ背クモノナシ、

耶蘇紀元前三百三十四年、春、王自ラ步兵三萬四千人、騎士四千人ヲ將テ、注禮士奔多海峽ヲ涉リ、亞細亞大陸ニ進入ス、時ニ其有スル所ノ軍資、僅ニ七十クアレントニ過ギズ、偶々波斯軍ノ駕拉尼加士河邊ニ陣スルニ會フ、乃チ擊テ大ニ之ヲ敗リ、遂ニ小亞細亞ヲ降ス、暫ク留テ其兵制ヲ定ム、明年、王將コ西里亞ヲ降サントシ、途ニ第三世大流士帝、大兵六十方ヲ將テ、之ヲ遮ギルコト會フ、乃チ之レト伊斯撒山ニ戰ヒ、復大ニ之レヲ敗ル、波斯軍ノ之ニ死スル者、步兵九万人、騎士一万人ナリ、故ニ尸骸累々深谷ヲ填メ、大王及ヒ其將德禮密ハ平地ヲ涉ル如クナリキ、遂ニ大馬士革府ノ王城及ヒ西里亞ヲ降ス、其后妃臣妾、及ヒ珍珠寶玉、皆大王ノ所有ニ皈

セリ、

歷山大王將^メ米所波大迷亞^ハヲ征セントスルノ前ニ當テ、先ツ地中海濱
 ノ諸市ヲ降ス、コレ一コハ大洋ノ通路ヲ開キ、二ニハ背而ノ愛ナカテシ
 マンガ爲ナリ、王嘗テ^イ伊斯撒^ハ役ノ後軍議シ、諸將ニ謂テ曰、大流士未ダ遠
 カニ窮追スベカラス、何トナレバ、埃及及ヒ^エ西波羅士^ハノ兩地、尙其有ナリ、
 而^エ推羅^ハ未タ我ニ屬セス、波斯若シ其諸港ヲ回復セハ、彼必ラズ我希臘
 チ攻メ^タ、唯コレ我カ愛ナリ、コノ愛何シテカ避クベキ、我ニ其海權ヲ得ル
 ノ一策アルノミ、而シテ能ク^シ西波羅士^ト埃及ヲ徇フルニ至ラバ、希臘ノ
 國安期シテ待ツベシト、是レ今、王ノ故ヲニ此舉アル所以ナリ、^タ推羅ヲ圍ム
 コト半年、纒ニシテ之ヲ拔ク、故ニ擒囚二千人ヲ屠殺ス、^セ耶路撒冷^ハハ風靡
 スルヲ以テ、王亦之ヲ寬待ス、王遂ニ埃及ニ進ム、^ベ波將威的士^ハ之ヲ及^シ撒ニ
 逗留ス、王之ヲ圍ムコト二ヶ月、奮擊突戰、又之ヲ拔キ、^ベ波將威的士^ハヲ擒ニ

シ、之ヲ市中ニ徇フ、市民一万人ヲ屠リ、他ハ之ヲ鬻テ奴トナセリ、遂ニ長
 驅シテ埃及ニ至ル、埃及近頃波政ヲ厭フ、故ヲ以テ、簞食壺漿以テ王ノ師
 チ迎待ス、王暫ラク此ニ留マリ、其制ヲ改メ、法ヲ釐ム、爲政ハ悉ク之ヲ其
 國人ニ委テ、兵制ハ之ヲ唯馬基頓將ノ所轄トナセリ、
 王最後戰ノ準備ヲ爲スノ間ニ、北ノ方二百里許、^リ梅安沙漠^ハノ入必^シ德爾
 安門社ニ詣シ、神託ヲ蒙ル、曰ク、汝ハ、是我子ナリ、我嘗テ蛇体ヲ現シ、汝カ
 母^ハ阿林彼亞^ニ戯レ、遂ニ汝ヲ生ムト、上古ハ、少ク人ニ卓絶スルモノアレ
 ハ、悉ク之ヲ神裔トナスノ風アリ、^ロ羅馬城^ノ開基羅羣路^ハ、其母^リ里亞^ハ西爾
 伯ナル處女、水瓶子ヲ携テ泉水ニ臨ミ、偶^ニ馬爾士^ノ神靈ニ感シ、之ヲ孕ム
 トハ、近世マデ人口ニ膾炙シ、人之ヲ信シタル說ナリ、又希臘ノ理學家^ハ布拉
 多^ハ、其母^ハ彼陸^ハ署尼ナル處女、^ア亞波爾羅^ノ神靈ニ感シ、之ヲ孕ム、神其約夫
 亞里士敦ニ託宣シ、以テ之ガ養父ヲラシムト云フ、若シ人ノコノ說ヲ駁

スルモノアレハ、ブラ多學徒ハ、目ヲ瞋シ、牙ヲ著シテ、必ス之ニ抗抵セン、
 コレヨリ後、歴山大王ハ、其手翰、敕詔等、皆入、必德爾安門ノ子、歴山王云々
 ノ語ヲ手記シ、大ニ埃及及ヒ、西里亞人等ヲ畏服セシム、然レモ、希臘人ハ
 皆自由ノ思考ヲ有スルヲ以テ、能ク王ノ心術如何ヲ洞知セリ、其母、阿林
 彼亞常ニ歎ク曰ク、妾ハ唯々彼カ屢、妾ヲ以テ、入、必德爾ノ妻ナリト云ハ
 ザランコトヲ望ムト、亞里安ノ馬基頓遠征史ニ曰ク、予ハ、歴山大王カ、自
 ラ稱シテ神子トナスハ、唯其旗下ヲ服從セシメントスルノ方便ニ止マ
 リ、他ニ大ナル惡意アルニアラサルヲ知レハ、敢テ其罪ヲ鳴スヲ得スト、
 ○西里亞ニ皈リ後事ヲ計リ、乃チ自ラ勝兵五万騎ニ將トシテ、山非列底
 河ヲ濟リ、兵ヲ馬、西安山ノ綠林深キ所ニ屯ス、蓋レ米所波太迷亞郊ノ酷
 暑ヲ避ケシナリ、偶ニ大流士帝ノ一百十萬騎ニ將トシテ、巴比倫ヨリ迎ヘ
 撃ニ會ス、乃チ之ト底格里、亞爾伯拉ニ鄰スニ戰ヒ、大ニ之ヲ敗ル、大流士
チンリス、アム、ベ、ラ

帝纔ニ逃レテ途ニ其下ノ爲ニ弑セラル、諸國風靡、又一人ノ敢テ之ニ敵
 スル者ナシ、其所属ノ地ハ多、腦河ヨリ、恒河ニ至リ、其得ル所ノ財寶ハ、果
 シテ其幾千萬ナルヲ知ラス、且ラク亞里安ノ説ニ據ルモ、ハ、唯其蘇撒府
 ニ於テ得ル所、尙五万、ダレントノ巨額ニ至レリト、
 奇モ心ヲ兵制ニ注キシ人ハ、誰カ、歴山大王ノ軍功ヲ驚嘆セサランヤ、其
 注禮士奔多、海峽ヲ濟ルカ如キ、駕拉尼加士戰爭ノ如キ、小亞細亞ヲ降シ、
 其兵制ヲ改メシカ如キ、西里亞地、中海濱ヲ降セシ軍畧ノ如キ、推羅ノ役
 ニ其堡砦ヲ築キシカ如キ、及、撒ヲ零セシカ如キ、希臘ヲ波斯ヨリ分割シ、
 波斯軍艦ヲ地中海ヨリ退去セシメシカ如キ、埃及ヲ降シ、其制度ヲ改定
 セシカ如キ、翌春、黑海、紅海ヲ經テ、米所波、大迷亞ニ進軍セシカ如キ、由非
 列底、底格里ノ兩河ヲ馮セシカ如キ、亞爾伯拉合戰ノ前、夜陰ノ地理測量
 及ヒ其激戰ニ、神出鬼沒ノ軍功アリシカ如キ、皆今人ノ遠ク三舍ヲ避ル

所ナリ、

コノ遠征ハ、大ヒナル影響ヲ、希臘人智識上ニ及^ゴシタリト云ヘシ、或ヒハ
 多^{タニ}腦^ニ河ヨリ^ニ尼羅河ニ至ルモノアリ、或ハ^ニ尼羅河ヨリ^ニ恒河ニ至ルモノア
 リ、或ハ北ノ方黒海ヲ越テ、寒風凜冽ノ諸州ヲ經廻セシモノアリ、或ハ埃
 及沙漠ヲ經テ、沙風炎々ノ地方ヲ奔走セシモノアリ、埃及二千年來ノ人
 頭碑ノ巨大ニ驚クモノアリ、^{鹿所}爾^爾書文字ノ方尖石碑ノ美ニ愕クモノ
 アリ、獅身女面ノ古道ヲ歩シテ、^{ロキッ}瞻ヲ寒セシモノアリ、上古諸王ノ巨像ヲ
 見テ、愛ヲ慰メシモノアリ、^エサル、^ハツドン^殿中ニアル所ノ、古^ア亞^シ西^リ亞^ア
 帝座ヲ護スルノ翼牛ハ、以テ人ヲ恐怖セシムルニ足ルベク、^ハ比^レ命^ニ城^址
 ノ周圍六十里ニシテ、三百年間、三回ノ兵乱ニ罹ルモ、尙ホ其高^ハ八^ハ十^ハフ^ヒ
 一^トナルハ、以テ人ヲシテ其堅牢ニ驚カシムヘシ、況ンヤ、雲霧ヲ帶ブル
 ノ^ニベル^堂アリテ其頂上ニハ、^加耳^特亞^天文家ノ遺物タル、古天文臺ノ古

跡アルヲヤ、況ンヤ甲乙二殿ニ架シタル長廊ニ花園ヲ開キ、空中ニ草木
 ナ殖産シタルノ古跡アリ、湖水ヲ堀リ、注水器ヲ以テ、其水ヲ引ノ古跡アリ、
 春暖氷雪ヲ溶解スル時ニ方テ、之ガ溢濫ヲ防ガンカ爲ニ、之ヲ^由非^列底^ト
 ニ注カシメタル、開口ノ古跡アルヲヤ、而シテ、尤モ人目ヲ驚カシメタル
 モノハ、河底ヲ堀通シタル墜道ナリ、

加耳特亞、^カ耳^特亞、^ア西^リ亞、^バ比^レ命^等、上古ノ遺物奇觀ハ、ソレ是クノ如シ、然シテ、
 眼ヲ轉シテ波斯近時ノ事物ヲ見ルハ、又以テ大ニ驚歎スベキモノア
 リ、彼ノ^ニベル^セホリス^ノ圓柱殿ハ、彫刻、彫像、鍍金、大理石ノ文庫、方尖石碑、
 獅身女面ノ像等ノ奇巧ヲ觀ハシ、^エグ^バタ^ナナル波斯王ノ納涼殿ハ、天
 文七星ニ象リテ、築造彫鏤シ、七重石堀ヲ以テ之ヲ圍ヒ、銀瓦金楹、之ヲ粧
 飾ス、夜陰ニ之ニ点スルニ數百基ノ琉璃燈ヲ以テスルハ、其明殆ンド
 日光ニ勝ル、實ニコレ市井中ノ一大不夜城ナリ、故ニ^注禮^士奔^多海^峽ニ

リ、印度河ニ至ル波斯帝國ハ、コレ覆載間ノ一大花園ナリキ、
 予カ如上縷々、陸山大王ノ軍記ヲ畧説スル山縁ハ、吾人カ以テ智識ノ淵
 源、實學ノ濫觴トナス所ノ亞勒山德黎亞諸蠻ハ、皆此戰爭ヨリ生シタレ
 ハナリ、奔窩兒多氏言ヘルコトアリ、曰ク、人ハ宇宙ヲ見聞スルコト愈多
 キトハ、從フテ其心亦益々宏大ナリト、コレ千古ノ知言ト云ヘシ、今ヤ歷山
 大王ノ士卒ハ、渺茫トシテ眼界ノ及フ能ハサル大沙漠ヲ涉リ、白雲常々
 半腹ニ罩ルノ高山ヲ越ヘ、美麗未タ曾テ聞カサルノ風光ヲ目撃シ、巧妙
 未タ曾テ見サルノ返景（光線返射ノ作用ニ因テ雲霧等）ヲ眺望シ、琥珀色
 ノ葉、棕櫚及ヒ扁柏ヲ生スルノ地ニ至リ、綠色ノミルトレス（樹、御柳及ヒ
 夾竹桃ヲ産スルノ國ニ遊ヒ、亞爾伯拉ニ在リテハ印度ノ大象ト戰ヒ、裏
 亞細亞ノ内海ニシテ、北ハアストラカン、東ハ韃靼、南ハ波斯、西ハ（
 高加索山麓ノバク、デルベンド、サルカシヤ、アストラカン等ニ界セリ、）ニ在テ
 ハ、近林ノ猛虎ト闘フ、其他犀河馬、駱駝、大鱈（尼羅河、恒河ノ等ノ歐羅巴産

ノモノニ比スレハ大且猛ナルノ動物ヲ見、風俗ヲ異ニシ、人情ヲ別ニス
 ル、藍色ノ西里亞人、橙色ノ波斯人、及ヒ黑色ノ阿非利加人ニ接ヒリ、ソレ
 希臘人ハ人類中尤モ感覺ノ鋭敏ナルモノナリ、故ニ其見聞スル所ニ從
 テ、愛歡交々至リ、感歎并ヒ來ル、彼ノ歷山大王其人スラ、尙其病篤キニ方
 テ、船將尼爾查斯ヲシテ、其枕邊ニ侍ラシメ、印度河ヨリ波斯灣ヘ航セシ
 時ノ險難ヲ話セシメ、頗ル其病苦ヲ忘レタリ、大王ハ又潮水ノ満干ニ驚
 キ、尼爾查斯カ波斯海及ヒ紅海ヲ、大洋ノ灣ナリト發見セシ如ク、裏海及
 ヒ黑海モ亦同シク大洋ノ灣ナルヘント思ヒ、船ヲ造テ之ヲ回測セシ
 ム、又大王ハ、軍艦ヲ遣リテ、阿非利加洲ヲ周航シ、彼兒羅阿不、百拉給拉
 希臘及羅馬人等カ地中海ト大西洋トヲ結合スル日巴拉大海（
 峽ノ兩岸ニアル日巴拉大岩、猿岡ノ兩山ヲ呼フ所ノ名稱ナリ））ヲ經テ、地
 中海ニ達セシメ、コトヲ經畫セリ、コレ法拉士カ嘗テ成得タルノ業ナ
 リト云フ、

登唯軍人ノミ然ラシヤ希臘理學大家亦頗ル事物ノ奇ニ驚ケリ即チ加
 里日納士氏ハ千九百三年前ノ加耳特亞天文全書ヲ巴比倫ニ得テ之ヲ
 其師亞里斯度德氏ニ贈レリ按スルニ其正本ハ巴比倫ニ燒亡シタレハ
 蓋コレ其寫本ノ亞西里亞王文庫ニ遺存シモノナランカ又埃及ノ天
 文家德禮密王ハ紀元前七百四十七年以往ノ巴比倫人兩蝕記ヲ得タリ
 今日ノ天文學ヲシテ能ク此ニ達セシムルニハ實ニ數千年ノ觀察ヲ要
 スルナリ然リ而シテ巴比倫人ハ能ク已ニトロピカルイールニ一年ノ立
 テ前年春分ノ晝夜平分点ヨリ翌年春分ノ晝夜平分点マテノ間ヲ一
 年ト定ムル方ニシテ一年ノ永サハ三百六十五日五時四十八分四十六秒
 零八サイドリールイールニ亦一年ノ定メ方ニシテ太陽某ノ星ヲ經
 ナリト定ムル方ニシテ即チ地球ヨリ再々該星ヲ經テ地球赤道ノ凸處ニ
 一年ト定ムル方ニシテ即チ地球ヨリ晝夜平分点ノ先進於地球赤道ノ
 一ノ周公轉ヲ一年トスルナリ晝夜平分一分一秒ヲ以テ西日即後方ニ
 二因テ天體黃道ノ平分点ハ每年五十一分一秒ヲ以テ西日即後方ニ
 三ナリ而シテ地球ハ依然東方即前方へ自轉スルヲ以テ天體黃道ノ西
 四ニ近ツキニ之ヲ説明スルニハ先進ト卷冊ヲ要スルカ故ニ唯其大要
 五ノ特語ナレハ之ヲ説明スルニハ先進ト卷冊ヲ要スルカ故ニ唯其大要

注スルノミ及ヒ兩蝕ノ原因ヲ究メ且日運期ニ因テ其兩蝕アルノ時日ヲ前
 知セリ但シトロピカルイールニ二十五秒ノ不足サイドリールイール
 ニ二分ノ過日運期六千五百八十五日餘ニ二十九分半ノ不足等ノ違算
 アリト雖正ニ其實ヲ去ルコト遠カラサルナリ
 當時不完全ナル器械ヲ以テ其觀察能ク此ニ至リシハコレ其天文家カ
 米所波大迷亞郊ニ於テ耐忍ト鍛鍊トヲ以テ觀察熟考シタルノ確証ト
 云ヘシ星辰ノ目錄ヲ製シ獸帶ヲ分テ十二宮トナシ晝夜ヲ分テ各十二
 時トナシ太陽系統說ノ正義ヲ主張シ諸遊星ノ位置ヲ定メ日晷漏壺圭
 表星位儀ヲ發明スル等其功勝テ數ヘカラス亞里斯度德氏曰ク巴比倫
 人ハ唯恒星ノ月ニ蔽隱セラルノ一事ヲ發明スルカ爲メ永ク其身
 ヲ委テタリト以テ其耐忍力ノ剛強ナルヲ見ルヘシ
 數千歳ノ下今日其出版術ヲ考フルモ亦未ダ敢テ小補ナシトセズ其法

先ツ圓棒上ニ凸字形ヲ彫リ、而シテ臺盤ニハ、瓦形ノ模型粘土ヲ貼シ、此粘土上ニ彼ノ圓棒ヲ廻轉セシムルキ、圓棒ノ過クル處皆字母形ノ瓦版ヲ得ルナリ、其瓦文庫（瓦ニ字ヲ彫リタルモノヲ藏スル）中ニハ、文學、歴史等ニ於テ、參考ニ備フヘキモノ少シトセス、又（ニ）尼羣勞（ニ）於テ發見シタル、弧面鏡ニ據テ之ヲ推スキハ、其視學望遠ノ術ニ乏シカラサルヲ知ヘシ、又算術ハ彼ノ印度ノ大發明タル用零ノ一法ヲ知ラスト雖ヒ、其位ニ從テ原數ノ價ヲ異ニスルヲ知レリ、徒ラニ捕雲捉風ノ空想ニ満足シ、未ダ曾テ意ヲ經驗ニ用ヒサルノ希臘人ニシテ、是等ノ奇觀ヲ見聞セシ時ハ、其驚愕果シテ云何ソヤ、希臘人智識ノ進步ハ、半ハ宇宙ヲ見聞スルノ廣キニ因ルヘシト雖ヒ、波斯宗教ノ力亦關テ功アリト云ヘシ、希臘國ノ偶像教ハ、波斯ノ尤モ忌避スル所ナリ、故ニ其管テ希臘ヲ侵スヤ、大ニ神殿祠宇ヲ破却シ、頗ル其妄

信ヲ攪破シタリキ、而シテ今ヤ、彼ノ「オリンパス」諸神諸神ノ品行邪惡ナルハ、信徒ト雖ヒ之ニ懇眉スルモノ多シ、ノ氏子ハ、其基礎頗ル理學ニ合スルノ宗教ニ接スルヲ得タリ、ソレ波斯帝國ノ宗教ハ、前後數回ノ沿革ヲ經シ（萬國皆然リ）モノニシテ、初メハ藏羅亞士德氏ノ唯一神教ヲ信シ、次ニ二元論ニ移リ、後又邁實教ニ變セリ、而シテ馬基頓軍入寇ノ比ハ、萬物ノ創造者ナリ、保護者ナリ、管宰主ナリ、真理ノ中心ナリ、万善ノ授與主ナル宇宙唯一ノ周遍智ヲ奉セリ、抑、コノ周遍智タルヤ、形之ヲ雕スヘカラス、又之ヲ畫クヘカラス、吾人下界ノ万物ヲ見ルニ、悉トシテ二力ノ相反スルモノヲ有ス、故ニ此周遍智ノ下ニハ、常ニ二力ノ相反シ相續クノ源理アルヲ知ル、二力トハ何ソヤ、暗明、黑白等是ナリ、世界ハコレニ力ノ棋局ニシテ、人類ハ恰カモ其碁子ノ如シ、二元論ノ古説ニ曰ク、天堂ハ善心ノ造ル所ナリ、然ルニ惡靈之ヲ嫉ミ、蛇

ヲ造テ之ヲ破ラシムト該説ハ巴比命落城ノ時既ニ己ニ希伯來人ノ通
 知スル所タリ、
 善原アレハ必ラス惡原アリ、猶光リアレハ影アルカ如シ、コレ造物者ノ
 善靈ナルニモ拘ハラズ、世間ニ往々惡事アル所以ナリ、然レモ正直、純良、
 勉強等ヲ鍊磨スルハ善人ノ事ナリ、若シ現生終リナハ更ニ体ヲ次生ニ
 受ケン、來世必ラスナカラスンハアラス、精神豈死スヘキモノナランヤ
 輓近ニ至リ、モルセイムス藏羅亞士德氏ノ唯一神教ハ、マシアニスム邁實教ノ壓スル所トナレリ、邁
 實教ハ元素ヲ拜スルノ宗教ナリ、就中火ヲ以テ無上尊ノ代理ナリトシ、
 之ヲ郊原平野ノ神机上ニ点シ、朝陽ヲ以テ人間禮拜ノ无上尊トナセリ、
 盖亞細亞地方ノ俗、地ニ君王ノ外ニ餘人ヲ貴マサルカ故ニ、天ニモ亦太
 陽ノ外ニ餘物ヲ并ヘサルモノカ、
 歷山大王、大志尙未タ果サズ、中道ニシテ巴比命ニ殞落ス、時ニ壽卅三、或

ハ云ク、コレ毒殺ナリト、蓋シ大王末年ニ至テ、性頗ル酷虐ヲ加ヘ、常侍呢
 近ノ臣ト雖トモ、竹馬莫逆ノ友ト雖モ、之ヲ慰藉スル能ハサルニ至レリ、
 親友哥里士多氏ハ其心ヲ割カレ、加里日納士王ト亞里斯度德氏トノ紹
 介人ハ礫臺ニ上サル、諸將若シ大王ヲ弑セズンハ、大王必ラス諸將ヲ殺
 サン、故ニ諸將ノ王ヲ弑スルハ、コレ其身ヲ保護スルノ良策ナリ、然レモ
 論者或ハ亞里斯度德氏ヲ以テ其黨中ニ置クモノアリ、寧ロ冤罪ナリト
 云ハサルヲ得ス、氏ハ大王ノ爲メニ深ク惡行ヲ庇隱スルモノナリ、奚ソ
 其弑逆ヲ謀ル者ナランヤ、
 歷山大王崩シ、諸將權ヲ爭ヒ、干戈連年ニシテ戢マラス、其禍延テ諸將割
 據ノ後ニ迄ヒ、殆ント希臘國中寧歲ナシ、其間ノ轉變、一ニシテ足ラスト
 雖モ、就中尤モ吾人カ注意ヲ怠ルヘカラサルモノハ、非立王ノ庶子德禮
 密王カ、埃及ヲ領スルノ一事ナリ、王幼ニシテ父王ノ怒ニ觸レ、嫡兄歷山

大王ト外ニアリ、故ニ兄王ノ兵ヲ亞細亞ニ出スヤ、王又常ニ之ニ隨從シ、
 頗ル之カ謀ニ參シ、遂ニ埃及ノ領主トナリ、後又立テ王トナレリ、
 王嘗テ（亞細亞濱ニ近キ地中海）ノ役ニアルヤ、大ニ惠チ其民ニ施ケ
 リ、民其德ヲ稱シ、曾德（救世主ト綽號ス、實ニコノ名稱（德禮密曾德）ハ、後來
 埃及ノ馬基頓王中ヨリ、第一世德禮密王ヲ簡擇スルノ號トナレリ、
 德禮密王、政廳ヲ亞勒山德黎亞ニ開ク、嘗テ歷山大王、入必德爾神社ニ詣
 スルヤ、途ニ此地ヲ過ル、曰ク、コレ亞歐兩洲間貿易咽喉ノ地ナリト、乃チ
 希伯來人ヲ（巴勒斯坦）ヨリ移シ、以テ互市ノ基ヲ開ケリ、コレ德王ガ古來
 ノ首府ヲ捨テ、特ニ此地ヲ撰ミシ所以ナリ、德王耶路撒冷攻ノ後、其民
 ナ此ニ移スコト十餘万、然レ其子（費拉德福斯王、更ニ奴隸十九万人ヲ埃
 及ニ購ヒ得テ、此ニ殖民セシム、コレ皆吾人ノ深ク注意肝銘スヘキ盛事
 ナリ、且此等ノ希伯來人ニ許スニ、馬基頓人ト同一ノ權ヲ以テス、故ニ天

下其仁政ヲ稱シ、老幼相扶ケテ、希伯來人ノ西里亞ヨリ移ルモノ、千萬ヲ
 以テ數フ、此等ノ民ヲ稱シテ、ヘルレニスチカル、シユースト名ツク、言フ
 心ロハ希伯來人ニシテ希臘語ヲ用ユルナリ、此時ニ方テ、希臘ハ諸將割
 據シ、四民其業ニ安ゼズ、故ニ長少相誘テ、亂ヲ亞勒山德黎亞ニ逃ル、其極
 途ニ（彼爾力斯）巴丁拉公主ニ通シ、王位ヲ奪ハント欲シシモ、安的古拿斯
 ノ妨グル所トナリ、遂ニ其卒ニ面非西ニ殺ス、（安的古拿斯）提督ナリ、大王崩
 サル時ニ耶蘇誕生、前三百二十一年ナリキ、（安的古拿斯）提督ナリ、大王崩
 スルニ及ンテ、半非里亞、來底亞等ヲ領シ、（安的古拿斯）提督ナリ、大王崩
 彼爾力斯ノ逆意ヲ看破シテ之ト戰フ、（安的古拿斯）提督ナリ、大王崩
 密ノ兵ヲテ、コトヲ欣ヒ、他ノ馬基頓將ヲ忌避スルニ至レリ、
 故ニ亞勒山德黎亞ハ、概シテ三様ノ國情ヲ有ス、一ニハ埃及土人、二ニハ
 希伯來人、三ニハ希臘人コレナリ、コレ等ノ事實ハ、頗ル影響ヲ現時ノ宗
 教上ニ及ホセリ、
 希臘人ハ彫刻、築城ノ巧ヲ以テ、妙ニ亞勒山德黎亞ヲ莊嚴シ、以テ古代最

第一ノ美府トナセリ、宮殿アリ、寺院アリ、劇場アリ、而シテ其府ノ中心ニハ、泉水アリ、花園アリ、方尖石碑アリ、其中央ニアリテ、巍然主地ヲ占ムルモノハ何ソヤ、コレ歴山大王ノ旌功碑ナリ、大王巴比侖ニ崩スルヤ、其尸骸ノ腐敗ヲ防ガンカ爲メニ、其臟腑ヲ去リ、之ニ代ルニ藥料ヲ以テシ、肅然タル隊伍ヲ以テ、^{バビロン}巴比侖ヨリ護送シテ、之ヲ旌功碑下ニ埋葬ス、其棺ハ初メ純金ヲ以テ、之ヲ製シタルモ、途ニ破損シタルヲ以テ、後之ヲ大理石ニ改造ス、其美麗實ニ掬スヘシ、又巴比侖ヨリ之ヲ護送スルニハ、殆ント二年ノ久シキヲ經タリト、以テ其行列ノ鄭重ナルヲ見ルヘシ、^雲雲然雲ヲ凌テ白ク、頂上常ニ燈光ヲ点シ、能ク海面數里ヲ照ラシテ、恰カモ一大燈臺ノ如キモノハ何ソヤ、コレ世界七奇ノ一タル、寶石ノ「ファロス」ナリ、然レモ吾人カ以テ亞勒山德黎亞ノ、一大美觀ト稱スルモノハ、此等ノ事物ニハテラサルナリ、何ソヤ、曰ク、其博物館即是ナリ、コレ實ニ馬基頓王不朽ノ

記念碑ニシテ、彼ノ人頭碑ハ早晚廢滅スルノ時アルモ、獨リ此功業ハ、永ク日月ト光リテ争フヘシ、

抑亞勒山德黎亞ノ博物館ハ、^{トレミソット}德禮密、曾德王之ヲ創造シ、其子^{フヒラデルフオス}費拉德福斯王之ヲ落成ス、其位置ハ、寶石殿ノ傍ヲナル、ブルチオン侯伯街ニアリ、周圍ニ步廊アリ、以テ談話スヘシ、以テ運動スヘシ、館内彫刻ノ尤モ精緻ナルモノヲ、^{フヒラデルフオス}費拉德福斯王ノ文庫トナス、密畫精像及ヒ書籍四十万卷ヲ藏ス、又別ニ^{フヒラデルフオス}ラコナス小路ナル^{セラヒス}西拉比斯祠内ニ一文庫アリ、又書籍三十万卷ヲ藏ス、俗ニ之ヲ娘文庫ト稱ス、蓋シ書籍ノ夥多ナル、獨リ館内文庫ノ能ク容ル、所ニアラサルヲ以テ、更ニ之ヲ立タレハナリ、然レハ王ノ藏書ハ、實ニ惣計七十万卷ノ多キニ上レリ、嗚呼亦隆盛ナラスヤ、然レハ彼ノ亞勒山德黎亞ハ、獨リ埃及國ノ都城ナルノミニ非ス、抑世界智識ノ中心ト云ヘシ、^所看ヨ此地ハ是レ東識西知ノ相輻湊スルノ地ナリ、所

謂上古ノ巴里府ニシテ、當時世界流行物ヲ發起スルノ地ナリ、其風ノ美ニシテ、其俗ノ優ナルハ、彼ノ頑然タル希伯來人スラ、其風潮ニ化シ、祖先固有ノ國語ヲ忘失シ、遂ニ他ノ希臘語ヲ用フルニ至ラシム、

德禮密、曾德王、及ヒ其子費拉德福斯王カ、此博物館ヲ開設スルニ就テ、凡ソ三重ノ目的ヲ有セリ、一ニハ、當時ノ智識ヲ不朽ニ傳ントナリ、二ニハ、益、智識ヲ擴張セントナリ、三ニハ、智識ヲ各地ニ分布セントナリ

第一、當時ノ智識ヲ不朽ニ傳ンカ爲メニ、王其館長ニ命シテ、何等ノ書籍ト雖也、皆官財ヲ以テ之ヲ購ハシム、若シ其所有主ニ於テ、之カ賣却ヲ肯セサルモノハ、館中扶持スル所ノ書記生ニ命シテ、之カ賸寫ヲナサシム、埃及人若シ書ヲ外國ヨリ購ヒ得シ者アレハ、先之ヲ博物館ニ出サシメ、之ニ其寫本ト償金トヲ與ヘテ、原書ハ之ヲ文庫ニ藏保スルノ法ナリ、其償金ノ如キハ、實ニ吾人カ信スルヲ得サルノ巨額ナリ、例セハ、德禮密、幼

爾及的士王(費拉德福斯)ガ幼里巴底索福拉士、以斯給拉士等ノ著書ヲ雅典ニ得タルトハ、其寫本ト與ニ一万五千弗ノ償金ヲ賜與ヒリ、同王ハ其西里亞征伐ニ於テ、嘗テ堪比西斯カ奪ヒ去リタル、表功碑ヲ斯哥巴太那及ヒ蘇撒ニ取リ、再タヒ之ヲ埃及ニ改建シ、以テ博物館ノ所轄トナセリ、

又德禮密、費拉德福斯王カ、セプトーショント(經典名)ヲ譯セシメシカ如キハ、其譯價ノ巨額ナル、殆ント信用ノ區域内ニアラス、

第二、益、智識ヲ擴張センカ爲メニ、王博物館ヲ以テ學生寄宿所トナシ、以テ才學兼備ノ官費生ヲ居ラシム、王時トシテハ自ラ其机前ニ坐スルコトアリ、(願フニ現時禮祭等ノ古式ハ、往々當時ノ俗ヨリ傳ハルモノアリ、)初メ館内ヲ分テ四部トナス、曰ク文學部、曰ク數學部、曰ク天文部、曰ク醫學部コレナリ、後此四部中ニ又數小部ヲ分生セリ、例セハ醫學部中ニ博物學部ヲ生セシカ如キコレナリ、館長ハ專ラ館中ノ責ニ任シ、德望學識

ヲ兼備スルノ士ニアラサルヨリハ、其撰ニ當ルヲ得ス、其第一撰ノ館長ハ、彼ノ博學ヲ以テ聞知セラレ、嘗テ雅典府ノ知事タリシ、達迷多里士、福拉流士氏是レナリ、館長ノ厨役ニ文庫長アリ、亦頗ル有名ノ士之ニ任ズ、以拉多全士、亞波爾羅尼士、勞底亞士ノ如キハ、百世ノ下、尙其名ノ不朽ヲ見ルナリ、

博物館ノ傍ニ植物園アリ、動物園アリ、是レ其學用ニ供スルナリ、又觀象臺アリ、渾天儀、地球儀、二至黃道線儀、星位儀、ニララシク、ルール等ノ諸器械ヲ備フ、當時ノ天文尺度器ハ、皆其一位ト、其六分ノ一トニ分度セリ、而シテ其地床板ニハ、妙ニ子午線ノ畫ヲ寫セリ、構造未タ精シカラスト雖、此時ヲ計ルニ格底西伯士ノ屠圭アリ、溫度ヲ計ルニ水針寒暖計アリ、水ヲ器ニ盛リ水針ヲ其中ニ投ジ、其浮沈ノ差ニ依テ、寒温ヲ知ルノ裝設ナリ、費拉德福斯王ハ、其死セシコトヲ恐レテ、只管其身ヲ浸劑ノ發明ニ任シ、爲メニ舍密藥局ヲ博物館内ニ設

置セリ、當時彼ノ埃及人ノ頑僻固陋ノ賦性ナルニモ拘ハラズ、館中能ク治療、解剖ノ二室ヲ并設シ、死罪ノ刑人ヲ生剖スルヲ許セシハ、實ニ奇中ノ一奇ト云ヘシ、
第三、知識ヲ各地ニ分布セシメ、メニ、此ノ博物館ハ、人事百般ノ知識ヲ交換スルノ所ナリ、或ハ之ヲ談話ニ交換シ、或ハ之ヲ討論ニ交換シ、或ハ之ヲ詩歌文章ニ交換ス、故ニ學徒ノ四方ヨリ輻湊スルモノ夥シク、甚シキハ一万四千餘輩ノ多キニ至レリ、耶蘇教寺院ニ於テ、尤モ有名ナル師父、哥勒而斯、亞勒山德瑪斯、阿里全、亞坐那、那士等ノ如キモ、皆一時ヲ此府ニ負ヘリ、
后博物館内ノ文庫ハ、入器、燈、燭ノ兵燹ニ罹レリ、故ニ哥禮於巴丁拉女王、其缺ヲ補ハシカ爲メニ、彼兒我馬士國主幼迷寧士王聚集スル所ノ文庫（本來ハ、德禮密文庫ニ競爭スル）ヲ、馬哥安敦（安敦哥烈加士ノ子ニ）ニ乞ヒ、カ爲メニ創立セシモノナリ、シテ、燈、燭ノ將官ナリ、

之ヲ西拉比斯社内ノ文庫ニ合セリ、

予ハ今博物館カ理學ノ基礎トナリテ、以テ人智ノ儲蓄ニ裨益ヲ與ヘタルコトヲ畧論セント欲ス、

予ハ如斯高尙ナル組織古哲ハ之ヲ稱シテ亞勒山德黎亞ノ神靈ト讃セリヲ創造シタル人ノ恩ヲ忘レサルカ爲メニ、先第一位ニ於テ、須ラク其著書「亞勒山德黎亞歷山大王戰功記」ヲ起思スヘシ、德禮密、曾德王ハ、勇以テ歷山大王ヲ

補佐シ、仁以テ庶民ヲ撫慰シ、知以テ諸書ヲ著ス、豈隆ナリト云ハサルヲ得ンヤ、嗚呼王ノ恩ハ千載ノ下、吾人チシテ感佩措能ハサラシムルモノアリト雖モ、該書ハ不幸ニシテ造化ノ嫉ミヲ受ケ、一モ今世ニ傳ハラサルハ、豈遺憾ノ極ニアラスヤ、

歷山大王、德禮密王、及ヒ亞里斯度德氏ノ交情ニ據テ之ヲ考レハ、其亞里斯度德理學ヲ以テ、博物館ノ基礎トナスモ、亦宜ナラスヤ、初メ非立王ノ

世ニ在ルヤ、大王ノ教育ヲ亞里斯度德氏ニ囑セリ、故ニ后大王ノ波斯遠征ニアルヤ、數事實ノ以テ參考ニ供スヘキモノト資金トチ氏ニ贈リ、以テ大ニ氏ノ博物學研究ヲ助ケタリ、

夫レ亞里斯度德學派ノ理學要訣ハ、歸納法ニ依テ一小事物ノ研究ヨリ進ミ、遂ニ一般ノ大理ニ達スルノ法ナリ、故ニ其依ル所ノ實事愈多キハ、其版納法ハ益、確實ナリ、若シコノ版納法ヲ以テ、未タ曾テ聞知セサルノ實事ヲ先見シテ、能ク其正鵠ヲ誤ラサルニ至ラハ、其議論ハ確實ト云ヘシ、故ニ版納法ハ、實事ヲ集ムルノ勞ト、數回ノ經驗ト、精密ナル視察トヲ要スルカ故ニ、之ヲ勞力ノ法ト云ヘク、又道理ノ法ト云ヘシ、而シテ敢テ輕薄空想ノ法ト云ヘカラサルナリ、版納法ハ、亞里斯度德其人ト雖モ、尙其過誤アルヲ免レズ、況ンヤ其他ノ人ニ於テヲヤ、然レモ此過誤ヤ、畢竟運用スルノ事實ニ乏シキカ致ス所ナルヲ以テ、管ニ該法ノ瑕瑾トナ

ラサルノミナラス、反テ其法ノ牢鞏確正ニシテ、信憑スルニ足ルノ確証ト云ヘシ、

氏カ此販納法ニ因テ達シ得タル大理中ニハ頗ル緊要ナル議論アリ、曰ク、萬物皆生々ノ理ヲ具有セリ、現時所存ノ有機体ハ、其周圍ニ隨テ形体ヲ成スノミ、若シ今周圍一變スレハ、從テ其形体亦一變スヘシ、故ニ上人間ヨリ、下禽獸草木ニ至ルマテ、萬物ノ間交關互係シ、脈々トシ斷ザル一鏈鎖ノ如シト、

氏ノ販納法ハ、實ニ確乎不拔ノ大法ニシテ、現時實學ノ進達ハ、一トシテ該法ノ賜ニアラサルハナシ、其尤モ改進シタル方法ハ、先ツ販納法ヲ以テ顯象(一小事實)ヨリ原因(總理)ニ溯リ、後中學^ア法ニ依テ、演繹法ヲ以テ原因ヨリ顯象ヲ還証スル是ナリ、

亞勒山德黎亞科學家、其學礎ヲ雅典大理學家(亞里斯度德)ノ格言ニ取

リシハ、以上己ニ論ズルカ如シ、而シテ其儀禮學校ノ如キハ、其教礎ヲ日那ノ規言ニ取レリ、其說ハ能ク永ク世ニ傳ハリテ、著名ナル希臘諸大家ノミナラス、羅馬ノ諸大理學家、政治家、軍人將校、及ヒ帝王等ノ心志ヲ安慰セリ、

日那氏ノ目的ハ、人ニ日用常行ノ道ヲ教ヘ、之ヲ善徳ニ導クニアリ、其說ニ云ク、教育ハコレ美德ノ本ナリ、人教育ナキハ無知ナリ、無知ナルキハ情慾多シ、情慾多キカ故ニ惡ヲ爲スナリ、人若シ善行ノ何者タルヲ知レハ、自ラ之ヲ修メシコトヲ欲スルナリ、五官以テ知識ヲ博メ、道理以テ之ヲ調和ス、(コノ點頗ル亞里斯度德氏ノ說ニ符合ス)造化ハ吾人ニ蒙ラスルニ宿命定業ヲ以テス、然レモ吾人ハ須ラシ理以テ其慾ヲ制シ、善以テ其身ヲ修メ、學以テ其知ヲ研キ、生涯不羈自由ナラシコトヲ求ムヘキナリ、吾人ハ智慧ヲ有スルモノナリ、故ニ宜シク恒ノ心ヲ以テ、歡樂哀傷

ノ事ヲ制スヘシ、吾人ハ不羈獨立ノ人ナルヲ記セヨ、社會ノ奴隸ニアラ
 サルヲ憶セヨ、造化發育ノ目的ハ、宇宙万有ニアリテ、吾人タル一私人ニ
 ハアラサルナリ、吾人ハ唯其目的ヲ達スルノ方便タルヲ以テ、宜シク夙
 夜ニ小心シテ、其善ヲ修メ、以テ宿命ヲ待ツヘキナリ、吾人靜カニ周圍ノ
 萬物ヲ見ルニ、生々又滅々、皆遷變展轉ノ相ヲ顯ハス、コノ轉變生滅ノ浮
 世ニアリテ、長睡不起ノ死アルヲ厭フハ、抑、愚ノ甚シキモノニアラズヤ、
 「ストイック」(日那)ノ弟子ヲ概シテ「ストイック」ト云フノ曰ク、我ニ外物ノ敢
 テ奪ヒ去ル能ハサル一寶アリ、嗚呼誰カ能予カ長睡不起ノ重寶ヲ奪ハ
 ノヤ」ト、宇宙ハ譬ヘハ瀑泉ノ如シ、其外相ハ年々相似タリト雖也、之ヲ組
 織スルノ水ハ時々交代スルナリ、宇宙モ亦轉變ノ瀑泉ノミ、若シ一体ト
 シテ之ヲ視ムルキハ、宇宙實ニ不變ナリト雖也、今日吾人カ見ル所ノ世
 界組織ハ、明日見ル所ノ世界組織ニ非ラス、但シ宇宙間ニ、唯三ノ不朽ナ

ルモノアリ、處ト勢ト微分トナリ、
 又曰ク、教育未タ世ニ普カラス、賢寡ノ愚多ケレハ、猥リニ人ノ宗教思想
 ナ破スルコト勿レ、吾人ハ唯无上ノ神力アリ、无上ノ神人ト稱スル者ナ
 キヲ知ラハ是可ナリ、若シ之ヲ換言スレハ、天地ニ充塞スルノ精氣アル
 ナ知レ、然ルニ世人猥リニ憶測ヲ逞フシ、彼レニ附スルニ、人類ノ情慾、形
 体及ヒ感動ヲ以テス、神威ヲ辱ムルノ甚シキ者ト云フヘシ、又神託ハ悉
 トク妄譚ナリ、決シテ之ヲ信スヘカラス、又偶然ノ珍事ト云アリ、コレ其
 原因スル所ヲ知ラサルノミ、偶然ノ珍事モ亦自ラ定法アリ、造化ハ一事
 ナモ私セズ、皆不變ノ法則ヲ履行スルナリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、宇宙ハ
 一ノ自動トモ云ヘシ、豈奚ソソ彼ノ神爲ナルモノアラシヤ、願フニ世ノ
 無知蒙昧ノ輩カ、呼テ上帝若クハ眞神トナスハ、彼ノ世界ヲ支配スルノ
 カヲ指スノミ、萬物ノ變遷其轍ヲ同フスルヨリ考フレハ、世界ノ進歩モ

亦(烟ニ蒔ケル種子ノ如ク)唯一定ノ法(即宿命)ニ因テ、其發達ヲ逞フスルヲ得ヘシト、
 又云ク、人ノ靈魂ハ活焰(即活理)ノ一小片火ナリ、其性頗ル熱ニ類シ、能ク一物ヨリ他物ニ遷リ、遂ニ當ニ其本原ニ還皈スヘシ、理學者誤テ之ヲ消滅トナス、蓋シ人甚タ疲勞スルキハ、熟睡シテ無感ナランコトヲ欣フ、理學者世界ヲ厭フキハ、其消滅センコトヲ欣フナリ、然レモ此等ノ事ハ、心ニ據ルヘキノ知ナキヲ以テ、輒ク之ヲ信スルヲ得ス、理學ハ唯能ク顯象ヲ説明スヘシ、未タ以テ第一因ヲ搜索スヘカラサルナリ、試ミニ思ヘ、人ニシテ一ノ完全ノ真理ヲ得タルモノアルヤ、稍、其理ヲ知ルモノアルカ如シト雖モ、若シ逐次其理ヲ問究スルキハ、遂ニ茫乎トシテ其說ヲ得ス、唯當ニ予未タ之ヲ究メスト云ヘキナリ、吾人ハ仮令ヒ實ニ真理ヲ發見シ得ルモ、未タ其真理タルコトヲ保セサルナリ、果シテ然ラハ、吾人ノ致

々トシテ務ムヘキコトハ何ソヤ、曰ク、

- 一ニハ聞見ヲ博フシ才識ヲ研磨スヘシ、
- 二ニハ美德ヲ累積シ友誼ヲ篤フスヘシ、
- 三ニハ眼ヲ真理ニ注キ正義ヲ擴張スヘシ、
- 四ニハ定業ヲ悲マズ、自然ニ從テ天壽ヲ全フスヘシ、

亞勒山德黎亞ノ博物館ハ、亞里斯度德學派ノ研究ヲ以テ、專ラ其主眼トナセシコトハ、己ニ前陳スルカ如シト雖モ、亦敢テ他ノ學派ナシトスヘカ
 ラズ、布拉多學派ノ如キハ、止ニ其發生ヲ逞フスルノミナラス、遂ニ却テ逍遙學派(亞里斯度德學派ヲ云フ、蓋シ學祖亞氏カ)ヲ壓シ、彼ノ新學院ニ於テ、永ク耶蘇教ノ基本ヲ置ケリ、抑、布拉多學派ノ理學ト云ハ、全ク亞里斯度德學派ノ反對ニシテ、其法、物論ヲ事物ノ準繩ト定メ、之ヲ以テ議論ノ原点トナシ、漸クニシテ一小事物ニ及ホスノ演繹法ナリ、故ニ之ヲ亞

里斯度德ノ、一小事物ヲ集メテ、漸ニシテ物論ニ達スル、版納法ニ比スレハ、實ニ天地雲壤ノ差アリ、

故ニ布拉多ハ想像ヲ以テ宗トシ、亞里斯度德ハ理長ヲ以テ宗トス、甲ハ物論ヲ細分シテ別論ニ下リ、乙ハ別論ヲ結集シテ物論ニ沛ホル、彼レハ唯空想ニ因ルヲ以テ、其功速カニシテ且ツ優ナリト雖モ、極メテ實地ニ迂ナリ、此レハ事實ヲ集メ、經驗ヲ累テ、視察ヲ積ミ、漸ニシテ之ヲ理解スルカ故ニ、其業繁ニシテ且ツ鈍ナリト雖モ、甚タ實際ニ切ナリ、故ニ曰ク、
布拉多理學ハ空中ノ樓閣ナリ、亞里斯度德理學ハ經驗ヲ礎トシ、視察ヲ基トシ、而シテ盤根錯節、岩石ノ上ニ建築シタル堅城ナリ、
其邪正眞偽ノ如何ニ拘ハラズ、煩勞ヲ厭フテ簡易ヲ欣フハ人ノ性ナリ、
亞勒山德黎亞ノ人心漸ク痿靡シ、知根己ニ衰弱ヲ招シヨリ、亞派ノ勞苦法ハ頓ニ衰微シ、布派ノ懶惰法ハ頓ル熾盛ナリ、安莫士、撒迦斯、耶蘇、教中

ニシテ、亞勒山德黎亞ノ人、波羅底那士、埃及、ライゴボリスノ人ニシテ、安ナリ、二百四十三年ニ死ス、
ニテ死ス、
現時ノ歐米格物家ヲシテ、彼レカ如ク大ナル好果ヲ得セシメタルノ法ハ、一トシテ其淵源ヲ上古亞勒山德黎亞ノ學校ニ發セサルハナシ、同輩ハ大ニ一己ノ想像說ヲ排シ、専ラ眼ヲ實地ノ經驗ニ注キ、更ニ數理ヲ以テ之ヲ説明セリ、其說ニ曰ク、凡ソ天地間ノ事理ヲ究メント欲セバ、實驗ヲ措テ他術アルナシト、今亞爾幾迷的、希臘ノ著名ナル理學者ニ、各殊重カノ研究、德禮密王視學ノ著書等ヲ考フルニ、頗ル現時實驗理學ノ法ニ稱ヒ、古代幻想記者輩ト同日ノ論ニアラサルナリ、
亞勒山德黎亞學校前ノ希臘ニハ、天文史上一ノ記スヘキ者ナリ、
シ、唯稍見ルニ足ルヘキモノハ、紀元前四百三十二年、米、
幼哥底門ノ二氏カ、夏至ヲ觀察シタルノ一事ナリ、然ルニ同府學校ノ起

ルニ及ンテ、三角量法ニ器械ヲ利用シ、以テ角度ヲ精量スルコトヲ發明セリ、故ニ天文學ハ當時已ニ稍、型模ヲナセリ、但シ其ノ尽善尽美ノ域ニ達シタルハ、纔カニ輓近ノ功業ナリト、

亞勒山德黎亞博物館ノ人智ヲ開達セシムルノ細事ヲ詳説スルハ、固ヨリ本篇ノ主眼ニアラス、唯予カ期スル所ハ、讀者ヲシテ其性質ノ一斑ヲ略知セシムルニアリ、然リト雖也、若シ尙之カ詳説ヲ得ント欲セハ、予カ著ス所ロノ(歐洲人智開達史第六章ニ就テ之ヲ見ルヘシ、

己ニ前ニ述ルカ如ク、士多亞學派(日那ノ)ノ説ニ依レハ、其學祖日那其人ノ如キモ、完全無缺ノ眞理ニ達スルコトハ、人智ノ及ハサル所ナリト自棄セリ、然ルニ都哥力度ナル人アリ、(亞勒山德黎亞有名ノ數學家ナリ、)世説ニ反對シタル大議論ヲ著シ、博ク之ヲ江湖ニ質セリ、其議論ノ精密ナル、其主義ノ明晰ナル、其基礎ノ正確ナルハ、二千二百年ノ下今日ニ至ルモ、尙議論ノ軌範

タルニ吐サルナリ、都哥力度(圓錐切斷法、數學書、ボリズムス、上、全)等普通數

學書ノ外ニ、亦音學及ヒ視學等ノ書籍ヲ著セリ、但シ其視力論ハ、光線眼ヨリ發シテ物体ニ達スルノ仮想説ナリ、

亞爾幾迷的ハ、生涯步ヲ西々里島外ニ出サスト雖也、宜シク之ヲ亞勒山德

黎亞數學、格物學ノ大家中ニ列スヘキナリ、其數學書中ニ於テ、(圓體論、)圓

球論ノ二書アリ、其説ニ云ク、圓體ノ實積ハ、之ヲ包圍スル圓球ノ實積三

分ニト同積ナリト、氏以爲ラク、此論ハ頗ル緊要事ナリト、乃チ命シテ其

圖ヲ墓碑面ニ彫シム、氏ハ又輪ノ一象限(圓形ヲ四分ニシタル一ニシテ

云)拋物線(圓錐形ヲ筋違)圓錐形、扁圓形、及ヒ亞爾幾迷的形螺旋機(亞勒山德黎亞)ナル友人可蘭(ノ説)等ノ解説ヲ著セリ、爾來二千年ノ久シキ、歐洲中一數學家ノ、以テ氏ニ比スヘキモノナシ、加之、氏ハ物理學ニ於テ、稱水學ノ基

ヲ開キ、尼羅河ヨリ揚水スル爲メ、亞爾幾迷的形螺旋揚水機ヲ創製シ、

評荒唐
說事實
理今古
一徹

各殊重力ノ定則、流動体ノ平稱、及ヒ水平ノ正説ヲ發明シ、且ツ火鏡ヲ創シ、以テ、西々里島（西々里島）ノ役ニ於テ、彼ノ羅馬軍艦ヲ火攻ニセリ、一時文庫長ニ任シタル、以拉多全士モ亦夥多ノ要書ヲ著セリ、其一書ニ云ク、若シ精ク熱帶間ヲ測量スルヲ得ハ、容易ニ地球ノ大小ヲ知ルヲ得ヘシト、氏ハ大陸ノ形狀、及ヒ其廣狹、諸山ノ脈勢、雲霧ノ効用、地質學的陸地ノ陷沒、海床ノ隆起、佗太尼里（一名注禮）日巴拉太（太平洋ト地中海）ノ兩海峽、由幾真海（現今ノ黑海）等ノ關係ヲ熟察シ、當時ノ地圖ニ加フルニ、物理、歴史、數學ノ三書ヲ以テシテ、能ク地球ノ大則ヲ編輯セリ、氏ノ著書、的蕃王本紀ハ、近世ニ至テ、始メテ其眞價ヲ生セリ、蓋シコレ荒唐無稽ナル神學記錄ノ爲ニ壓セラレテ、數十世紀ノ間、人ノ信用ヲ得サリシモノナリ、予ハ言ノ冗長ニ涉ランコトヲ恐ル、カ故ニ、亞勒山德黎亞人カ大地ノ團圓ナルコトヲ証明スルノ詳説ヲ省キ、數言以テ之ヲ貫カントス、曰ク

彼等ハ大地ノ形狀、兩極、地軸、赤道、南北兩極圈、晝夜平分点、冬夏二至線、及ヒ季候ノ異同等ノ正説ヲ主張シ、亞波爾羅尼士ハ、初メテ橢圓雙曲線（圓錐形）ノ語ヲ用ヒ、圓錐形（圓錐形）而論（マキシマ）（ミニマ）（皆數學）等ヲ著シ、亞里底爾拉士及智茂加里ノ兩氏ハ、深ク意チ天文ニ注ゲリ、就中智氏斯比爾加、費爾治尼阿ノ觀察ノ如キハ、能ク非彼羅查斯ヲシテ、晝夜平分点、先進ヲ發明セシム、而シテ又非氏ハ、大陸ノ第一背則（即チ中心ヲ外レタル橢圓形ノ軌道ヲ廻旋スルコト）ヲ發明シ、幾何學中、エビサイクル（大圓面ニ傍テ小圓ノ）トエクセントリック（中心）外レテ廻）トノ兩説ヲ以テ、天体視相ノ運動ヲ説明シ、太陽ト大陰ト諸表ヲ製シ、平線指法ニ依テ、星辰ノ目錄ヲ作り、其數無慮千零八十ナリト定メタリト、天若シ氏ニ數年ヲ假シテ、天体ヲ説明シ了ラシメハ、當ニ地ニ經緯度ヲ畫シテ、市村山河ノ位置ヲ説明シツヘシ、

如此威名赫々タル測量天文物理諸大家ノ星羅中ニ於テモ、**德禮密王**ノ
 「**シンタキソス**」若クハ「**數理組織天体論**」(原名エ、ツリチス、オン、セ、マセマ、
 ゼ、ヘー)ノ大著書ハ、其光輝燦爛トシテ他ノ星光ヲ歴スルヲ見ルナリ、今
 其所論ノ大要ヲ言ハ、地球不動ノ説ハ線表ノ組織、二至線ヲ鑒定スル
 器械、黃道ノ傾斜、各地ノ季候、圭表ヲ以テ各地ノ緯度ヲ定ムルノ法、**サイ**
ドリール、**イール**(解前ニ)ト**トロピカル**、**イール**(亦解前ニ)ノ説明、及ヒ其簡擇
 取捨、太陽系統ノ軌道ハ中心ヲ外レタル事、時差(天文學的ノ語ナリ、即チ
 ナ)大陰ノ運動、月蝕、大陰第一ノ背側、及ヒ軌黃兩道交角点ノ震動等ヲ記
 シ、漸ニシテ自己ノ大發明タル大陰第二ノ背側、即チ大陰ノ震動(大陽ノ
 依テ大陰正シク其軌道ヲ巡廻スルヲ得ス、故ヲ以テ凡)チエビサイクル」
 ソ一度二十分程其上弦ノ増加ヲ速カニスルヲ云フ)チエビサイクル」
 説ニ調和スルコトニ論及セリ、コレ實ニ**德禮密王**ヲシテ芳名ヲ萬代ニ
 流サシムルモノナリ、而ル後地球ヨリ日月ノ距離ヲ計リ、然レモ惜哉、遂

蒸氣器
械之權
輿

ニ其功ヲ全フセス、非彼羅查斯ノ大發明タル、晝夜平分点ノ先進ヲ論シ、
 其一周期年ヲ二万五千年ト算知シ、千零二十二星ノ目錄、銀河ノ性質、各
 遊星ノ運動等ヲ詳論セリ、コレ亦王カ現時ノ實學組織ニ就テ頗ル有功
 ナルノ点ナリ、**王ハ古哲ノ觀察ヲ自己ノ觀察ニ參觀シ、以テ遊星ノ軌道**
ヲ定メタリ、智茂加里カ金星ヲ觀察セシカ如キ、大ニ王ノ参考トナレリ、
 コノ(數理組織天体論)ハ、其榮名ヲ天文學上ニ恣マ、ニスル、千有五百年、
 牛董ノ大著書(万代)(原理論)出ルニ及ンテ、始メテ其地步ヲ之ニ讓レリ、
 亞勒山德黎亞人**格底西伯士**ハ、火機關ヲ博物館ニ發明シ、其門人**希魯**(亞勒
 黎亞)ニ於テ著名ナル、更ニ二箇ノ圓壙ヲ加ヘ、大ニ之ヲ改良セリ、又希氏ハ
 數學兼理學家ナリ、中心空虛ナル鉄球ニ一管ヲ設ケ、其球ニ入ル、ニ水ヲ以
 「**エオパイル**」法ヲシテ、且ツ之ヲ熱スルキハ、蒸氣管口ヨリ噴出スルノ設
 置ヲ以テ、一ノ蒸氣器械ヲ運轉セリ、之ヲ世界蒸氣器械運轉ノ嚆矢トナ
 ス、格底西伯士、亞波爾羅尼士ノ二氏、滴々時ヲ計ルノ漏壺ヲ創製セシヨ

改大陰
曆爲大
陽曆

リ、復天使殿堂ノ寂寞幽靜ノ景ヲ見ルヘカラス、
 當時羅馬曆ハ頗ル錯雜ヲ極メ、之カ改良ヲ要スルノ点ニ至レリ、故ニ入
 略、愷撒、亞勒山德黎亞ノ天文家索西全士ヲ招聘シ、其發議ニ從ヒ、大陰曆
 ナ廢シテ大陽曆ニ改メシム、依テ之ヲ名ケテ入曆ト稱ス、
 埃及ノ馬基頓王ハ、其宗教ヲ遇スル極メテ薄シ、唯之ヲ其下等社會ヲ統
 御スルノ具トナスニ過キズ、而シテ其中等以上ノモノニ至テハ、理學ヲ以
 テ之ニ代タリ、蓋シ馬基頓王ヲシテ策ヲ是ニ取ラシメタル者ハ、其亞細
 亞遠征中ニ得タル所ノ經驗ナリ、既ニ嘗テ自國希臘ニ行ハレタル神學說
 ハ、正シク荒唐無稽ノ妄說ニシテ、上古ノ詩人カ、地中海ヲ粉飾シタル奇
 事モ、亦悉トシ無根ノ架空說ナルヲ知レリ、オリソパスノ諸神ハ、今復之
 ヲ拜スヘカラス、加之、オリソパスニテ尙且之ヲ見ルヘカラサルナリ、冥
 土ハ之ヲ恐怖スルノ念ト共ニ消滅シ、嘗テ山河森林ニ住シタル男女ノ

諸神モ何時シカニ其踪ヲ隱シ、深ク之ヲ尊崇シタル信者モ、尙其嘗テ住
 玉ヒシコトアルヤヲ疑フニ至レリ、若シ當時西里亞ノ少女輩カ、彼ノ相
 思曲（歌名）ヲ謠フヲ聞テ、亞達尼士（歌中人名）ノ薄命ヲ憐ムコトアラハ、コレ唯
 一時ノ情ニ感スル者ノミ、敢テ之ヲ實事ト信ズルニハアラザルナリ、彼
 ノ波斯帝國ノ如キモ、屢、其宗教ヲ變換シ、藏羅亞士德教ヨリ二元論教ニ
 移リ、又施政ノ便ニ依テ、更ニ之ヲ適實教ニ改メ、火ヲ拜シ朝陽ヲ祈リ、山
 頂ノ神卓上ニハ常燈明ヲ点シタリシモ、歷山大王此國ヲ征セシキハ、再
 タヒ万有神教ニ變セントシタリ、
 凡ソ國家危急ノ秋ニ方テ、神祇ノ之ヲ加護スルコトナキハ、人民之ヲ
 尊崇スルノ念ヲ減却スルハ、亦勢ノ已チ得ザル所ナリ、埃及ノ如キハ、其
 鎮守神ヲ畏敬スルノ念ヲ以テ、或ハ方尖石碑ヲ寄附シ、或ハ社祠殿堂ヲ
 建立シタリト雖モ、外寇踵テ至リ、劍戟馬蹄ノ金字塔、巨像（世界七奇ノ一）神像獅

而女身等ヲ犯スコトアルモ、敢テ之ヲ罰スルノ神威ナシ、是ヲ以テ、人民之ヲ信スルノ念ヲ失シ、更ニ時好ニ適スルノ宗教ヲ求メ、西拉比斯トオシリス(共ニ埃及及)トハ互ニ其神威ノ優劣ヲ角ヘリ、亞勒山德黎亞ノ市街ニハ、希伯來族ノ殿堂帳内ニ鎮座マシマス上帝ヲ忘レタルモノアルコト、其幾千人ナルヲ知ラザルナリ、今ヤ歐洲ノ口碑、亞細亞ノ詔宣、埃及ノ古説ハ、皆悉トク湮滅ニ皈セリ、コレ德禮密諸王ヲシテ信心ノ薄弱ナルヲ觀、宗教ヲ輕賤セシメタル所以ノモノナリ、然レモ、德禮密諸王ハ皆以爲ラク、信仰ノ劣弱ニシテ宗教ノ無常ナルハ、恰カモ既ニ過キ去リタル地質時代ノ有機體ノ如ク、一タヒ經過シ去ルニハ消テ痕ヲ留メズ、永久復之ヲ回スヘカラスト雖モ、尙一物ノコレヨリ永ク相續現前スルモノアルヲキテ得ンヤ、此轉變遷流ノ虛偽世界ノ

中ニ於テモ、必ラズ當ニ永久不變真實無垢ノ一世界アルヘシト、夫レ世界ハ活物ナリ、未開時代ノ説ヲ傳フル口碑、若クハ默示ナリト思考シタル妄信者ノ夢ヲ以テ、之ヲ開達セシムヘカラス、能クコノ世界ヲ改進セシメ、以テ吾人ニ無價ノ幸福ヲ保有セシムルモノハ、ソレ唯幾何學ノ研究ト宇宙ノ實驗カ、將來何人カ能ク都哥力度ノ説ヲ破シ得ルモノゾ、何人カ能ク以拉多全士ノ地球説ニ疑ヲ容ル、モノゾ、亞勒山德黎亞、西拉給士ノ兩府ニ於テ、事物ヲ發明シタルノ思ハ、天地ト共ニ不朽ナルヘシ、非波羅查斯、亞波爾羅尼士、德禮密王、亞爾幾迷的ノ名ハ、世人之ヲ稱讚スルノ間ハ、各宗教者モ亦之ヲ尊稱セザルヲ得ザルヘシ、亞勒山德黎亞ノ博物館ハ、是レ現時科學ノ育床ナリ、其設立ニ先ツク數百年、表那及ヒ米所波、太迷亞ニ天文ノ觀察アリ、印度ニ數學ノ鍊磨アリト

雖也、コレ皆規畫ノ以テ法トルヘキナク、經驗ノ以テ依用スヘキナシ、彼ノ亞勒山德黎亞人カ、我現時ノ科學ニ對シテ、尤モ有功ナルノ要點ハ、事物ノ觀察ト、宇宙ノ實驗トナ、併用シタルノ一事ナリ、

第二章 耶蘇教ノ起原

羅馬共和政治ノ時世宗教形勢ノ事○帝王政治ニ變シテヨリ獨
 一眞神說ヲ尊崇セシ事○羅馬帝國ニ耶蘇教蔓延ノ事○耶蘇教
 無上ノ權威ヲ得ル事 附 異教ト混同スル事○三位一體說及ヒ其
 行狀ノ事○君子坦丁帝ノ大權ヲ握リシハ會、耶蘇教ヲシテ品格
 ナ下サシメシ事○耶蘇教俗官ト一致同盟ノ事○耶蘇教ト實學
 トハ兩立スベカラザル事○亞勒山德黎亞府大學校破却ノ事 附
 實學ヲ禁止スル事○埃額士丁派理學及ヒパトリスタックノ理學要
 旨ノ事○經典ヲ以テ實學ノ基礎ト定メシ事
 舊史ニ據リ、政治上ヨリ之ヲ論スルキハ、耶蘇教ハ羅馬帝國ノ遺物ト云
 ハザルヲ得ズ、
 夫レ羅馬ノ共和政治遷テ帝王政治ニ入ラントスルノ時ニ方テ、地中海

近傍ノ諸國、甲乙相凌キ相戰ヒ、紛亂常ニ麻ノ如シ、其後羅馬悉トク之ヲ滅シテ、遂ニ一統帝王ノ世トナリ、始メテ太平ノ形狀ヲ表セリ、故ニ此諸國ノ亡滅ハ、其人民ノ爲メニハ、意外ノ幸福ト云フヘキナリ、

己ニ勝利ヲ得タル羅馬軍隊ハ、好事ニモ彼ノ諸國ノ神像等ヲ持取リ、縱マ、ニ諸人ヲシテ參詣セシム、初メ此神像ノ諸國ニアルヤ、無上ノ神威ヲ振ヒシモ、今斯ク博覽會ノ如ク、大都ニ陳列シ、人ニ縱請セシメシヲ以テ、神威自ラ榮爛ノ色ナク、遂ニ諸神モ亦其國王ト共ニ、跡ヲ世上ニ絶ニ至レリ、讀者若シ能ク緻密ナル關係ノ、古來政教間ニ在ルコトヲ考フルキハ、今日獨一帝王ノ羅馬國ニ、獨一眞神說ノ流行シ、死セル帝王ヲ崇テ神トシ、遂ニ生存ノ帝王ヲモ、神尊スルニ至リシヲ怪マザルヘシ、

東國希臘ニハ、イソカルチトシヨント云テ、天神下界ニ降誕スルノ說アリ、西國羅馬ニハ、アポセオシスト云テ、人間昇天ヲ神明ト爲ルノ說アリ、

リ、其說各異ナリト雖、衆神ノ天界オリムパスニ充塞スルノ意ハ皆ナ一ナリ、故ニ古羅馬教ニ疑念ヲ起サシメタルハ、希臘教疑念ノ傳染ニ非スシテ、自カラ獨神教ノ起因ヲ招キシナリ、然レモ習慣ノ久シキ、漸ク第二ノ天性ト成リ、一朝人民ヲ擧テ、獨神信者ト爲スコト得ス、初メハ人事變遷ノ理ニ通シタル、法律家、商法家、軍人、學士等識量アル者ノミ之ニ轉入シ、終リニハ、農人、力夫モ亦漸ク之ヲ信スルニ至レリ、

顧フニ、世ノ權威強キ者ノ驕奢ニ流ル、ハ古今ノ通患ナリ、羅馬ノ權威己ニ極点ニ達シ、其驕奢モ亦漸ク極点ニ至レリ、其說ニ云、人世ハ一壞ノ宴席ナリ、唯尊フヘキ者ハ勢力ノミ、唯希フヘキ者ハ愉快ノミ、勢力アレハ爰ニ富アリ、富アレハ爰ニ愉快アリ、何ノ富カ勢力ヲ以テ得ラレザラシ、何ノ愉快カ富ヲ以テ得ラレザラシ、道德ヤ、節義ヤ、唯此愉快ヲ調和スルノ具ノミ、人若シ勢力ノ廣大貴重ナルヲ知ラント欲セバ、請フ帝王ノ

尊貴ヲ見ヨト、
 當時東部西利亞ニ數人共同シテ一社ヲ結ビ、領リヨ一視同仁、四海兄弟ノ説ヲ主張シ、大ニ道德ノ恢復ヲ謀レリ、耶蘇基督之カ主唱者タリ、當時希伯來人中ニ專ラ流行セル口碑アリ、云ク、天帝末世澆季ノ俗ヲ惡ミ、之ヲ太古ノ美風ニ復セシカ爲メニ、救世者ヲ下界ニ降シ玉フコアルベシト、是ニ於テ耶蘇ノ徒弟ハ、耶蘇ヲ以テ其救世者ナリト信崇ス、而シテ時ノ祭司長等ハ、之ヲ駁シテ利己ノ邪説ナリトシ、遂ニ國守ニ請フテ之ヲ磔刑ニ處セリ、然レモ己ニ羅馬一統ノ後ハ、人民漸ク彼我ノ醜態ヲ離レ、一視同仁、四海兄弟ノ説大ニ其時好ニ投セリ、加ルニ其門徒等ハ、耐忍不屈、協同一致ノ社ヲ結ビ、各其所有品ヲ喜捨シ、或ハ鰥寡孤獨ノ貧民ヲ救ヒ、或ハ其傳教師ヲ四方ニ派遣スル等、古來未曾有ノ良方便ヲ利用シタルハ、其教ノ蔓延スルヲ極メテ神速ナリ、始メ西利亞ヨリ出テ、忽チ

小亞細亞、西波羅士、希臘、伊太利、豪兒、不列顛ニ流布セリ、案スルニ、後來蔚然タル一大社會(寺院ヲ新設シ、政權ヲモ、其範圍内ニ包攝スルニ至リシハ、蓋シ其根コ、ニ在リ、決シテ偶然ニアラザルナリ、
 耶蘇教ハ早シ羅馬帝國領内ニ流布セシヲ以テ、遂ニ羅馬ヲ其本山地ト爲セリ、願フニ、救世者即チ耶蘇ノ墳塋地耶路撒冷ヲ捨テ、却テ聖彼得(耶蘇ノ徒)ノ往生地羅馬(聖彼得羅馬ニ死スルノ説、聊サカ疑ナキ)ヲ以テ、本山地ト定メシハ、唯ニ其便利ヲ謀レルナリ、
 仰テ上帝ヲ畏敬シ、俯シテ社會ヲ愛恤シ、願テ其德ヲ脩ムルノ三事ハ、是レ耶蘇教徒規律ノ要訣ナリ、其勢力微弱ノ時ハ、唯温言以テ之ヲ勸ムルニ止リシト雖モ、其勢力強大ナルニ及テハ、威權以テ之ヲ壓シ、政府外ニ政府ヲ設ケ、帝國外ニ帝國ヲ開キ、教權ヲ以テ政權ヲ併吞セントスルノ覬覦ヲ生シ、遂ニ帝王ヲシテ、已ヲ得ス兵權ヲ弄セシムルニ至レリ、今其

証ヲ舉ハ、耶蘇紀元三百二三年ノ時、或ル地方ニ於テ、耶蘇教ノ兵隊、古來ノ例法タル氏神祭禮ヲ拒ミシヨリ、忽チ一ノ紛紜ヲ生シ、兩党相闘ヒ、其騒動遂ニ全國ニ波及シ、物議豈々人心恟々タリ、時ノ皇帝達阿格勒上深ク之ヲ患ヒ、公會ヲ招集シテ、鎮定法ヲ下問スルニ至レリ、學者若シ帝ノ皇妃皇女皆耶蘇教信仰ノ人ナルヲ思ハ、帝ノ之ヲ處スル極メテ難事ナルヲ知ラシ、然ルニ帝性寛仁ナリ、故ニ之カ勅詔ヲ爲シテ曰ク、此暴党ヲ鎮壓スルハ、固ヨリ當然ノ事ト雖モ、宜シク其罰ヲ緩フスヘシト、然レモ、暴党ノ勢益々熾コシテ、或ハ王宮ヲ焚キ、或ハ寺院ヲ毀テ、頗ル猖獗ヲ逞クセリ、故ニ到底帝意ヲ貫クコト能ハス、遂ニ殘酷ナル修羅闘争ノ國トナリタリ、

凡ソ物之ヲ壓スルコト重ク且久キキハ、其反動モ亦從テ強キモンナリ、彼ノ耶蘇教徒ノ如キ、他ノ壓抑ヲ忍耐セシコト、茲ニ數百年ナリ、故ニ其

帝王入
耶蘇教
之權輿

反動モ亦從テ強大ナリ、達阿格勒上帝己ニ位ヲ退シ、當時君子坦丁ナルモノアリ、熱世ノ動靜ヲ察シ、耶蘇教ヲ奇貨トシ、始メハ陽ニ信心ヲ示シ、卒ニ耶蘇教暴徒ノ首魁トナレリ、果シテ心算其圖ニ中リ、國中大衆ノ心ヲ得、老少喜ソテカヲ致シ、男女好シテ志ヲ運ブ、故ニ彌兒費安橋ノ激戰ニ勝テ、尋テ密幾西民里士尼亞士ノ兩敵ヲ亡ホセシ、後ハ帝國廣シト雖モ、一人ノ又敢テ彼ニ敵スルモノナク、遂ニ君子坦丁ハ、愷撒ノ位ニ即ケリ、此ヲ帝王耶蘇教ニ入ルノ始トナス、

抑、人ノ威利ニ就クコトハ、古今ノ同情ナリ、今耶蘇教ハ斯ク權位、利ノ府トナリシヨリ、人皆ナ其位、利ヲ射シコト欲シ、陰ニ他教ヲ奉スルノ徒モ、陽ニ耶蘇教ヲ主張スルニ至レリ、然レモ、内心ノ信仰ハ、外形ヲ以テ遠カニ動カスベキニアラザレバ、外形内心相混シテ、遂ニ彼此混同セル一種異態ノ奇教ヲ生セリ、君子坦丁帝モ亦同病其人ナレバ、敢テ之ヲ咎ムル

コトナク、其身モ臨終(耶蘇紀元三百三十七年)ノ夕ニ至ルマテ、耶蘇教寺院ノ法式ヲ遵ラザリシハ、實ニ奇怪ノ信者ナリ、
 以上ハ耶蘇教ノ大權ヲ掌握スル迄ノ零史ナリ、今予ハ讀者ナシテ、其變化ノ著シキヲ知ラシメシガ爲メニ、當初純粹無垢ノ耶蘇教ト、輒近ノ耶蘇教トヲ對照比較セント欲ス、先ツ耶蘇紀元二百年比ノ著述保護耶蘇教徒論(該書ハ西威拉士虐殺ノ時、ブルチニヨリ德宙安ガ其宗教ノ由來ヲ示シ、其教徒ヲ保護センガ爲メ、裁判官ニ出セシモノナレハ、區々タル僧侶ノ私言ニアラス、實ニ堂々タル一大議論ト云ベシ)ヲ左ニ抄出セン、云ク、
 夫レ耶蘇教ハ元ト宇宙遍歷ノ旅人ナリ、故ニ至ル所、必ス多少ノ難敵アルハ、固ヨリ豫期ノ事ナリト雖モ、予ハ法官諸君ニ向テ、唯一言ノ歎願スベキコトアリ、何ソヤ、曰、其訟ノ辨明ヲ待タスシテ、之ヲ罪スルコトク、飽マテモ被告ノ辨護ヲ許スコト是ナリ、若シツレ此クノ如クナルト

キハ羅馬法律モ愈益、光輝ヲ加フヘキナリ、未タ其理非チ審ニセズシテ之ヲ忌ムキハ、假令ヒ其物質ニ忌ムヘキモノニモセヨ、決シテ其當チ得タルモノニアラス、其名ヲ聞テ其實ヲ掛クス、遽カニ之ヲ黜罰スルカ如キハ、予大ニ法官ノ爲メニ取ラサルナリ、抑、我耶蘇教ナルモノハ、其由來尤モ久シ、諸君カ知ノ以テ記臆スヘカラザル太古ヲ記シ、國郡州市ノ未タ起ラサル以前チ記シ、世ノ廣益ヲ裨補スル文字未タ發明セラレサル時、歴史ノ未ク傳ラザル時、諸君ガ尊崇スル神社靈廟ノ未タ起ラサル時ヲ記セル、尊重無比ノ經典タル(摩西五經)中ニ合包スル宗教ナリ、該書著述ノ年代ヲ尋レハ、推來戰爭ヨリ千年前、和墨耳前千五百年ニアリ、嗚呼千古ノ傳ル所豈誣ユベケンヤ、故ニ彼ノ救濟家ノ名アル(德禮密王陛下ハ、達米多里士、福拉流士ノ言ヲ用テ、該書ヲ際サセ之ヲ文庫ニ藏セリ、而シテ其寫本ハ、今尙依然其文庫中ニアリ、其書ノ

神聖ナルハ、古來人世ノ轉變、風教ノ盛衰、一ニ其示ス所ノ如クナルヲ見テ之ヲ知ルヘシ、何ノ危疑ナルコトカ之レアラシ、其預言ノ的中ハ、豈其神聖ノ証ニアラスヤ、已往ノ識言果シテ其徴アリ、豈來者ノ識言亦其徴アルノ証ニアラスヤ、嗚呼我輩ハ過去ニ徴シテ誤ナキノ書ハ、又之ヲ未來ニ信セサルヲ得サルナリ、
 其謹メテ聖書ヲ案スルニ、天地未タ開ケサルノ前、唯一ノ能造真神ア、宇宙間空无一物ヨリ天地万物ヲ創造セリ、而ルニ、此神ヤ眼以テ見ナク、心ヲ以テ見ヘス、耳以テ聞ヘク、而シテ聞ヘス、聽ル、カ如ク現ル、カ如シ、其神變無量ナルハ、唯神ノヨリ獨能ク之ヲ知ル、凡慮ノ能ク思議スヘキニアラザルナリ、而シテ此神ハ能ク人間生涯ノ作業ヲ考ヘ、或ハ之ヲ賞シ、或ハ之ヲ罰シ、且ツ世界將ニ壞セントスルニ、開闢以來ノ人類ヲ蘇生セシメ、再ヒ之ヲ裁判シ、其有徳ノ者ハ之ヲ天堂ニ迎ヘ、

永劫無限ノ天福ヲ授ケ、其有罪ノ者ハ之ヲ地獄ニ墜シ、盡未來際苦患ヲ受ケシメ、地獄ノ猛火ハ地下ニ隱伏セリ、又此神ハ、希伯來族中ニ數其說法者ヲ降シ、以テ神意ヲ説カシメタルコトアリ、而シテ希伯來族ハ、其法言ヲ一々聖書ニ記入セシメアリシガ、我耶蘇教モ實ニ其預言中ニ攝在セリ、唯其法式ニ至リテハ、少シク希伯來族ニ異同アルニシ、然ルニ、今予輩ヲ誣ユルニ、希伯來人ノ真神ヲ信セズ、凡人ヲ信スルヲ以テ名トス、嗚呼亦思ハザルノミ予輩ノ基督ヲ尊奉スルハ、即チ上帝ヲ尊崇スル所以ナリ、上帝深ク其先祖ノ篤敬ヲ嘉スルヤ、殊ニ希伯來人ヲ眷愛シ、數々神秘天機ヲ親諭セリ、コレ古來希伯來人ノ威、世界ニ藉々シ、所以ナリ、然ルニ、希伯來人ハ、是ヲ之レ思ハスシテ、漸ク淫社俗祠ヲ祭ル、上帝赫トシテ爰ニ怒リ、乃チ嚴命ヲ垂レテ曰ク、汝等今ニシテ其非ヲ改メスンバ、朕將ニ他族中ニ其忠僕ヲ求メ、汝等ノ罪ヲ治メ

テ其本國ヲ還シトスト、信ナル哉、今希伯來人ヲ見ルニ、居ルニ定地ナ
 シ、奉スルニ君主ナク、信スルニ眞神ナシ、幼時呼吸スル空氣ハ、以テ老
 後呼吸スルノ空氣ニ異リ、誕生ノ地ハ以テ之ヲ墳墓地下ナスヲ得サ
 ルナリ、神勅豈炳焉ナルニアラスヤ、上帝又世界中尤正直ナル種族ヲ
 撰ビ、之ニ救世主ナル者ヲ降シ、以テ新律ヲ開ンヲ豫約セリ、此救
 世主ナル者ハ、即チ吾人カ尊崇スル所ノ耶蘇基督即其人ナリ、即其眞
 神ナリ、蓋シ一燭ノ火ヲ取テ他燭ニ點スレバ、其火ハ二ナリト雖モ其
 体性ハ異ナルヲナシ、此譬以テ耶蘇ノ眞神ナルコトヲ証スベシ、何ト
 ナレバ耶蘇ハ元天地ノ主宰タル眞神ヨリ分身セリ、故ニ彼ヲ眞神ト
 云ヒ此ヲ聖子ト云フ、其位ハ各別ナリト雖モ眞神タルノ理ハ同一ニ
 シテ異ナルコトナケレハナリ、又經典中ニ聖子ノ降臨兩度アルヲ
 説ケリ、初回ハ慈悲ヲ以テ、人ノ罪障ヲ消滅セシムル爲メニシテ、後ハ

嚴威ヲ以テ善惡ヲ賞罰センガ爲メナリ、此事ハ希伯來人モ亦熟知ス
 ル所ナリ、然レモ罪障雲深ク、智眼霧覆ヒタレバ、己ニ其初度ノ降臨ア
 リシコトヲ知ラズ、偶、其奇蹟ヲ見ルコトアレハ、却テ之ヲ魔法ナリト謗リ、
 空ク天ヲ仰テ其降臨ヲ待ツカ如キハ、抑、惑ヘルノ甚シキモノニアラ
 スヤ、就中法律博士及ビ祭司長等ハ、畏クモ其盛徳ヲ嫉ミ、遂ニ之ヲ巴
 以勒太ニ誣告シ、酷マシクモ之ヲ磔柱ニ上ホセリ、豈哀シカラスヤ、然
 レモ固ヨリ神通自在ノ聖体ナレバ、埋葬スルノ後三日、忽然トシテ蘇
 生シ、門弟子中ニ留リ玉フテ四十日ナリ、己ニシテ瑞雲天ヨリ降り、主
 チ載セテ忽チ昇天セリ、其証蹟ノ確實ナルコトハ、羅馬路王 羅馬城 開基等ノ
 上天トハ、同日ノ論ニアラザルナリ、
 斯ク論シ來レバ、眞神ノ事ニ就テハ、諸君モ零之ヲ解スルコトナラン、故
 ニ予ハ今論鋒ヲ轉シテ、惡魔外道ナル者ノ性質ヲ論スヘシ、抑、大魔王

ヲ沙但ト名ケ群属皆之ニ隨從ス是等ノ眷属悉ク神通ヲ得タレハ空中サタシヲ飛行スルヲ鳥ノ如ク地上ヲ走ルヲ矢ノ如シ故ニ或ハ天機ヲ窺ヒ得テ之ヲ人間ニ預言シ以テ其尊崇ヲ博シ或ハ天變地妖ヲ起シテ人ヲ劫シ犠牲ヲ取テ己カ食トナシ或ハ疫癘ヲ起シ或ハ饑饉ヲ來ス等實ニ惡行至ラサルコトナシ而シテ其預言ナルモノヲ見ルニ皆既ニ已ニ世界ニ起リシ事ヲバ未タ知ラザル人民ニ向ヒ真ニ預言ノ如ク之ヲ宣言セシナリ彼ノ法耳沙士王ノ當ニ敗北スヘキ事ヲ羅馬ニテ預言セシカ如キハ實ハ既ニ敗北セシヲ見テ之ヲ言ヒシナリ又其病者ヲ癒スノ法ヲ見ルニ初メ無病健全ノ人ヲ鬼悞シ而ル後之ニ其療法ヲ教ヘ或ハ自ラ呪法ヲ修シ其好機ヲ慮リテ其鬼悞ヲ解クノミ人固ヨリ疾アルニアラス唯一時魔鬼ノ爲ニ鬼悞サレシノミ然ルニ人之ヲ察セス寔ニ驗應アリト思ヘリ已ニ太々惑ヘルニアラスヤ

以上眞神ト惡魔トノ大略ヲ説ケリ今予ハ更ニ我耶蘇教徒信行ノ一斑ヲ説クヘシ耶蘇教徒カ帝王ヲ指テ眞神ナリト稱スルヲ欲セザルハ固ヨリ之ヲ論スルヲ要セザレト決シテ其帝位ノ顛覆ヲ喜ブモノニアラス實ニ寶祚万歳ヲ祈ルモノナリ四海ノ太平ヲ望ムモノナリ何者寶祚堅カラザレバ四海安穩ナラス四海安穩ナラザレバ一視同仁四海兄弟ノ説行レス故ニ彼ノ耶蘇教徒ノ如キハ尤モ深ク宇内ノ騷乱ヲ畏ルモノナリ實ニ帝王法官ノ武運ヲ祈ルモノナリ世界ノ平和長久ナランヲ禱ルモノナリ其經典ヲ誦持スルハ敬神ノ念ヲ長養シ願心ヲシテ益敦厚ナラシメンカ爲ナリ其寺院ニ集會スルハ相與ニ懇誠シテ勸善懲惡スル所以ナリ故ニ其會頭ハ身沙ヒシヨツナ官名中ヨリ公撰シテ之ニ任ス而シテ其月末ゴトニ有志輩ヲシテ多少ノ金員ヲ喜捨セシムト雖モ未タ強テ之ヲ人ニ求メザルナリ此信心ノ抵當品クル金

園ハ、之ヲ何等ノ費用ニ供スルヤ、飲食ノ情ヲ慰ムルカ爲カ、曰ク否、衣
 住ノ美ヲ貪ルガ爲カ、曰ク否、其血氣壯年ノ時ヨリ、深ク我眞神ノ威徳
 ナ尊信シ、其罪ニアラスシテ縲綬ヲ蒙リ、或ハ鑛坑ノ苦役ニ陥リ、或ハ
 牢獄ノ中ニ幽閉セラレ、衰弱無怙ノ老夫ニ施スナリ、難船ノ窮夫ヲ救
 ナリ、鰥寡ヲ賑ハスナリ、孤獨ヲ恤ムナリ、毫厘ト雖ヒ未タ嘗テ私情ノ
 爲ニ費サバシルナリ、耶蘇教徒ノ其樂ミトスル所ハ、金衣ニアラス、玉食
 ニアラス、又聲音姿色ニモアラス、無罪、正直、耐忍、節慾、潔行、ノ五事ヲ守
 リテ、其生涯ヲ送ルニアルナリ、彼輩ノ連合團結ハ、親密如此ナリト雖ヒ、
 唯一物ノ之カ共有ヲ許サバシルモノアリ、何ソヤ、曰ク、其妻女即チ是ナリ、
 予ハ今更ニ一步ヲ進メテ、法官諸君ニ告グヘキコトアリ、曰ク、諸君ヨ、諸
 君ハ己ニ業ニ熟知セラレ、オラン、我耶蘇教ハ、其開宗ノ日尙ホ淺シ
 ト雖ヒ、羅馬全國、何ノ地カ此教ヲカラン、羅馬城内ニ、人民ノ公會ニ、禁

中ニ、公堂ニ、郡縣ニ、市街洲島ニ、行軍隊中ニ、求ル必ラス其徒ヲ得、行シ
 必ス其人ニ遇フ、唯諸君ノ手ニ剩ルモノハ、其生息スル所ノ宮殿ノミ、
 家屋ノミ、諸君幸ニ之ヲ一想セヨ、我耶蘇教徒ニシテ、蒙ロ人ニ殺サル
 、モ、人ヲ殺スコト勿レノ箴言アリテ、其行爲ヲ束縛スルコトアルニアラ
 サレバ、幾万ノ軍勢ヲ催促シ、幾万ノ生靈ヲ殺戮シ得ルヤチ、コト一言
 ハ、實ニ後來一大變動ヲ現出スルノ凶兆ナリキ、予ハ將ニ此議ヲ終ラ
 シトスルニ當テ、尙諸君ニ一言スヘキコトアリ、曰ク、經典ハコレ百般
 人智ノ倉庫ナリ、理學者ナリ、詩人ナリ、一トシテ其恩ヲ經典ニ擔ハサ
 ルモノナシ、又經典ハ百眞理ノ度量權衡ナリ、苟モ經典ニ背馳スルモ
 ノハ、其所論ノ何物タルヲ問ハス、必ス其說虛妄ナラザルヲ得ズト、コ
 ノ一節ハ、實ニ後來歐洲人智發達上ニ、非常ナル影響ヲ及セルモノナ
 リ、

以上テ德宙安ノ所説ニ由テ之ヲ觀レハ、耶蘇教モ亦其幼稚微弱ナルノ時
 ハ、多少ノ酸辛ヲ嘗テ、仁義道德ヲ行ヒシヤ明ラカナリ、既ニ其幼稚ノ行
 ナ知レリ、故ニ今ハ更ニ進テ、其無上ノ大權ヲ掌握シタル、血氣壯年ノ日
 ノ行ヲ探ルヘシ、學者若シ下文ヲ讀マハ、西威拉士時代ノ耶蘇教ト、君子
 但丁後ノ耶蘇教トハ、其間實ニ霄壤ノ差アルヲ知ラン、近世彼レガ喋々
 スル法語（暗ニ原罪、贖罪等）ハ、古代耶蘇教徒ノ全ク知ラザルモノ多シ、
 願フニ、耶蘇教ノ異教ニ混合セル原因ニアリ、一ニハ、新朝廷ノ政策、二ニ
 ハ、新宗教ノ權謀コレナリ、以下當ニ順次ニ之ヲ論スヘシ、
 第一新朝廷ノ政策トハ、君子但丁帝以爲ラク、朕幸ニシテ天運ニ稱ヒ、耶
 蘇教徒ヲ率テ異教ヲ威壓シ、一旦此帝位ニ陞ルヲ得タリ、然レモ、異教徒
 全ク絶滅セシコアラズ、故ニ若シ唯耶蘇教徒ヲノミ之レ愛シテ、毫モ異
 教徒ヲ願ミサルキハ、或ハ不測ノ禍アラフヲ恐ル、若カス兩黨ノ歡心ヲ

得、以テ生涯ヲ全フセシニハト、故ニ耶蘇教寺院ヲ建築スレハ、亦必テス
 異教ノ殿堂ヲ造營ス、右ニ耶蘇教ノ説教ヲ聽聞スレハ、左ニ異教ノ職占
 （獸類ノ職、腑ヲ剖テ）ヲ行ハシメ、前ニ尼西亞ノ公會ヲ招集スレハ、後コフ
 吉凶ヲトスル法ヲ行ハシメ、神ノ像ヲ修復シ、此所ニ洗禮ヲ受クレバ、彼處ニ君子但丁大
 オルチニン神ノ像ヲ修復シ、此所ニ洗禮ヲ受クレバ、彼處ニ君子但丁大
 明神ノ記念牌ヲ製セリ、君子但丁府門ノ斑紅石ヲ以テ立テタル、大柱上
 ニアル君子但丁帝ノ肖像ハ、僅カコ亞波爾羅（神）ノ容貌ヲ潤色セシモノ
 ノミ、其頭部ノ莊嚴ニ用ヒタル、銀ハ、嘗テ基督ヲ磔殺スルニ用ヒタルモ
 ノナリト云フ、君子但丁帝ノ意志此ノ如クナレハ、異教ノ風俗大ニ朝廷
 ニ行レテ、遂ニ耶蘇教ニ混合スルニ至レリ、而シテ其異教ノ主唱者ハ、多ク
 ハ皇族尊貴ノ人々ナリキ、
 第二新宗教ノ權謀トハ、耶蘇教徒等以爲ク、斯ク深ク人心ニ入タル宗教
 ナ一洗シテ、我教法ヲ弘通スルハ、尤モ容易ナラサル事業ト云ヘシ、無知

佛釋願
フニ宗
教云々
以下ノ
一段ヲ
見ズ

ノ病兒ニ藥ヲ與フルニバ、糖蜜ヲ以テ之ニ混スルカ如ク、我新教ニモ、多
少在來ノ舊教ヲ調合シテ、普ク之ヲ弘通セバ、其効極メテ著シカラン、而
シテ其教人心ニ普キニ及ンテ、其正ヲ撰ンテ其邪ヲ捨ル、未タ敢テ晚シト
セスト、願フニ宗教ノ何物タルヲ知ラサル俗王カ、一時ノ策畧ヲ以テ、兩
教黨ヲ相融和スルハ、安身ノ策ナリ、治國ノ術ナリ、又兩教平和ノ法ナリ
ト考ヘタルハ、之ヲ深ク咎ムヘキニアラス、否、或ハ實ニ斯ル實益モアリ
シナラン、然リト雖モ、宗教者ノ權謀此ニ出ルニ及ンテハ、嗚呼又之ヲ何
トカ云ハンヤ、其腐敗ヲ招ク亦宜ナル哉、
國母希勒那亦官女ヲ率テ大ニ混教ノ事ヲ勉メリ、時ニ三百年來耶路撒
冷ノ洞中ニ埋レ在タル耶蘇及兩賊ノ十字架等ヲ發掘シ、之ヲ國母ニ獻
スルモノアリ、國母大ニ喜ンテ、新ニ社殿ヲ築テ之ニ納レ、種々ノ奇怪ナ
ル緣起ヲ作テ之ヲ諸人ニ讀聞カセタリ、其狀恰カモ希臘上古ノ妄信時

代ヲ再演スルニ似タリ、
物換リ星移ルニ從テ、テムチニリヤン德宙安所說ノ教法ハ、イツシカニ希臘上古ノ神學
ト變シ、衆神其名ヲ改メテ、オリンパスニ再現シ、諸州爭テ古說ヲ主張ス、
是レ埃及ノ口碑ニ從テ、三位一體說ノ由來スル所以ナリ、愛西士孩兒ホラ
ノ女エシキ神ノ月ノ輪ノ肖像ハ、マドンナ、アンテ、チヤイルド耶蘇母子ト變名シ、今日モ尙依然美像ヲ遺スニ
非スヤ、古奇ヲ愛スルハ、古今人情ノ同シキ所ナレハ、エフエンヤン以富上公會ニ於テ、
議長西里爾ノ決ニ據テ、入必德及ヒオトナノ娘タイアナニシテ希臘ノ神ナリ、ニ擬シテ處
女、馬利亞ノ耶蘇ハ自今之ヲ神母ト稱スヘシト、シテ一令ヲ出セシキハ、歐
聲寺院ニ蘇キ、隨喜ノ淚實ニ僧衣ヲ沾セリ、
斯クノ如ク時代ヲ經ルマ、兩教益相混シ、其法式等ニ至テハ、彼此殆ン
ト相同シキカ故ニ、當時モ識者ハ大ニ之ヲ痛破セシナリ、法士太士、聖類
士丁ニ謂テ曰ク、子ハ犧牲ナリ、偶像ナリ、唯其名ヲ異ニスルニ止リ、實ハ

評近我
兩部習
合之說

異端ノ風ヲ習フニ非スヤ、子ハ死靈ヲ鎮ムル爲ニ、酒ヲ墳墓ニ灌キ、或ハ
 供物ヲ捧クルニ非スヤ、子ハ偶像教ノ法式ヲ守ルニ非スヤ、子ハ彼レカ
 期望ヲ奉シ、彼レカニ至等ヲ用ヒルニアラスヤ、子ハ唯教會ノ名稱ヲ異
 ニスルノ外、子ト異教徒トヲ區別スルモノアルヲ知ラサルナリト、以テ
 兩教混合ノ甚シキヲ見ルヘシ、其極途ニゾナス神ヲ頌スルノ一詩ヲ奏
 スルヲ以テ、婚姻席ニ缺クヘカラサルノ常法トナスニ至レリ、
 今試ニ其兩教混同ノ大畧ヲ説カント、其式ハ行列、洗淨ノ諸禮典ヨリ、其
 具ハ僧衣、僧冠、金瓶、銀燭ニ至ルマテ、一トシテ異教ノ風ニ非ルハナシ、異
 教陰陽師ノ膏天杖ハ、羅馬君牧師ノ鳩杖ト變シ、致命者（宗教ノ爲メニ、命ヲ犧牲ニ供スルモノ）ノ墳墓ハ寺院ト變ス、又斷食ハ惡魔降服、神明應護ノ最勝良法、隱遁獨
 居ハ、至大ノ明德ナリトノ説ニ據テ、或ハ巴勒斯目及ヒ致命者ノ墳墓ニ
 巡禮スルモノアリ、或ハ聖地ノ塵土供水ヲ取テ、除難ノ神符ニ嚮クモノ

アリ、或ハ諸木石像ヲ安置シ、其糞錢ヲ貪ル寺院アリ、甚シキニ至テハ、怪
 異ノ縁起ヲ説テ、愚人ヲ惑ス者アリ、或ハ死者ノ亡魂ハ、墓邊ニ漂泊スル
 モノトシ、籠祠ヲ建テ神机ヲ供ヘ、以テ其冥助ヲ祈ルモノアリ、甚シキニ
 至テハ、古哲ノ舊衣マテモ、靈驗アリトテ禮拜スルモノアリ、無學此クノ
 如キ時ナレハ、（セントキエムセントマック）聖、惹迷斯、聖、馬可等ノ彌體ヲ祭リ、（半）希臘ノ神ナリ、（一）リ
 ニーベルカリヤ祭ニ擬メ、馬利亞祭ヲ行ヒ、耶蘇ヲ刺シタル戎器ノ記念
 祭ヲ行ヒ、（ダランズツブスダンチエーション）化体（僧侶ノ祈禱ニ依テ、酒ハ耶蘇ノ血ト變シ、麵包ハ耶蘇ノ肉ト變スルコト）ノ奇怪事ヲ唱フルニ至リシハ、深ク怪ムコ足サルナリ、而
 シテ彼十字架等ノ如キハ、各處ノ寺院皆之ヲ藏シ、我寶物コソ正真正銘
 ノ品ナレト誇唱スレト、人ノ敢テ其信偽ヲ斷定スルモノナシ、惟フニ、當
 時各寺院ノ權力強大ナレバ、敢テ其非ヲ撥クモノナカリシナラシ、嗚呼
 古教アボセオシス（人間昇天シテ）ヲ去テ、カノニゼーシヨ（死者ヲ追慕シテ）神聖ト

ナスノ説ニ就キ、衆賢ヲ以テ衆神ニ代ヘ、迷ヲ以テ迷ニ代フ、我未タ其可ヲ見ザルナリ、

右ノ事ニ就テ、卑涉牛董ノ議論アリ、頗ル吾人ヲ益スル所アルヲ以テ、其要ヲ摘ンテ之ヲ言ハンカ、曰ク、方今天使十哲ヲ祈ルノ法ハ、古代偽神ヲ祈ルノ法ニ異ルコトアリヤ、其名稱ハコレ異リト雖モ、其實ニ至テハ、小大悉トシ相同シキニ非ズヤ、唯此十哲ヲ拜スルト、彼ノ諸神ヲ拜スルトノ差違アルノミ、此事ハ彼ノ十哲拜ヲ主張スル人ノ心ニ於テモ、必ラス予カ言ノ誣ザルコトヲ覺知スヘシ、豈唯特リ禮拜ノミ然ラシヤ、儀式ノ如キモ亦復然リ、其公拜堂ニ昇ルコト方テ、淨水即盥水ヲ以テ其身ヲ清ムルカ如キ、白日晴天ニ燃燈燒香スルカ如キ、禍難消滅ノ報謝ニ、物品ヲ寄附スルカ如キ、古哲ヲ推テ神祇ト尊崇スルカ如キ、亡者ノ寵祠遺物等ニ向テ、冥助ヲ祈ルカ如キ、偶像ニ神威奇徳ヲ皈スルカ如キ、又之ヲ拜スル

カ如キ、各州ノ鎮守ヲ諸賢ニ配附スルカ如キ、山上路傍ニ堂祠神卓ヲ立ルカ如キ、燭燈歌樂ヲ以テ肖像遺物ヲ送迎スルカ如キ、懺悔者ヲ鞭答スルカ如キ、僧官ノ階級ヲ定ムルカ如キ、僧ヲ剃髮シテ之ニ冠セシムル得度式ノ如キ、男女授戒會ノ如キ、其他百般ノ儀式ノ兩教相同キモノ、一々之ヲ枚擧スルニ遑アラス、試ニ看ヨ、嘗テ入必徳社以下ノ諸神社ハ、悉ク其儘處女、馬利亞及ヒ諸哲ノ殿堂タルニアラスヤ、之ヲ要スルニ、彼此皆同一ノ主義ニ出テ、同一ノ体裁ヲナシタルモノナレハ、彼此兩教ハ、之ヲ兩教符合セシ者ト云ハスシテ、一体兩名ノ宗教ト云フ可キナリト、異教ト耶蘇教トノ相混合セシコトハ、右牛董ノ言カ如クナルニモ拘ハラス、右兩教徒ノ互ニ相惡ムハ、猶水炭ノ相容ザルカ如シ、異教徒ノ方ニハ、亞里斯度德學派ノ古學者アリ、耶蘇教徒ヲ視ルコト孩兒ノ如シ、且曰ク、百般ノ知識ハ、唯人ノ研究勉強ニ因テ之ヲ得ヘシト、又耶蘇教徒ハ、帝

加藤丹 津日疾 忙中插 歐洲人 智云々 之一節 遙應第 三章以 下數章 之論意

王ノ威カヲ怙ンテ、世ニ事アラシクコトヲ欣フノ時ナルヲ以テ、之ヲ聞テ
佛然トシテ怒リ、忽チ朱眼厲聲ノ曰ク、咄々何等ノ怪論シ、知識ト稱スル
知識ハ、經典及ヒ寺院ノ口碑ヲ除テ、他ニ之ヲ得ルノ道アラシヤ、大ハ知
識ノ綱領ヨリ、小ハ人事ノ細目ニ至ルマテ、上帝之ヲ經典ニ載セタリ、故
ニ經典ノ外ニハ知識ナシ、經典ハ實ニ知識ノ倉庫ナル哉ト、甲論シ乙駁
シ、各其守ル所ヲ執テ動カス、異教ハ人ノ良知良能ニ據テ其根ヲ堅フシ、
耶蘇教ハ上帝ノ默示ニ於テ踏^{アシ}ヲ定メ、其軌轡漸ク甚シク、殆ント底止ス
ル所ナキカ如クナリシモ、耶蘇教黨ハ始終政權ヲ仮テ之ニ應援シタレ
ハ、遂ニハ反對党ヲ威壓スルニ至レリ、コレ其歐洲人智ノ發達ニ於テ、少
カラサル障礙ヲナセシ濫觴ナリ、彼君子但^{コン}丁帝其人ノ如キモ、時好テ伺
テ異教ヲ獎勵セシト同時ニ、耶蘇教ノ決議ハ政權ヲ仮テ之ヲ斷行スル
ヲ怠ラサリキ、即チ亞里亞士事件ノ時、^ネ西亞公會ノ議決ニ因リ、若シ其

異教書籍ヲ秘シテ、之ヲ焚カザルモノハ、必ラス死刑ニ處スル旨ヲ嚴令
セシカ如キコレナリ、唯帝ノミ然ルニアラス、^セ第阿多西日揚^セ爾帝^カ納^チ
士^ト德^トチ^ト埃及沙漠ニ放逐セシ類モ、以テ耶蘇教ノ威壓ヲ行フコ果斷ナル
ヲ見ルヘシ、
君子但^{コン}丁帝ノ治世ハ、即チ耶蘇教ノ政治教ニ變スルノ時代タリ、或ハ之ヲ
偶係教ニ變化シタル時代トモ云ヘク、又之ヲ希臘古代ノ神學ニ派レリ
トモ云ヘシ、器械學ノ語ニ云ヘルコトアリ、曰ク、甲体乙体ニ衝突スルハ
ハ、甲乙俱ニ其形ヲ變スト、此言實ニ兩教ノ關係ニ適用スヘシ、今耶蘇教
ハ異教ニ縁テ起ル變シ、又異教ハ耶蘇教ニ縁テ面目ヲ換タリ、
耶蘇教ニ於テ前後數回ノ紛紜アリ、其第一ノ紛紜ハ、埃及^モ三位一體說ノ
根本地ニ起レル三位一體說ノ爭論ナリ、其爭フ所ハ、聖子ノ地位如何ニ
アリ、時ニ亞勒山德黎亞府ニ一僧アリ、^ア亞里亞士^ト名ツク、其所說ニ曰ク

夫レ名ハ自性ヲ詮スルモノナリ、既ニ此ヲ聖父ト云ヒ、彼レヲ聖子ト云フ、豈聖子ノ年齢ハ、聖父ノ年齢ヨリモ少カラザルヲ得ンヤ、聖子ノ年齢已ニ少シ、然ラハ、其聖子誕生前ハ、世界ニ三神具足セザルノ時アルヘシト、此説タルヤ、彼ノ三位一体論者ノ所謂三神皆無始無終ニシテ、常住併立ノ眞神ナリトノ説ニ反シ、三神中ニ老幼優劣ヲ生ス、故ニ三位一体家ノ僧某、勉メテ之ヲ痛破セリ、其所論ハ能ク時好ニ投シタルヲ以テ、大ニ人心ヲ得テ、遂ニ卑沙官^{ヒシヨツ}ヲ博シ得タリ、然レモ、尙反對家ノ餘焰盛ナレハ、世論黨々物議恂々タリ、然ルニ其比亞勒山德黎亞府住民ハ、過半希伯來人及異教者ナリシカハ、希伯來人ハ之ヲ劇演ニ脚色シ、父子同齡ナリト云ノ点ニ至テ、戲謔ヲナシ、大ニ之ヲ嘲笑セリ、帝王モ、初メハ之ヲ意ニ介セス、唯一條ノ笑柄ニ附シ、且ツ以爲テク、寧ロ亞里亞士^{アリヤス}ノ所説理アルコト似タリト、然レモ其爭論日チ退テ益甚シケレハ、今ハ帝王モ黙止マカ

ク、遂ニ^{ナイシ}尼西亚公會ヲ招集シ、其裁判ヲ議セシムルニ至レリ、公會ハ乃チ宗規綱領ヲ議定シ、左ノ破宗條例ヲ附加セリ、其文ニ云ク、

聖加特力及ヒ^{セントカトリック}アポストリック寺院ハ、左ノ條々ニ牴觸スルモノヲ破宗スヘシ、

- 一 聖子未タ世界ニ存在、若クハ誕生シ玉ハザルノ日アリト云フ者、
- 一 聖子ハ空無一物ヨリ忽生シ、或ハ某質ヨリ化生シ玉フト云フ者、
- 一 聖子ハ被造物ナリ、或ハ無常遷流ノ者ナリト云フ者、(以上)

帝王ハ、直チニ政權ヲ以テ之ヲ實施セリ、其後數年ヲ經テ、第阿多西帝^{セオドシウス}犧牲ヲ廢シ、廟占ヲ止メ、猥ニ殿堂ニ出入スルヲ禁ゼリ、帝又信心調査官ヲ設ケ、且ツ命シテ曰ク、若シ羅馬ノ卑沙達^{ヒシヨツ}馬撒士^{マサス}ト、亞勒山德黎亞府ノ卑沙彼得^{ヒシヨツ}トノ信心ニ異轍スルモノアラハ、或ハ公權ヲ褫奪シ、或ハ之ヲ逐放スヘシ、若シ當時ノ希伯來人ノ如ク、東

方教(希臘教)ヲ信スルモノハ、悉ク之ヲ斬ニ處スヘシト、是レ後來西方

ニ希臘語ヲ聞カズ、從テ純正ナル學風墮滅セシ由縁ナリ、

日阿費拉士某亞勒山德黎亞府ノ卑涉ビシヨツタラシ時、上古ノオシリス堂ヲ毀

テ之ニ耶蘇教堂ヲ新築セント欲シ、其地基ヲ平カニスルコ方テ、圖ラズ

古神像ヲ發掘セリ、某大ニ喜テ之ヲ街頭ニ梟ケ、鞭笞嘲笑シ、以テ三位一

体ノ演劇ニ復讎セリ、是ヨリ復一條ノ葛藤ヲ生シ、異教徒ハ西拉比斯社

ニ屯シ、大ニ氣勢ヲ張レリ、帝之ヲ聞テ大ニ怒リ、乃チ某ニ勅シ、西拉比斯

社ヲ征伐セシム、嗚呼、嘗テ德禮密大王創立セシ以來、茲ニ數百年、愷撒ノ

兵燹ニマニ焚遺リ、宇宙無雙ノ美觀タル、同社ノ娘文庫モ、天數ノ尽クル

所カ、此時ノ兵乱ニ罹リ、全ク灰燼ニ委セリ、實ニ千古ノ遺憾ト云フヘキ

ナリ、

日阿費拉士某職ヲ辭シテ、其姪之ニ代ル、之ヲ日阿費拉士西里爾ト云フ、

頗ル說教ニ長シ、名ヲ勒山府公會ニ肆ニシ、大ニ馬利亞拜ヲ獎勵セリ、時

ニ日恩氏ゼオンニ一女史アリ、拜巴茶ト名ク、頗ル數學ニ精シ、又布拉多及ヒ亞

里斯度德ノ學說ヲ究メ、亞波羅尼亞士等ノ幾何學ニ通ス、書籍室ニ滿チ、

門弟校ニ溢ル、實ニコレ鬱然タル一箇ノ女丈夫ナリ、然レハ其威名亦西

里爾ノ右ニ出ダリ、誠ニ明暗并ヒ存セス、兩雄并ヒ立タス、拜巴茶女ノ理

學昌ナレハ、西里爾ノ妄信行ハレス、故ニ西里爾密ニ其徒ヲ率ヒ、女史ヲ途

ニ襲ヒ、之ヲ寺院ニ連行キ、兇暴ニモ其衣服ヲ褫キ、裸躰ヲ鞭チ、手足ヲ斷

チ、耳鼻ヲ剝キ、又其屍ヲ火中ニ投セリ、嗚呼、女史何ノ辜アリテ此毒手ニ

死セリヤ、天道是非ノ數、其理ナキニアラサルナリ、此大惡無道ヲ演シタ

ル西里爾ニシテ、能ク其終リヲ全フセシニ由テ之ヲ觀レハ、當時善惡邪

正ノ定説ナキ、勝者ハ邪術モ正法トナリ、負者ハ良法モ邪教トナリ、其正

邪如何ヲ問ハスヲ、其勝敗如何ヲ論セシコト推シテ知ヘシ、

今ヤ德禮密王ノ遺物タル娘文庫ハ死灰ニ属シ、理學家ノ泰斗タル拜巴
 茶女史ハ虐殺セラレタレハ、敢テ一人ノ耶蘇教ニ抗スルモノナク、雅典
 府ノ理學モ、氣息奄々命數旦夕ニ迫リ、如地尼安學校モ其授學ヲ停止シ
 タレハ、殆ント世界ニ思想ノ自由ヲ失ヒ、人民ハ唯僧侶ノ命之レ從ハサ
 ルヲ得サルコ至レリ、此ニ於テカ希臘ノ理學全ク亞勒山德黎亞府ニ絶
 タリ、(耶蘇紀元四百十四年)

以上記スル所ハ羅馬國東部ノ遷變大畧ナリ、今眼ヲ轉シテ西部ヲ顧ル
 所ハ、亦頗ル類似ノ變化アルヲ見ルヘシ、チリ智利ノ僧彼羅如士ナル者、歐
 洲西部ト、亞非利加北部トヲ遍歴シ、其人民ニ教テ曰ク、人世ニ死アルハ、
 天然ノ法則ニ因ル者ニシテ、アダム亞當ノ原罪後、始メテ起リシニハアラス、ア
 ア亞當ノ原罪ハ彼レ一人ニ止リテ、子孫ニ及フコトナシ、設シ假ニアダム亞當ヲシ
 テ原罪ナカラシムルモ、吾人ハ尙死ヲ免ル、コト能ハサルヘシト、氏此

說ヲ根據トシテ、種々ノ要件ヲ推論闡明セリ、其說悉ク在來ノ所說ニ異
 ナレハ、カールキキ加爾錫士僧侶等之ヲ官ニ誣告ス、マイアスボリスマイアスボリス宗議所ハ、之ヲ
 無罪ト宣告セリ、然ルニ尙之ヲ羅馬ニ護送シ、ヒンヨツ卑涉以諾森第一世ノ裁判
 ヲ受ケシニ、實ニ之ヲ有罪ナリト裁定シ、將ニ之ヲ刑セントス、時ニ以諾
 森頓死セシニ因テ、後職藏士馬斯復タ之ヲ再審シ、遂ニ無罪放免ノ宣告
 ヲナセリ、斯ク反覆常ナキ裁判ハ、今日ニ至ル迄モ、反對論者カ以テ法王
 亦過失アルヲ証スル所トナレリ、然ルニ亞非利加ノ卑涉等ハ、狡猾手段
 ヲ用ヒ、ウレール侯ノ力ニ頼テ、羅馬帝ニ懇請シ、遂ニ帝ヲシテ彼羅如士
 及ヒ其徒ノ罪ヲ宣告シテ、放斥ノ刑ニ處シ、財產ヲ沒収セシメタリ、於是
アダム亞當ノ原罪前ニ死アリト云ハ、實ニ此上モナキ大辟トハナレリ、
 此訴訟事件ノ性質ヲ考フルニ、全ク理學上ノ問題ナレハ、之カ理非ヲ裁
 斷スルニハ、必ラス眞理ノ規矩ヲ以テスヘキ筈ナルニ、枉テ神學上ヨリ

之ヲ判定セリ、アダム亞當原罪前ニハ、世界ニ死者ナシト云フコトハ、果シテ眞理ニ合フヤ否ト吟味スヘキヲ、強テ其果シテセントオーガスチン聖煥額士丁ノ神學ニ合フヤ否ヲ吟味セリ、豈咄々怪事ト云ハサルヘケンヤ、其好結果ヲ得サル、推シテ知ルヘキノミ、讀者ノ既ニ熟知スル如ク、彼ノデユチユリアン德宙安ノ論文中ニハ、原罪惡心、天運贖罪等ノ事ハ、一字句モ之ヲ論セシヲ見サルニ、後二百年ヲ歴テ、右等ノ新説ヲ聽聞スルニ至リシハ、實ニセントオーガスチン聖煥額士丁ノ賜ト云ヘシ、雖然、斯ル妄想ノ雲霧ハ、一タヒ晃々タル理學ノ明鏡ニ照セハ、忽チニ消散シテ青天白日ヲ見ルヘシ、地質學上ノ發明ヨリ之ヲ論スレハ、彼レアダム亞當カ出現スル迄ニ、久遠劫來何千萬否、何千代、何萬族アリテ、生々死々セシヤヲ知ルヘカラス、而シテ吾人カ算盤ニ依テ測知シ得ル所ハ、唯其泰山ノ一塵、大海ノ一滴ニ過サルノミ、

セントオーガスチン聖煥額士丁ハ、實ニ神學ト理學トヲ離間セシ人ナリ、故ニ其稱理學ニ關

スル説ノ如何ヲ知ルハ、吾人ニ於テ尤モ有用ナリトス、予其コンフエシヨシ（書）中ヨリ左ノ數節ヲ鈔録スヘシ、即其第十一卷、讀創世記ト題セル論文中ニ云ク、

謹テ惟ミルニ、聖尊無比ノ神典ハ、字々句々、皆甚深微妙ニシテ、一字ノ以テ輕忽ニスヘキモノナシ、微臣微臣、今淺才ヲ測ラズ、敢テ其微義ヲ明シ、聊カ神恩ニ報セント欲ス、伏テ願フハ、全能上帝、微臣微臣カ孤忠ヲ慰ミ、妙智力ヲ以テ之ヲ助ケ、其解意ヲ誤ラシムルコト勿レ、

創造トハ何ツヤ、天地ヲ創造スルナリ、既ニ天地ヲ創造スト云フ、其之ヲ創造スルモノアルヤ明カナリ、故ニ曰ク、創造ノ二字ニハ、創造セラル、モノ、即被創造物ト、創造スル人即造物主アル、二重ノ義ヲ含蓄スルナリ、人難シテ曰ク、創造ノ字義ハ、敢テ其命ヲ聞ク、然ルニ、造物主之ヲ創造スルニハ、何ナル時、何ナル處ニ於テ、何ヲ以テ天地ヲ創造セシヤ、

天地ヲ創造スルコトナレハ、天地ノ間ニテ之ヲ創造スルコトモ甚タ
難ク、世界ヲ創造スルコトナレハ、世界ノ内ニテ之ヲ創造スルコトモ
亦易カラシ、況ヤ虚空無一物ニシテ、之ヲ造出スヘキ原質ナキニ於テ
ヲヤ、其説如何、答テ曰ク、上帝ハ全能全知ナリ、之ヲ人間ニ比スヘカラ
ズ、唯上帝ハ我之ヲ創造スヘシト云テ、其言下ニ天地忽然トシテ現出
セリ、

人復難ク云ハシ、果シテ然ラハ、天地ハ最初ノ創造物ニアラサルヘシ、
何トナレハ、既ニ上帝ノ言語アリ、聲音アリ、其言語聲音コソ、第一番ノ
創造物トハ云ヘケレ、然ルニ、經典ノ所説ノ如キハ、天地ハ最初ノ創造
ニシテ、天地ノ前ニ、一ノ實物アルコトナシト云フニ非スヤ、其説如何、
答テ曰ク、汝カ所難ノ如キハ、尙人ヲ以テ神ヲ論スルノ卑見ヲ免カレ
ズ、聲音言語ヲ以テ、實物或ハ造物ト云フハ、其遷流無常ナルカ故ナラ

シ、是レ誠ニ人語ニ就テノ論ノミ、神語ハ常住不變ナリ、豈コレニ均シ
カラシヤ、而シテ其言語タルヤ、前後相續シテ發音セシモノニアラス、正
シク同一瞬時ノ發音ナリ、若シモ前後相續ノ發音ナリト云ハハ、其發
音スル間ニハ、必ラス多少ノ時間ヲ要スルナラン、己ニ時間ヲ要スル
モノトセハ、其聲音言語ノ前ニ、先ツ發音スル間ニ遷流スル時間ヲ創
造スヘシ、果シテ然ラハ、時ハ聲音言語、天地萬物ニ先テ創造セラレ、天
地ノ創造前ニ、既ニ己ニ無常轉變アリト云ヘシ、然ルニ天地創造前ニ
ハ、常住不變ノ外一物ナシトノ經説アリ、故ニ予曰ク、神語ノ發音ハ、前
後相續ニアラスシテ、同一瞬時ノ發音ナリト、

「イン、ゼ、ビギンニング」(元始ニ)トハ何ツヤ、曰ク上帝ノ妙智力是レナ
リ、嗚呼神爲ハ端倪スヘカラス、上帝ハ唯妙智力ヲ以テ天地萬物ヲ創
造セリ、上帝ノ妙智力ハ、實ニコレ天地萬物ノ元始ナリ、或難シテ曰ク、

彼ノ上帝ハ、天地創造ノ前ニハ、果シテ何等ノ事ヲ爲セシヤ、其之ヲ準備スル間ノ時ハ、必ラス遷流生滅スヘシ、予曰ク、上帝ハ天地ヲ創造スル前ニハ、何等ノ事ヲ爲コトナシ、爲セハ必ラス時ヲ要ス、而シテ時モ亦一箇ノ所作生ナレハ、天地前ニ時アルノ理ナシ、
 時トハ何ソヤ、曰ク、未來ニアラス、過去ニアラス、唯一ノ現在時コレナリ、然レハ之ヲ形容スルコト極メテ難シ、己ムコトヲ得スンハ即チ一アリ、曰ク、此無形物ト彼ノ無形物トノ距離即チ是レナリ、長時ト云ヒ、短時ト云フ、唯彼此相對シテ立ルノ名目ナレハ、過去モ未來モナキ、常住不變ノ創世前ニハ、其長短時ナキコト推シテ知ルヘシ(以上)
 氏ノ註釋ハ、恰カモ上帝ト談話ノ筆記ヲ讀ムカ如シ、而シテ其著述ハ、概チ龍頭蛇尾、透雲捉風ノ空論ナリ、今予ハ其一例トシテ、或ハ無用ニ似タレ(同)コンフエシヨ第十二卷ヨリ左ノ數節ヲ鈔出セリ、

嗚呼掛卷ノモ畏キ天地ノ大主宰ヨ、臣ハ陛下ノ經典ニ造化神ハ最初ニ天及ヒ地ヲ創造セリトノ語アルヲ見テ、此ニ天ト云ヒ地ト云フハ、尋常ノ天地ニハアラスシテ、天ハ天上ノ天、所謂智慧ノ天ナリ、一目瞭然世界ヲ照覽スルノ天ナリ、地トハ不可見不可觸ノ無形地ナリトハ覺レリ、ソハ何故ト云フニ、其下文ヲ見ルニ、上帝第二日ニ於テ蒼空ヲ造リ、之ヲ名ケテ天トストアレハ、斯クハ了解チシタルナリ、上文ニ於テハ、漠然唯天地ヲ創造スト記シ、其日子ヲ記サマルコト、ソレ妙ナルカナ、嗚呼神語ハ深遠ナリ、凡慮ヲ以テ測ルヘカラス、唯皮相ヨリ之ヲ一睹スレハ、甚ダ解シ易キカ如クナレハ、其深意ヲ探ルニ至テ、神變龍化、端倪スヘカラス、之ヲ仰ケハ彌、高ク、之ヲ探レハ益、深シ、故ニ人若シ聖語ニ澈スルアラハ、上帝降魔ノ利劍ヲ揮テ、之ヲ誅戮シ、永ク再タヒ神敵ヲラシメサランコトヲ祈ル、コレ臣カ其敵ヲ愛スル所以ノ赤心ナ

リ(以上)

又氏カ同卷ノ第十三ニ於テ(創世紀)中ニモ、隱然ト三位一体説ヲ含有セ
 リトノ議論ヲ鈔出シ、以テ其論法如何ノ一例トナサン、
 嗚呼、誰カ經典ニ三位一体説ナシト云ヤ、コレハ聖父、コレハ聖子、コレ
 ハ聖靈ト、別々ニ明記シテコソナケレ、其微意ハ隱然トシテ存スルコ
 アラスヤ、上帝ハコレ聖父ナリ、萬物天地ノ元始、即チ上帝ノ妙智力ハ、
 コレ聖子ナリ、何トナレハ、コノ妙智力ハ上帝ヨリ生セシカ故ニ、而ソ
 尙仔細ニ經文ヲ考フルキハ、上帝ノ精神水上ニ飛遊スルコトヲ説ケ
 リ、コレ即チ聖靈ナリ、看ヨ、々々、吾人ノ信據果シテ虚シカラス、吾上帝
 ハ、一体ニ於テ、聖父、聖子、聖靈ノ三位具足スルヲ看ヨ、(以上)
 以上鈔出スル所ノ數節ハ、予擅マ、ニ自ラ鈔譯セシモノニアラズ、一千
 八百四十年勤威連大達格德擺西氏カ阿斯佛ニ於テ出版セル(ライブラ

レウズビンドロクトルビニオン
 カリスラホル

リト、オフ、ラアザース、オフ、ゼ、ホリ、カソリック、チャーチ(書)卷ノ一ヨリ鈔

出セシモノナレハ、讀者請フ潜心ニテ埃頓士丁ノ學風如何ヲ審判セヨ

予願フニ、氏ハ經典ヲシテ、其正路ヲ捨テ、傍徑ニ入ラシメ、道德ヲ教ヘ

ズシテ智術ヲ批評シ、民心ノ教導者トナラズシテ、其暴君タラシメシ人

ナリ、氏一タヒ其偏ヲ作リシヨリ、末學競テ之ニ習ヒ、遂ニ希臘理學諸大

家ノ著書ハ、一概ニ之ヲ違神説ナリト烙印シタレハ、流石宇宙ノ美觀タ

ル、亞勒山德黎亞府ノ大書館モ、妄信ノ霜ニ侵サレ、頑固ノ風ニ倒サレ、無

學ノ雨ニ敗ラレ、嫉妬ノ雷ニ擊レ、古城落日人無吊ノ域ニ至ラシメシハ、

實ニ大息切齒ノ至リナラスヤ、而ソソノ著書ノ宗教社會ニ流行セシハ、

實ニ千有五百年ノ久キニ迄ヘリ、噫、

默示的格物學ノ所論ニ云ク、上帝ノ秘セント欲スル事ヲ究理發明スル

ハ、神威ヲ犯スノ甚シキモノナリト、斯クノ如キノ立説ニシテ、其進歩發

達ヲ望ムハ、猶木ニ縁テ魚ヲ求ムルカ如シ、愚ノ尤モ甚シキモノナリ、
 耶蘇教寺院ノ和尚ガ、コレコソ人智ノ倉庫淵源ナレト誇稱スル、默示ノ
 理學ニハ、果シテ何等ノ說アルヤヲ訊フニ、表題ノ斯クノ如ク誇大ナル
 ニモ拘ハラズ、其顯象ヲ說クヲ聞クニ、萬事皆人間ヲ以テ其尺度トナシ
 テ、之ヲ論スルカ故ニ、往々卑陋ノ見アルヲ免カレズ、彼ノ全能全知ナル
 上帝ノ如キモ、設シ果ソ其所說ノ如クナラハ、單ニ一種ノ巨人タルニ過
 ズ、其大地ヲ論シタル說ニ曰ク、地ハ平坦ニシテ砥ノ如ク、天ハ圓圓ニシ
 天蓋ノ如シ、日月星辰ハ各其軌道ヲ旋リ、以テ晝夜ノ別ヲ爲ス、此地ヤ、上
 帝本來無一物ヨリ創造セシモノナリ、之ニ住殖スル人畜草木、悉ク僅々
 六日間ニ成就セリ、コノ外天上ニ又天堂アリ、地下ニ又地獄アリ、地ハ宇
 宙ノ中央ニアリテ、其主体ナリ、君主ナリ、自餘ノ萬物（日月星辰等）ハ、皆之ヲ繞
 護尊重シテ、賓体ナリ、隸僕ナリ、又附屬品ナリト、

其人間ヲ論ズル說ニ曰ク、上帝一介ノ塵土ヲ捻テ人ヲ作り、之ヲ（由非列
底河傍ノ樂園ニ居ラシム、後其孤獨ニシテ良配ナキヲ愍ミ、其肋骨ヲ取
リ之ヲ製シテ女トナス、凡ソ上帝ノ物ヲ創造スルコト、其數無量ナリト
雖モ、此人間ヲ以テ最精ノ細工トナスナリ、最初ハ夫妻共ニ、志慮忠純ニ
シテ、安穩快樂ナリシト雖モ、神勅ニ違背シ禁菓ヲ食セシヨリ以來、力役
死苦ノ神罰ヲ被レリ、其子孫亦先人ノ罪臭ニ染ミ、惡行漸ク增長ス、コレ
上帝洪水ヲ降シ、高山大岳ヲ沒シ、滔々タル天下ノ惡人ヲ殲ス所以ナリ、
罪惡此ニ一洗ス、乃チ風ヲ起シテ水ヲ退干セシメリ、此大騷亂ニ當テ、方
舟ニ乘シテ纒カニ一死ヲ免レシ一族アリ、挪亞親子四夫婦コレナリ、長
子閃ハ亞細亞ニ蕃殖シ、含ハ亞非利加ニ殖民シ、而シテ（シヤンネト）雅弗ハ歐羅巴ニ蕃
生セリ、惜哉流石ノ大和尚輩モ、未タ亞米利加洲アルコトヲ知ラザリシ
故、其族祖ヲ準備スルコトヲ遺落セリ、

以上ノ所論ヲ維持セシカ爲メ、其喋々スル所ヲ聽クニ、ラタンチキス落但查士ハ異教ノ地球説ヲ破シ曰ク、世人愚ナリト雖モ、大地ノ裏面ニ於テ、草木ハ倒ニ懸リ、人ハ頭下足上ニ立ト思フヲ得ンヤ、然ルニ、若シ此怪談家ニ向テ其裏面ニ在ル所ノ萬物ハ、何ガ故ニ空中ニ墮落セサルヤチ問ハ、彼レ將ニ揚々トシテ曰ハム、金銀石玉ノ如キ重躰ハ、其性トシテ中心ニ向フコト、猶車輻ノ車軸ニ向フカ如シ、又雲烟塵霧ノ如キ輕體ハ、又其性トシテ中心ヲ離ル、ナリト、嗚呼、予ハ人若シ一タヒ誤テ邪説ニ陥ルキハ、甲ノ妄説ヲ維持スルニ乙ノ邪説ヲ唱へ、到底眞理ヲ見ル能ハザルヲ哀ムナリト、又聖、セント、オウ、カ、ス、ナ、ン擯額士丁ハ曰ク、予嘗テ經典ヲ熟覽スルコト數回ナリト雖モ、未ダ嘗テ大地ノ裏面ニ、アダム亞當ノ子孫アルノ説ヲ見ズ、其説ノ信スヘカラザルヤ明カナリト、又更ニ好理由ヲ接出シ曰ク、地果シテ圓カナレハ、世界臨終ノ際ニ方テ、上帝裁判官トシテ降臨スル時、全世界ノ人民均シク之

佛譯ニ
ハ二東西
八百日
程トア

ヲ瞻仰スルコト能ハス、大地裏面ノ人民ハ、上帝ノ降臨ヲ拜セザルヘシト、其他世界ニ死亡ノ始マリシ事、上帝ノ人事ニ干涉スル事、天使及ヒ惡魔ノ事、世界ノ大火災ノ事、バベル巴威爾ノ高塔ノ事、言語混雜ノ事、人民散布ノ事、及日月蝕虹霓等ノ諸説ヲ詳記セハ、冗長ニ渉ルヲ恐レテ、今茲ニ贅セズ、就中其上帝性質ノ説ノ如キハ、之ヲ言ヘハ、神徳ヲ瀆スノ恐レアルノ處、鹵説ナルヲ以テ、故テ今之ヲ畧シヌ、然レモ第六世紀ニ於テ、大ニ流行セルコスマス、インヂコプリアステズ氏ノ説ヲ鈔出スルハ、亦無用ノ事ニアラザルナリ、氏ハ異教ノ地球説、及ヒ其熱帶以南ニモ亦温帯アリト云フ説ヲ破センカ爲メニ、クリンチアン、ト、ボ、ラ、フ、ヒ耶蘇教風土記一部ヲ著セリ、而シテ其説ハ純然タル耶蘇妄信家ノ地理學説ナリ、曰ク、地面ハ方平ニシテ圓圓ニアラス、西ト東ハ四百日程北ト南ハ其半ナリ、地ノ四邊ニ連山アリ、蒼天其上ニ安在ス、但北方ノ山特ニ秀テ、他ノ諸山

ヲ歴ス、太陽此山ノ背部ニアルキ、其光明世界ニ達セズ、此時ヲ名ケテ夜ト云フ、地面ハ微シ北方ヨリ傾ケリ、コレ由非列底、底格里等ノ南流スルモノハ、其水勢急速ニシテ、特リ尼羅河ハ北流スルヲ以テ、其水勢稍遅緩ナル所以ナリト、

佛譯ニハ天ハ云々ノ句ナクシテ、地ハ毎日速カニ旋轉ス云々トアリ

第七世紀ニ當テ、威納勤伯、費太ノ著書ニ曰ク、天地創造ハ六日間ニ成就セリ、而シテ此大地ハ、其中央ニアリテ、尤モ樞要ナル主体ナリ、天ハ地ノ中ニシテ、其速力測ルヘカラス、唯七星ノ之ヲ牽制スルカ爲ニ、稍之ヲ節減スルノミ、七遊星トハ何ソヤ、曰ク、太陽上ノ三星(土星、木星、火星)太陽下ノ三星(金星、水星、大陰)及ヒ太陽是ナリ、星辰各一定ノ軌道ヲ經周ス、但北辰ハ尤モ小圈ヲ經周スル者ナリ、天ニ數層アリ、最高天ニハ故有ノ區域アリ、人間ニ降誕復命スルノ天使此ニ住ス、最下天ヲ著天ト云フ、言ハ

天水ト地水トヲ區別スルナリ、凡テ天界ハ焰熱稀薄ニシテ、動モスレハ火災ヲ發スルノ恐レアリ、故ニ天水ヲ以テ其温度ヲ和シ、且火災ヲ豫防スルナリ、コノ蒼天ノ水ハ、天堂ノ下、人界ノ上ニアリ、或ハ曰ク、コレ次回ノ洪水ニ備フルナリト、然レモ予ハ恒星ノ熱ヲ和スルト云フノ説ヲ取ルナリト、

以上所載ノ文盲學ハ、實ニ希臘理學ヲ衰頽セシメタルモノナリ、嗚呼吾人幸ニシテ斯ル文盲世界ニ生レザリシヲ喜ブナリ、嗚呼、又吾人不幸ニシテ、彼ノ時ニ生レ之ヲ矯正スル能ハザリシヲ痛ムナリ、抑、又宗教改革ノ諸大家ガ、狂瀾ヲ既倒ニ廻スノ早カラザリシヲ憾ムナリ、此錯乖矛盾ナル學風ノ中ニ於テモ、尤モ奇怪ト云フベキハ、論理法ノ喻証法是ナリ、其喻法ノ一例トシテ、茲ニ亞利伯論者ノ説ヲ仮テ之ヲ示サン、論者ノ曰ク、今茲ニ魔術者アリ、曰ク、三ハ十ヨリモ多數ナリ、其証據ニハ

此杖變シテ蛇トナルヘシト、予ハ其奇術ノ妙ニハ感スヘシト雖也、三ハ十ヨリモ多シトノ立説ニ服スル能ハサルナリト、今日ヨリシテ之ヲ考フル所ハ、其妄實ニ笑フヘシト雖也、斯ノ所論ニ關係ナキモノヲ以テ、其立説ニ引証セシコトハ、千餘年間歐洲一般ノ學風ナリキ、

羅馬帝國ノ跋扈黨(耶蘇教黨)ハ、固ヨリ學識ニ乏シキヲ以テ、到底異教大家ノ著述ニ敵スルヲ得ス、然レモ、手ヲ束テテ其下風ニ立ツハ、苟モ爲ス能ハサル所ナレハ、之ヲ處スルニハ、唯世間ノ學問ヲ禁シ、學者ヲ抗ニスルノ一拙策アルノミ、瓦連知尼安帝ノ世、布拉多學派ノ學者ヲ誣テ、魔法家或ハ謀叛人ナリトテ、殘酷ニモ之ヲ逆殺セシカ如キハ、コレ此策ヲ用ヒタルモノナリ、今ヤ學問ハ生命ヲ危フスルノ職業トナリタレハ、誰カ之ヲ勉ムルモノアラシヤ、其衰頹モ亦理ナキニアラサルナリ、嗚呼理論衰ヘテ妄信長シ、實學滅シテ怪談起ル、恰レムヘシ世界ノ學國、學者ノ都會ナリ

シ埃及モ、耶蘇教僧尼ニ蹂躪セラレ、學藝不毛ノ荒地トナリシハ、實ニ千古ノ遺憾ト云フベキナリ、

第三章 獨一眞神說ノ軋轢附第一回即チ南部宗教

ノ改革

埃及人處女馬利亞禮拜ヲ主張スル事○君子坦丁府ノ法教師長
納士德此說ニ抵抗セシヲ帝王ノ威權ヲ以テ之ヲ流罪ニ處スル
事 附 其門弟徒屬四散八布ノ事

南部宗教改革發端ノ事○波斯軍入寇ノ事 附 其德義上ニ於テ影
響ノ事

亞刺伯宗教改革ノ事○馬哈默納士德派内ニ成長ノ事○馬哈默
納士德派ノ主義ヲ擴張シテ處女禮拜三位一体說其他獨一眞神
說ニ背馳スル百般ノ典故ヲ厭嫌スル事○馬哈默腕力ニテ偶像
教ヲ亞刺伯ヨリ逐ツ事 附 羅馬帝國ニ對シテ戰爭ヲ準備スル事
○馬哈默ノ徒西里亞埃及小亞細亞北亞弗利加西班牙ヲ掠奪シ

及ビ佛蘭西ヲ襲フ事

此軋轢後羅馬帝國ノ大半獨一神教徒トナル事○理學研究再ビ振興ノ事 附 耶蘇教國ハ其尤モ有名ナル都府亞勒山德黎亞加爾

錫西及ヒ聖市耶路撒冷ヲ亡フ事

費山丁朝(君子坦丁府ノ朝ヲ云フナリ)ノ政策一タビ耶蘇教ヲ異教ニ混セシヨリ、皆テ偶像教ヲ信シタル人民ハ、靡然トシテ之レヲ尊奉スルニ至リ、適ニ二箇ノ混同教ヲ現出セリ、異教ハ耶蘇教ニ因テ變シ、耶蘇教ハ異教ニ因テ變セリ、而シテ羅馬帝國版圖ノ及フ所、此ノ混同教ノ行レザルノ地ナカリキ、

斯クノ如ク一朝ニシテ、其延蔓ヲ逞フシ、ヨリ、耶蘇教党忽チ政權ト、財カトテ掌握シ、國庫歲入ノ強半ヲシテ、寺院ノ藏庫ニ注流セシム、是ニ於テカ、財ヲ貪ルノ徒ハ、耶蘇教中ノ權門ニ媚ヒ、各、其地位ヲ崇フセシムコト

ヲカメリ(此等ノ人ハ宗教ヲ假面トシテ、其私慾ヲ濟スモノナリ)コレ蓋シ古今勢ノ已ムテ得ザル所ナリ、

先代ノ帝王、悉トク諸國征服ノ功了リ、國己ニ太平ニ皈ス、今ヤ再タヒ兵權ヲ弄シテ征服擄掠ノ欲ヲ逞フスルノ餘地ナシ、然レモ、人民ノ野心尙未ダ消セズ、更ニ路ヲ他方ニ求メ、志ヲ別事ニ得ント欲シ、遂ニ之ヲ寺院ニ泄ラシ、昔日戰場ニ先ヲ爭フノ事ハ、今日寺院ニ權ヲ博スルノ業ト變セリ、今昔ノ事業、互ニ其狀ヲ異ニスルト雖モ、其志ヲ得ルノ果ニ至テハ則チ一ナリ、

當時政教史上ノ大勢ヲ見ルニ、三大府君子坦丁府、亞勒山德黎亞府、羅馬府ノ卑涉ビシヨツガ、各、己レ雄長タラムコトヲ競爭スルノ外、一事ノ以テ見ルベキモノナシ、君子坦丁府ノ卑涉ビシヨツハ曰ク、我府ハコレ帝國ノ都城ナリ、宜シク三府中ノ長タルヘシト、亞勒山德黎亞府ノ卑涉ビシヨツハ曰ク、我府ハ商估買

易ノ要地ニシテ、且文學技術ノ淵藪ナリ、宜シク三府中ノ上タルベシト、
 而シテ羅馬府ノ卑渺ハ曰ク、我府ハ創業ノ舊都、開宗ノ聖地ナリ、宜シク三
 府中ノ首タルヘシト、然ルニ君子坦丁府ノ法教師長(即チ卑渺)ハ其居太々帝
 宮ニ近キニ過ギテ、數帝王ノ直接目睹スル所トナリ、終ニ重大ナル不利
 ヲ被リシカ、羅馬亞勒山德黎亞ノ兩府ノ如キハ、俱ニ遠隔ノ地ナルヲ以
 テ、却テ其身ヲ全フスルコトヲ得タリ、
 夫レ東方宗教(希臘耶蘇教ヲ指ス)ノ争ハ、其主点上帝ノ性質ト、聖子ノ地
 位トノ如何ニアリ、然レ西方宗教(羅馬耶蘇教ヲ指ス)ノ争ハ、人ノ關係ト
 其生活如何ノ点ニアリ、亞細亞歐羅巴ノ兩洲ニ於テ、耶蘇教ノ經過ヲ
 ル變遷ノ跡相異ルハ、此一事ノ影響ニ由ルモノ少カラサルナリ、予ガ今
 將ニ論セント欲スルモノハ、三位一體説、上帝ノ性質、聖子ノ地位、聖靈ノ
 性質、處女馬利亞ノ靈驗等ノ争論ニシテ、甲論衰ヘテ、乙議起リ、丙党仆レ

テ、丁派盛ナリ、或ハ奇證ニ據テ勝チ、或ハ鮮血ヲ以テ勝チ、未ダ一人ノ敢
 テ論理ニ據テ、其反對論ヲ肯服セシムル者アラザルナリ、故ニ之ヲ羅馬
 東方、人智錯乱ノ時代ト云フベシ、然レモ諸党ノ均シク相誇稱スルモノ
 一アリ、曰ク、古宗教信心ノ無氣力ナルハ、其容易ニ顛覆セラレタルヲ以
 テ之ヲ知ルベシ、諸神ノ像、靈ナリト雖モ、其危急ノ際ニ當テハ自己ヲス
 ラ能ク之ヲ防グコトナシ、豈亦愍然ノ至リナラズヤト、
 近世ノ學者云ヘル言アリ、曰ク、山壑ノ喬、河海ノ明、嶋灣ノ媚ハ、以テ人ヲ
 シテ自ラ多神教ヲ信セシメ、大沙漠ノ幽、大洋ノ嚴ハ、以テ人ヲシテ獨神
 説ヲ感セシムト、此言大ニ理アルニ似タリ、試ニ看ヨ、多神説ハ歐洲南部
 ノ諸地ニ行ハレ、獨神説ハ專テ閃族(亞細亞ヲ指スナリ、挪亞ノ長ニ蔓
 子閃、亞細亞ニ殖民スト云フ)ニ延セシニアラスヤ、
 帝王ノ政策、耶蘇教ト異教トヲ混同セシヨリ、此混同ハ實ニ兩教ノ軌轢

チ柔ケダリ、古代ノ「オリンパス」(天上)ハ、希臘ノ諸神ヲ退放シテ、忽チ流
 行耶蘇教ノ天堂ト變ゼリ、上帝即チ聖父ハ、白色ノ帝座ニ坐シ、右ニ聖子ア
 リ、左ニ聖靈アリ、聖子ニ次グモノハ誰ゾ、多幸ナル處女馬利亞(即チ耶蘇
 ノ母ナリ)或ハ之ヲ聖母ト稱ス、即チ是レナリ、金繡綾羅其身ヲ包纏シ、珍珠寶玉其体ヲ粧飾
 ス、帝座ヲ圍繞スルモノハ誰ゾ、天使即チ是レナリ、豎琴天樂ヲ奏ス、而ソ
 漸參ノ諸靈ノ如キハ、皆其卓前ニ座シテ、永世不盡ノ宴樂ヲ極ムト云フ、
 若シ世人皆矇昧ニシテ、天堂快樂ノ詳説ハ如何、又常時不變ノ宴樂ハ、果
 シテ能ク人心ヲ樂ムルニ足ルヤヲ、尋究スル能ハズンバ、唯此天堂圖、能
 ク人心ヲ飽足セシムベシト雖也、苟クモ良知良能ヲ有スル人ハ、豈之ヲ
 以テ満足スルヲ得ンヤ、故ニ有識ノ高僧ハ、深ク慨歎ヲ懷キ、常住全能上
 帝ノ爲メニ、大ニ之ヲ痛擧セリ、下文當ニ之ヲ詳説スベシ、
 宗教ノ混同ハ、滔々タル天下皆然ラザルハナシ、故ニ卑涉(ビシヨツ)皆以爲ラク、嘗

テ其配下ニ行ハレタル舊説ヲ主張スルハ、尤モ策ノ得タルモノナリト、
 乃チ埃及人ハ、已ニ其三位一体ノ奇説ヲ起シ、更ニ處女馬利亞拜ノ名義
 チ仮テ、愛西士(埃及女)拜ノ恢復ヲ計レリ、其主唱者ハ、亞勒山德黎亞府
 ノ卑涉(ビシヨツ)即チ法教師長西里爾(拜巴茶女史ヲ虐殺セシ人)即チ是レナリ、之ヲ
 混同耶蘇教黨ノ首魁トナス、
 時ニ安底屋(ビシヨツ)ニ一卑涉(ビシヨツ)アリ、納士德ト名ク、摩波社士(モボ)的ナル第阿度爾ノ理
 學ヲ究メ、又深ク亞里斯度德(アリスト)ノ理論ヲ信シ、之ヲ耶蘇教ニ配合センコト
 ヲ勤ム、第阿多西(セシド)日、揚駕爾帝、舉テ之ヲ君子坦丁府大教師長トナス、(耶蘇
 紀元四百二十七年)納士德(ナスト)以爲ク、滔々タル天下ノ上帝似人説(上帝ヲ人
 類ニ似タ
 ルモノト)ハ、神威ヲ輕賤スルノ尤モ甚シキモノナリ、上帝豈然ランヤト、
 乃チ自ラ威風嚴肅タル新圖ヲ撰ミ、以テ宇宙全能主宰ノ性質トナス、且
 其處女馬利亞拜ヲ駁撃スルコト尤モ甚シトス、嘗テ其一寺院ニ説教スル

ヤ始メニ先ツ上帝ノ性質ヲ詳説シ、忽チコシテ大喝一聲シテ曰ク、夫レ然リ、是クノ如キノ上帝ニシテ、豈聖母アルヲ要セムヤト、其他説教ニ、著書ニ、至ル所必ラズ之ヲ破シ、見ル所必ラズ之レヲ排セリ、其説ニ曰ク、馬利亞ハ眞神ノ聖母コアラズ、唯耶蘇肉体部ノ生母ナルノミ、其肉体部ト神靈部トノ區別アルハ、猶殿堂ト神像トノ異類ナルガ如シト、氏ヲ理學耶蘇教黨ノ首領トナス

此ニ於テ亞勒山德黎亞、君子坦丁兩府ノ僧官、其相容ザルコト氷炭メ如シ、亞勒山德黎亞府ノ僧侶密カニ君子坦丁府ノ僧侶ヲ教唆シテ、聖母ノ爲メニ干戈ヲ弄ハシム、帝王乃チ將ニ公會ヲ以富撒斯ニ招集シ、其處置ヲ議セシメントス、西里爾之ヲ聞キ、大ニ宦官ニ賂ヒ、以テ皇妹ノ歡心ヲ博シ、妄信ノ狂徒數千人ヲ率ヒテ、公會ニ至ル、時ニ西里亞ノ卑涉未ダ來ラス、乃チ其上席ヲ奪ヒ、内外混雜ノ際ニ乘シテ、帝王ノ勅詔ヲ讀過シ去

リテ、一席以テ其勝ヲ制セリ、西里亞ノ卑涉來若スルニ及ンテ、或ハ其不當ヲ唱ヘタリト雖ヒ、更ニ其辨護ヲ許サズ、終ニ納士德ヲ埃及ニ流シ、遂ニ之ヲ害死セシム、其死スルヲ聞クニ及ンテ、乃チ曰ク、彼レ嘗テ不法ノ説ヲナセリ、故ニ其生ヤ小蟲其舌ヲ嚙ミ、其死ヤ猛火其屍ヲ燒クト、納士德及ビ其徒弟ノ説ニ曰ク、聖馬太傳、第壹章ノ末節、并ニ其第十三章五十五節、及ビ五十六節ノ所説ニ據レバ、吾人ハ天堂ニ永世處女ニシテテ、新后ヲ兼ヌルモノアルヲ信ゼザルナリト、其稍理學ノ傾キアルハ、其行爲ニ於テ之ヲ見ルヘシ、其首領（納士德）ヲ云フ、阿弗利加沙漠中ニ窮死スルヤ、徒弟皆由非列底川ノ近傍ニ移住シ、加耳特亞寺院ヲ建立シ、以底撒（米所波太迷亞）ノ市府ニシテ、現時ノオルファ（尼西比士）ノ兩蠻ヲ設立シ、以テ西里亞、亞刺伯、印度、韃靼、支那、埃及等ニ布教スルノ博士ヲ教育ス、該教派ハ、固ヨリ亞里斯度、德理學ヲ尊信スルガ故ニ、該理學ノ大著書ハ、悉トク之ヲ西里亞語ニ

評託教
法於醫
院、彼徒
之要畧

譯シ、或ハ之ヲ波斯語ニ譯セリ、加之、力チ希伯來人ニ協セテ、ヨンドンデサ
ポールノ醫學校ヲ建設シ、之ヲ布教傳道ノ緣トナセリ、故ニ該教派ハ、忽
チ亞細亞大部ニ延布シ、其教區ノ廣濶ナルハ、希臘羅馬兩教ノ總數ニモ
超ヘタリ、嗚呼、説ハ人ト共ニ朽ヤズトハ、其レ此ヲ之レ謂カ、
同教派ガ、一卑涉ヲ亞刺伯ニ得シハ、實ニ吾人ガ記載セザルヲ得ザルノ
要件ナリ、

君子坦丁、亞勒山德黎亞兩府間ノ葛藤ハ、偶、亞細亞西部ニ數教派ヲ布散
シ、彼此相爭ヒ相惡ミ、且ツ嘗テ之ヲ壓虐シタル帝權ヲ敵視シ、其極遂ニ
宗教改革ノ果ヲ現出シ、其影響ハ延テ今日ニ至ラシメタリ、故ニ之ヲ全
世界ノ影響ト云フモ、決シテ謬言ニハアラザルナリ、
讀者チシテ、此一大變動ヲ解シ易カラシメンガ爲ニ、予ハ分テ之ヲ二段
トナシ、當ニ順次ニ之ヲ論ズベシ、一ニハ一時波斯軍ノ爲メニ亞細亞耶

蘇教ノ覆サレシ事、二ニハ亞刺伯人、大ニ之ヲ改革スル事、

第一 亞細亞耶蘇教、一時波斯軍ノ爲メニ覆サル、事、

耶蘇紀元五百九十年、波斯國大ニ乱ル、太子古斯魯西、乱チ費山丁府即坦丁
府ニ逃レ、援ヲ慕來士帝ニ乞フ、帝乃チ兵ヲ遣シテ、亂チ平ケ、之ヲ推シテ
其祖先ノ位ニ即カシム、之ヲ古斯魯西帝ト稱ス、
然レモ此戰勝ハ、以テ慕來士帝ノ其躬ヲ援フニ足ラズ、百長法加士ナル
モノアリ、羅馬兵ヲ以テ之ニ叛キ、歴代ノ帝像ヲ毀テ、帝ヲ其隱所ニ捕ヘ、
現リコ共五皇子ヲ刎剄シ、終ニ亦帝ヲ弑ス、皇后ハ亂ヲ聖索、非亞寺ニ避
ク、暴徒又之ヲ追捕シ、眼前ニ其三皇女ヲ斬リ、最後ニ又皇后ヲ弑セリ、ソ
ノ他ノ皇族、皆刎剄、刎剄、火刑等ニ處セラレ、一人ノ能ク之ニ免ル、
モノナシ、此報一タヒ羅馬ニ達スルヤ、格勒格力法王ハ、歡喜將ニ仆レン
トス、乃チ法加士ヲ卑涉、總長ニ叙シ、且ツ其威力ノ益、其敵ニ加ハラシコ

評、教師
授帝位
之權

トヲ祈レリ、初ノ此亂ノ起ルヤ、君子坦丁府ノ法教師長ハ、彼レニ授クルニ
帝位ヲ以テセリ、蓋シ、人皆疑テ以爲ラク、羣來士帝波斯ニ賂セラレテ、適
實教ヲ信ズ、故ニ帝ヲ市街ニ引廻スヤ、馬爾上教徒ノ一語ヲ大書シタ
ル旗ヲ立テ、之ヲ其刑場ニ護送セリ、法加士羣來士帝及ビ其皇子ノ首
級ヲ齎シテ、之ヲ波斯國王古斯魯西帝ニ贈ル、帝之ヲ正視スル能ハズ、奮
然之ニ復讎スルノ意ヲ決セリ、

阿弗利加ノエキザルチ(官名)希羅危拉士ハ、要路顯官ノ一人ナリ、此凶報

ヲ聽クヤ、怒氣色ニ形ハル、曰ク、咄、費山丁ノ帝位ヲシテ、豈此醜奴ニ汚サ

シムルニ忍ビンヤ、ト、蓋シ法加士ノ人トナリ、短身醜形、狭眉深眼、髮赤ク

シテ、鬚髭ヲ呈セズ、頰ニ疵痕アリ、以テ人ヲシテ戰慄セシム、性無頼ニシ

テ、文事ヲ解セズ、又兵法ヲ諳セズ、唯其能クスル所ハ、鯨飲ノミ、牛食ノミ

然レ、希羅危拉士、齡己ニ老ヒテ、軍事ニ耐ユル能ハズ、是レニ由テ、其子

魁(法加士)殿中ニ捕ヘ、直チニ其首ヲ刎ヌ、

希羅危拉士ヲシテ、加爾錫士ヲ發シ、直チニ君子坦丁府ニ向テ進航セシ

ム、西那多及ヒ僧俗輩ノ不平ヲ暴徒ニ懷クモノ、皆喜ンテ之ニ應ズ、乃チ賊

波斯帝此報ヲ聞キ、其進退ヲ衆議ニ詢ル、適實教ノ僧策ヲ獻シテ曰ク、希

臘人ノ教法ハ正ニアラズ、大王願クハ之ヲ討テ、彼ガ妄信ヲ排ケヨ、ト、帝

乃チ由非列底河ヲ涉リテ、之ヲ擊ツ、偶、叛人ノ之ニ應援スルモノアルニ

因テ、連リニ安底屋、愷撒里亞、大馬士、單ヲ零シテ、遂ニ耶路撒冷ヲ陷レ、基

督ノ廟ヲ焚ク、又君子坦丁府及ビ希禮那府ヲ圍ンテ、其寺院ヲ燒キ、救世

主ノ十字架ハ、奪テ之ヲ波斯ニ輸致ス、寺院ノ莊嚴及ビ寶物ハ、之ヲ奪掠

シ、熱信者が嘗テ寄附集聚シタル聖遺物ハ、之ヲ散布ス、是ニ於テ、埃及皆

波斯國ノ有ニ歸ス、亞勒山德黎亞府ノ法教師長ハ、身ヲ輕舸ニ划シテ、亂

ヲ西波斯士ニ避ク、此時波軍ノ零スル所、阿弗利加海岸ハ、特利波里ニ至

リ、北方ハ小亞細亞一圓ニ及ベリ、而シテ其野營チ君子坦丁府ノ前面ナル

高斯波魯士河邊ニ張ルモノ、大約十年ノ久シキニ及ベリ、

是ニ於テ、希羅危拉士使ヲ遣テ、和ヲ波軍ニ請ハシム、波軍答ヘテ曰ク、予

輩、羅馬帝ガ彼ノ十字架ニ掛リタル神ヲ捨テ、此ノ大陽ヲ拜セザル

ヨリハ、決シテ其和睦ヲ許ササルヘシト、之ヲ久シクシテ後、漸クニシテ

金千「タレント」、銀千「タレント」、生糸千束、匹馬千頭、處女千人ヲ納レテ、之ト

和スルヲ得タリ、

然レモ、后希羅危拉士、波軍ヲ襲テ大ニ之ヲ敗リ、遂ニ之ヲ其本國（波）ニ走

ラシム、希羅危拉士ノ此舉ニ有功ナルハ、實ニ羅馬ノ盛代ニ劣ラサルノ

價アリ、

今希羅危拉士ノ兵零ハ、能ク羅馬ノ領地ヲ恢復シ、能ク其兵制ヲ改革ス

ト雖モ、一損毛ノ終ニ之ヲ恢復シ能ハザルモノアリ、何ツヤ、曰ク、宗教信

仰ノ念ヲ失却セシト是レナリ、蓋シ公衆ノ眼前ニ於テ、彼ノ遺實教徒（波）

人ハ、傍若無人ニモ、別禮顯（波）及士紳（波）加爾不力等ノ聖市ヲ穢シ、其督ノ墳墓

ヲ火キ、寺院ヲ毀テ、無價ノ法寶物ヲ散布シ、遂ニ十字架ヲ運ヒ去リ、以テ

耶蘇教徒ヲ凌辱セシモ、神威ハ終ニ之ヲ罰スルヲ得ザレハナリ、

夫レ西里亞、埃及、小亞細亞等ノ地ハ、古ヨリ奇跡多シトナシ、苟モ之ガ寺

院ニシテ、其奇跡怪談ニ由緒ナキモノハ、之ヲ求ムルモ、殆ント得ヘカラ

ザルノ地ナリ、其レ然リ、故ニ昔時ハ動モスレハ、區々タル瑣事ニモ、奇跡

ヲ現ゼシモノナルニ、此國家危急ノ秋、尤モ奇跡ヲ要スルノ日ニ於テハ、

何等ノ奇跡ヲモ見ルコトナシ、

初メ波斯軍ガ聖市ヲ凌辱スルヤ、東方耶蘇教徒皆以爲ラク、雷電之ヲ撲

地震之ヲ陷レ、全能上帝ノ利劍ハ空中ニ閃メキ、當ニセンナナリ、ブノ酸

狀ヲ再演スヘシト、而シテ遂ニ香トシテ其一事アルナシ、故ニ人民ハ其奇